三重県埋蔵文化財年報19

昭和63年度

1989.3

三重県教育委員会

- 1. この年報は、昭和63年度における県内の埋蔵文化財保護行政と調査の概要をまとめたものである。
- 2. Iの緊急調査現状のうち、2・緊急発掘調査の概要は、それぞれの発掘担当者による。
- 3. 本書の編集は、文化課文化財第一係埋蔵文化財担当においておこなった。

目 次

I	Ξ	上地利用と埋蔵文化財	1
	1.	市町村総合計画(案)等の事前審査	1
	2.	民間企業等の開発計画の事前協議	1
	3.	国の機関等の開発計画の事前協議	4
I	Ħ	里蔵文化財保護体制の強化	12
	1.	埋藏文化財整理所	12
	2.	文化財パトロール	12
	3.	埋藏文化財発掘技術者研修	15
	4.	埋蔵文化財担当者の研修	17
	5.	文化財保護連絡会議	18
I	舅	&急調査の現状	19
	1.	緊急発掘調査	19
	2.	緊急発掘調査の概要	2 3
IV	1	間査結果の公開	4 9
	1.	三重県埋蔵文化財展	4 9
	2.	発掘遺跡現地説明会	5 1
	3.	保管遺物等の貸出し・写真等の掲載許可	5 1
<	付)	>	
	1.	三重県文化財調査員設置要綱	6 2
	2.	昭和63年度三重県文化財調査員一覧表	6 3
	3.	昭和63年度三重県文化財パトロール実施要項	6 5
	4.	昭和63年度埋蔵文化財発掘技術者研修実施要項	68
	5.	文化財保護の指導要項	69

6.	埋蔵文化財関係事務の流れ	7 2
7.	発掘等に関する手続き	7 4
8.	遺跡の発見に関する手続き	77
9.	埋蔵文化財発掘通知 • 届出一覧表	7 9
1 0.	三重県埋蔵文化財認定通知物件	8 3

| 土地利用と埋蔵文化財

1. 市町村総合計画(案)等の事前審査

市町村総合計画及び広域市町村圏計画の策定に際して、埋蔵文化財保護に特に配慮するよう県総務部地方課に指導方を依頼している。その際留意すべき事項は、次のとおりである。

基本構想について、(1) 文化財保護の有無

- (2) 埋蔵文化財包蔵地一覧表等による現状把握の有無
- (3) 遺跡の周知徹底の明記の有無

2. 民間企業等の開発計画の事前協議

民間企業による各種土地開発事業と埋蔵文化財の保護については、関係諸法令要綱等によって取扱い方針が定められている。その具体的な取扱いについては、「文化財保護の指導要項」(『三重県開発事業指導に関する計画設計の技術基準』所収)(P97)及び、昭和55年9月19日付け、教文第520号、三重県教育委員会教育長から各市町村教育委員会教育長宛通知によっている。

事業者は、事業の計画段階で市町村教育委員会へ、計画地内における周知の 遺跡の有無の照会(遺跡地図、遺跡台帳との照合)と現地での遺跡分布調査の 依頼を行う。これを受けて分布調査を実施した市町村教育委員会は、調査結果 を事業者に通知する。埋蔵文化財が確認された場合には、前記文化財保護の指 導要項に基づく保存方法についての協議を行い、そのことを文化財保護措置書 (P98)の形で、事業者から市町村教育委員会教育長へ提出する。

文化財調査報告書及び文化財保護措置書については、県教育委員会へその写 し1部をもって報告することになっている。

〔開発行為に伴う設計協議(土木部)〕

No.	種 別	事 業 者	事業地	事業面積	協議年月日		備考
1	団地造成	附 丸 二	多気郡明和町大字 明星字小迫間	<i>nt</i> 4 0,8 5 7.5	S.	S. 63. 4. 7	工事立会
2	ゴルフ場	㈱ 片田振興	津市片田薬王寺町 志袋久保他	1,582,360	63. 5.10	63. 5.14	
3	"	佛ヤマハ	志摩郡浜島町地内	1,097,727	63. 5.21	63. 5.30	
4	"	(株) ト ー ァ	阿山郡阿山町地内	272546	63. 5.30	63. 6. 3	
5	ウェーブリゾ ートクラブ	休) ウェーブリゾー トクラブ	志摩郡磯部町三ケ 所地内	65,436	63. 6.28	63. 7. 1	
6	工場用地	北勢町長	員弁郡北勢町阿下 喜地内	52634	63. 8. 1	63. 8. 3	
7	"	(株) 高田製鋼所	阿山郡伊賀町川西 地内	27,147	63. 8. 6	63. 8.10	
8	ħ	安濃町長	安芸郡安濃町安濃	15,110	63. 8.10	1216 63 816	
9	住宅団地	纳 生和不動産他	津市髙茶屋小森町 瓦ケ野	35.872	63. 8.15	1227 63 816	
10	工場団地	納 松屋不動産他	一志郡嬉野町天花寺他	230,236	63. 8.20	1251 63. 829	
11	ゴルフ練習場	㈱東海造園土木	鈴鹿市神戸地子町	1 1,9 4 2	63. 8.20	1250 63. 829	
12	朝熊山麓開発	伊勢市長	伊勢市朝熊町地内	961,000	63. 8.27	63. 9. 8	
13	工場増設	辨 八千代工業他	四日市市上海老町 菰野町川北	121,900	63. 831	63. 9. 8	
14	公園墓地	創 価 学 会	一志郡白山町藤他	911,000	63. 9. 6	1334 63. 9. 8	
15	住宅団地	(株) 上野ハウス	上野市小田町平松	13,552	63. 9. 9	1359 63. 9.12	
16	工業団地	久居市土地開発 公社	久居市戸木町下立 石	78,792	63. 9.17	1386 63. 9.24	

No.	種 別	事 業 者	事業地	事業面積	協議年月日		備考
17	リゾートホテル	(株)リゾートトラスト	鳥羽市安楽島町	m² 30,461	S. 63. 9.13	1372 63. 9.27	
18	牧野スポーツ ゴルフ練習場	牧野博文	一志郡 嬉 野町大字 天花寺	18,685	63.11.17	1649 63.11.18	
19	団地造成	(株) 中部開発	松阪市岡本町ほか	377,908	631210	1748 63.12.17	
20	宅 地 造 成	梯中部重機工業	鈴鹿市石薬師町 ほか	26.471	631214	1760 631217	
21	ゴルフ場	㈱ 福王企業	三重郡菰野町田口	343,202	63.12.15	1767 63.12.17	
22	工場	株 八千代工業他	四日市市上海老町 菰野町	111,959	64. 1. 5	12 H.元 19	
23	ゴルフ 場	佛中部開発	三重郡 菰野町神道 谷	1,170,000	H. 元 2.14	239 元 218	
24	ゴルフ練習場	㈱ 松山建工	四日市市下海老町 赤坂	32,863	元 2.15	245 元 218	
25	レストラン工場	(株) 合同建設	上野市治田、予野	251,413	元 2.15	246 元 218	
26	住宅団地	(株)日本開発工業	阿山郡阿山町大字 川合	61,716	元 2.16	368 元 315	
27	工業団地	㈱ 富士工務店	上野市佐那具金神 塚	71,053	元 3.10	393 元 3.15	
28	倉庫・車庫(劫、		鈴鹿市住吉町	59,423	元 3.13	411 元 315	
29	工場用地	名張市土地開発 公社	名張市西田原白土	197,575	元 3.16	434 元 3.24	
30	"	傑 四倉不動産	四日市市大鐘町六 路山	58480	元 3.20	450 元 324	

【大規模土地取引等に関する事前指導要綱に基づく事前協議に対する意見 (地域振興部)】

No.	種	别	事 業 者	事業地	事業面積	協議年月日	備	考
1	ゴル	フ場	㈱富士カントリー 四日市俱楽部	四日市市寺方町寺 方、東谷他	ha 100.1	1		

No.	種 別	事 業 者	事 業 地	事業面積	協議年月日	備考
2	ゴルフ場	㈱信和ゴロ三重	阿山郡阿山町石川 他	4 6.8	63. 5.10	9H増設
3	公園墓地	創 価 学 会	一志郡白山町大字 藤、小杉他	4 8.8	"	増設
4	ゴルフ場	(株) 亀山 開発	亀山市辺法寺町	3 2.	63. 7. 5	9日増設
5	健康管理クラブ		久居市榊原町伊賀 井谷他	8.6		 幹事会より本人 に差し戻し
6	榊 原 温 泉みどりの森	㈱榊原みどりの 森観光開発	久居市 榊原町古井 谷他	2 6.9	63.10. 5	
7	人工ビーチ	(株)ヤマハ	志摩郡浜島町浜島	2.4	63.10.24	
8	工業団地	㈱ 四倉不動産	四日市市大 鐘町 六 路山	5.8	631024	
9	ゴルフ場	(株) ヒラサワ	上野市大滝	112.4	6312 1	
10	"	(株) キャニオン	∥ 西山	6 3.6	6312.1	
11	"	㈱ 京ケ野ゴルフ クラブ	員弁郡北勢町川原	2429	63.12.20	不同意
12	"	株 丹 陽 開 発	三重郡菰野町千草	8 3.4	631220	保留

3. 国の機関等の開発計画の事前協議

文化課では、前年度中あるいは年度当初に開発関係行政機関に対し、事業計画を照会するとともに、埋蔵文化財が事業地内に存在する場合はその保護について当課と十分に協議するよう申し入れをしている。

(1) 農業基盤整備事業等

農業基盤整備事業には、県営圃場整備事業、県営一般農道整備事業、各種 農免道路整備事業等の県が事業主体となるものと、団体営圃場整備事業、団 体営農道整備事業等の市町村が事業主体となるものに分けられる。 中でも圃場整備事業は、事業地が広大な面積(面)に及び、また近年は平野部の整備が終り、山間部へ展開しているため、必然的に遺跡にかかる件数と面積は増加の傾向を示している。

今年度の県営圃場事業を例にとると、当初事業総面積 685 haの中で試掘調査の結果 4 9 遺跡、面積にして約 852370 ㎡もの遺跡が所在することが確認された。これらの結果にもとづき、農村整備課及び各事務所と再三協議を重ね、盛土等の工事対応により遺跡保護に努めた結果、計 3 6 件約 4 3.8 35 ㎡(うち執行委員分 34.7 37 ㎡)の遺跡については削平部分、排水路、道路部分に限りやむをえず発掘調査を実施した。

また、排水路整備事業では、1件約930㎡の発掘調査を実施し、その他県営の農業基盤整備事業では7件約220㎡の試掘調査をはじめ、分布調査を実施した。

調査の実施にあたっては県教育委員会が主体となり、久居市教育委員会等 の協力を得て実施した。

事業 名	農 林 事務所	地 区	事業面 積 ha	遺跡名	所 在 地	調査面積が	備考
	桑名	藤原東部	36	ムギタ遺跡	藤原町川合	212	試掘・立ち合い
				シャゴシ遺跡	"	400	立ち合い
,e		員 弁	55	溜尻遺跡	員弁町大泉	154	試掘・立ち合い
県				五軒屋遺跡	/ 畑新田	384	" • "
営		大安西部	40	中貝戸遺跡	大安町丹生川中	936	〃・ 〃 追加調査
圃	四日市	八風	45	下森永遺跡	菰野町竹成	64	〃 • 工事対応
場整		合 川· 下之庄	39	桑名垣内遺跡	鈴鹿市長法寺町	1,420	本調査(昨年度送り分)
備		1 2 11		加和良神社遗跡	/ 三宅町	1,980	" (")
事			:	加和良1・2号墳	" "	600	〃 (昨年度からの) 継続協議
業				門田遺跡	≠ 徳居町	318	試掘・立ち合い
				東代A遺跡	" "	96	〃 • 工事対応
		·		東代B遺跡	" "	88	" • "

事業名	農 林 事務所	地 区	事業面 積 ha	遺跡名	所 在 地	調査面積が	備	考
				別所遺跡	鈴鹿市三宅町	80	試掘・工具	事対応
				金提遺跡	" "	16	// • 工具	事翌年度送り
				西条遺跡	" "	32	<i>"</i>	"
	津	河芸北部	14	小町遺跡	河芸町久知野	32	// • 工具	事対応
		大 里	5	若 林 遺 跡	津市大里野田	992	// • 苡;	ち合い
		芸濃南部	23	北奥遺跡	芸濃町多門	4,784	/ ・本語	周査
県				椀田遺跡	" "	108	<i>"</i> •	"
		i		下川遺跡	∥ 雲林院	326	// · 立:	ち合い
営		穴倉川沿岸	9	迎山遺跡	安濃町今徳	148	<i>"</i> •	v 追加調査
		美 里中南部	20	西出遺跡	美里村三郷	76	/ • 工	事翌年度送り
圃		久居【	29	前川原遺跡	久居市森	3,272		周査(久居市教 〜 1,300㎡委託)
		// I	23	宝垣内遺跡	〃 稻葉	172		調査(久居市 委の協力)
場		家 城	11	家野遺跡	白山町南家城	1,012	// · 立:	ち合い
				北家城遺跡	/ 北家城	280	// · 工具	事翌年度送り
整		中 郷	10	釜生田遺跡	嬉野町釜生田	4,860	// · 本語	周査
	松阪	堀 坂 川沿 岸	75	伊勢寺遺跡	松阪市伊勢寺町	8,434		〃 (昨年度送 }1,830㎡含む)
備				上相田遺跡	"	1,032	ル・本語	周査
)			鳥戸遺跡	"	1,578	// · 立:	ち合い
				榎 長 遺 跡	"	212	// • 本語	周査
事				伊勢寺廃寺	松阪市伊勢寺町	72	// • 工	事対応
		明 星	16	墨土遺跡	明和町明星	568	/ • 本記	周査
業				本郷遺跡	"	4 0	// • 工具	事翌年度送り
		丹 生	31	若 宮 遺 跡	勢和村丹生	298	// · 立	ち合い
				大川原遺跡	"	1,056	" •	"
				畝ノ上遺跡	"	440		〃 乍年度送り分)
	上 野	柘植川沿岸	16	野田遺跡	伊賀町西ノ沢	88	// • 工具	事対応
				荒打遺跡	"	24	<i>"</i> •	"

事業	農林	,	事業面			1 細木石	<u> </u>
名	事務所	地区	音 精 ha	遺跡名	所 在 地	調査面積が	備 考
				天道遺跡	伊賀町西ノ沢	248	試掘•工事対応
				畔垣内遺跡	〃 御代	554	" • "
		上野北部	22	伊賀国府推 定 地	上野市印代	5,000	本調査
県		1 000 350 400		, ,	I I		- A - A
営		上野東部	56	広見遺跡	/ 下友生	536	試掘・立ち合い
				風呂ノ上遺跡	" "	94	// • //
圃				福地遺跡	/ 中友生	176	// • //
場				東場谷遺跡	" "	194	// • //
整		上野南部 第 2	29	森脇遺跡	/ 市部	4,500	〃 • 本調査
備			i	小泉氏館跡	/ 佐那具	1,136	// •
事		上野南部 第 3	58	古郡氏 /	/ 古郡	24	√ • 工事対応
業				稲田遺跡	" "	408	〃 ・立ち合い
				大北遺跡	〃 下神戸	56	〃 ・工事対応
		赤 目	23	脇ノ田遺跡	名張市赤目町	1,268	〃 ・立ち合い
				脇之田遺跡	" "	64	〃 ・工事対応

事 業 名	事務所	地区	事業内容	遺跡名	所 在 地	調查面積 ㎡	備考
広域営農団地農道 整備事	四日市農林	北勢南部	道路建設	三条遺跡	四日市市和無田町	64	試 掘
県営かんが排水事	松阪農林	津田地区	用 水 路 工 事	山下遺跡	多気町井内林	32	"
県営畜産経営環境 整備事	業	中勢南部	区画整理	柏野遺跡	飯南町柏野	40	"
"	"	"	"	小野遺跡	飯高町田引小田	24	"
"	伊勢農林	度会地区	"	中里遺跡	大宮町永会	32	"
"	"	"	"	中出遺跡	〃 金輪	24	"
"	"	"	"	東沖遺跡	11 11	8	"
県営排水対策 特別事	上野農林	上野南部	排 水 路	稲田遺跡	上野市市部	930	本調査

(2) 道路改良、河川改修等

道路改良事業、河川改良事業にかかる文化財の保護については、その性格 上路線計画段階での調整を要請しているところであるが、大幅な路線変更や 用地問題のため困難な点も多い。最終路線決定後、試掘調査を実施し、その 結果に基づき最小限の範囲について事業に発掘調査を実施している。しかし 路線の決定、用地買収等の事情により工事着手時が未定のものが多く、ほと んど協議中となっている。

本年度実施した発掘調査は、斎宮跡調査事務所等の協力を得て道路関係 4 件、約 7.780 ㎡ の調査を行った。

(土木関係調査遺跡)

事務所	事 業 名	遺跡名	所 在 地	面 積 (㎡)	措置	備考
津	家所•阿漕線	与市垣内遺跡	津市神戸字与市垣内	2,610/2,610	本調査	
松阪	南 藤 原 • 竹川線	斎宮跡	多気郡明和町竹川	1,043/1,400,000	"	
志摩	磯 部 • 大王自転車道	東海道遺跡	志摩郡阿児町国府	3,100/10,000	"	
上 野	川東・佐那具線	天道遺跡	阿山郡伊賀町 西ノ沢	1,020/4,600	"	
鈴鹿	辺 法 寺 加佐登線	長者屋敷	亀山市能豪野町	/ 13,000	立ち合い	工事施行可
四日市	公営住宅団地 建設事業	南かに島遺跡	四日市市赤水町	100/100	"	"
津	片田•井戸線	田中古墳群	津市片田町中町	300∕1,265	試 掘	"
	豊里久居線	小丹古墳	〃 小津部田町	6.5/100	"	"
	国道306号	松脇遺跡	安芸郡河芸町浜田	32⁄ —	"	"
久 居	大谷川改修	上野廃寺	一志郡嬉野町	100/13,500	"	"
松阪	合 ケ 野 ・ 松 阪 線	上相田遺跡	松阪市伊勢寺町 相田	32/1,600	試 掘	要本調査 330 <i>㎡</i>
	"	鳥戸遺跡	〃 〃 鳥戸	128/6,200	"	1,950 <i>m</i> ²
志摩	安乗港線	西殿遺跡(旧御茶子)	志摩郡阿児町国府	64/2,500	"	1,500 m²
上 野	国道368号	川北遺跡	名張市蔵持町	96/3,000	"	工事施行可
	"	四ノ切城跡	" "	49/10,000	"	<i>II</i>

(建設省・道路公団関係調査遺跡)

事業者	事 業 名	遺跡名	所 在 地	面積(m)	措置	備考
建設省	国道一号亀山バイパス建設	大 鼻 遺 跡 堀 越 遺 跡	亀山市太岡寺町 · 椿世町		発掘調査	2 遺跡
日本道路 公 団	近畿自動車道 関・伊勢線建設	鳥居本遺跡ほか	一志郡一志町•嬉野町 地内	17,890	"	7遺跡

土木部関係協議中遺跡(昭和63年度)

(道路建設課)

事務所	路線名	遺跡名	所 在 地	面積m)	
桑名	国道 3 6 5 号	大久保城趾	員弁郡大安町片樋		
	水鄉公園線	殿 名 遺 跡	桑名市長島町殿名	2,600	
四日市	四日市土山線	宮ノ前遺跡	四日市市高角	5,600	
鈴 鹿	亀山(T)石水渓線	安楽A遺跡	亀山市安楽	4,000	
	"	安楽B遺跡	"	} 4,000	
	国道 3 0 6 号	小 下 遺 跡	亀山市小下町	3,600	
	"	東樺野古墳	〃 樺野町	150	
	<i>\(\psi \)</i>	東棒野遺跡	" "	2,500	
	"	高 佐 遺 跡	安芸郡河芸町高佐	2,500	
	国道306号	松陽遺跡	// // 浜田		
	辺法寺加佐登線	長者屋敷遺跡 関連	亀山市能褒野町	不 明	
津	津 関 線	大古曽遺跡	津市一身田大古曽	1,300	
	家所•阿漕線	与 市 垣 内 遺 跡	津市神戸	2,610	
	片田•井戸線	田中古墳群	〃 片田中町	1,265	
	豊里久居線	小 丹 古 墳	/ 小津部田町	100	
	穴倉南神山線	南神山7号墳	安芸郡安濃町南神山	100	
	津芸濃大山田線	北奥遺跡	安芸郡芸濃町多聞	1,0 5 0	
久 居	一志出家線	高 寺 遺 跡	一志郡一志町高野		
	久居美杉線	異 ケ 丘 遺 跡	久居市西鷹跡町	450	
	"	久居城跡	"	1,000	
	丹生寺一志線	中尾東遺跡	一志郡嬉野町中尾	1,000	本調査 1,000 ㎡

事務所	路線名	遺跡名	所 在 地	面積(m)
松阪	松阪第二環状	山室A遺跡	松阪市山室	900
	"	山室B遺臨	<i>"</i>	800
	"	上蛸路A遺跡	松阪市上蛸路町] 500
	"	上蛸路B遺跡	,	500
	合ケ野松阪線	上相田遺跡	松阪市伊勢寺町字荒井	7000
	"	鳥戸遺園	/ / 字西之世古	7,800
	国道 3 6 8 号	朝柄遺跡	多気郡勢和村朝柄	1,000
	伊勢多気線	片倉氏館跡	/ 多気町四神田	1,300
1	"	羽根垣外遺跡	" " "	2,500
	"	西山城坛	" " "	
	南藤原•竹川線	斎 宮 跛	/ 明和町竹川	1,043
伊勢	田丸(T) 斎明線	世古A遺跡	度会郡玉城町世古	1,500
	"	世古B遺跡	" "	1,800
	伊勢大宮線	麻加江遺跡	/ 度会町麻加江	2.500
	伊勢路伊勢線	打越城貿	/ 南勢町伊勢路	500
	伊勢鳥羽ライン 国道167号線	昼河 遺 皺	伊勢市朝熊町昼河	2,400
志摩	安乗港線	国府城贸	阿児町国府	3,600
	"	御茶子遺跡	" "	2,500
	磯 部 ・大王自転車線	東海道遺跡	" "	3,100
	鳥羽磯部線	松尾古墳	鳥羽市松尾町	
	町道阿津里線	阿津里貝場	志摩郡志摩町越賀	1,500
	"	阿津里古墳	" "	
上野	国道 3 6 8 号	横尾遺跡	上野市安場字横尾	1,500
	国道 4 2 2 号	弥 助 窯 🛭	阿山郡伊賀町丸柱	
	町道 上柘植倉部線	北浦遺島	り り 柘植	1,200
	"	惣田遺跡	" " "	1,000
	川東。佐那具線	上川原遺跡	" "	3,000
	"	天道 遺 蟲	り ル 西ノ沢	1,020

事務所	路線名	遺跡名	所 在 地	面積加
	東湯舟甲賀線	藤林長門守城跡	阿山郡阿山町東湯舟	300
	上神戸名張	高賀遺跡(461)	上野市上神戸高賀	
	中村•上野線	風呂ノ上遺跡	〃 下友生字風呂ノ上	1,700
	国道 3 6 8 号	川北遺跡	名張市蔵持町	3,000
	"	四ノ切城跡	" "	10,000

(都市計画課)

事務所	路線名	遺	跡 名	i	所 在 地	面積(m)	
四日市	北勢中央公園 整備	丸 岡	遺跡	他	四日市市西村町	3,300	
津	豊里久居線	蜂	治	城	津市上津部田ヲノ坪	6,200	<u> </u>
久 居	元町考行井戸線	久 扂	城	跡	久居市西鷹跡町		

(砂 防 課)

事務所	事	業	名	遺	跡	名	所	在	地	面積(m)	
桑 名	新	沢	Ш	宇賀神	#社 ī	古墳群	桑名郡多	变町柚	井		

(建築営繕課)

事務所	事 業 名	遺跡名	所 在 地	面積(m)
四日市	公営住宅団地 建設事業	南かに島遺跡	四日市市赤水町	100

(企業庁関係協議中遺跡)

事務所	事 業 名	遺	亦 名	所 在 地	面積(m)
中勢 水道	高野净水場 天日乾燥他 築造工事	孤塚さ	古墳群	一志郡一志町高野字上野	

Ⅱ 埋蔵文化財保護体制の強化

1. 分室•埋蔵文化財整理所

津市、上野市、松阪市、亀山市内及び嬉野町に分室・埋蔵文化財整理所があり出土遺物の収蔵、発掘調査記録類の保管、整理作業及び報告書作成などにあたっている。

○ 藤方分室 津市藤方 2 2 8 3 - 1

(電) 0592-24-4560

ο 埋蔵文化財桜橋整理所

所在地 津市桜橋2丁目

(電) 0592-27-2465

平成元年4月1日より

遺物収納施設

• 埋蔵文化財上野整理所

所在地 上野市丸之内117

(電) 0595-24-0079

○ 中村川埋蔵文化財発掘調査整理所

所在地 一志郡嬉野町川北580

農業技術センター内

(電) 05984-2-4802

o 近畿自動車道埋蔵文化財発掘調査整理所

所在地 松阪市丹生寺町 630

(電) 0598-58-0283

※平成元年度中、玉城町勝田地内に整理所開設予定

o 一般国道1号亀山バイパス埋蔵文化財発掘調査整理所

所在地 亀山市和田町字西野 1278-9

(電) 05958-2-2581

中勢道路埋蔵文化財発掘調査整理所

所在地 津市殿村 5 津市水道局地内

(電) 0592-37-1914

2. 文化財パトロール

昭和63年度の文化財パトロールは、小中高の教員及び民間有識者49名を 三重県文化財調査員として委嘱し、実施した。(設置要綱等P62~67)

(1) 開発計画と文化財パトロール

総パトロール件数 9 7 1 件で、内埋蔵文化財関係は 8 3 3 件である。通常の文化財確認調査に加えて県の開発事業にかかる埋蔵文化財の分布調査を依頼しており、今後とも公共事業地内のパトロールを強化していく予定である。 民間開発事業については、市町村が独自に予定地内の分布調査を実施して

民間開発事業については、中町村が独自に予定地内の分布調査を実施しており、埋文担当者のいない市町村でも保護措置書の提出がふえている。

(2) 文化財の実態確認

文化財パトロールによる新発見遺跡は8件あった。特に松阪、上野管内での新発見が目立ち、その半数は中世城館跡である。これらについては、すでに遺跡カードへの記入がなされているものもあるが、未整理のものについては、早急に台帳等へ記入し、整理したい。

指定文化財に対する巡視件数は138件あった。

昭和63年度文化財パトロール実施件数

	建	造	物	美術工芸品等	史跡・名勝	天然記念物	埋蔵文化財	計
4								
5				1	1	1	20	2 3
6					5	1	3 4	4 0
7					1	2	5 5	5 8
8			4	4	8	13	100	129
9					8	10	7 0	88
10					5	4	21	3 0
11					8	8	104	120
1 2			6	2	3	4	125	140
1			3	2	10	9	138	162
2				2	1	6	103	112
3				1	5		6 3	69
計			13	1 2	5 5	5 8	8 3 3	971

(3) 市町村文化財パトロール

(四日市市文化財パトロール調査員名簿)

氏 名	住	所	郵便番号	電	話	勤	務	先	電	話
岡田 健						四日市市	拉教	等研究所		
桐生定己						西笹川	中教誰	ो		
加田勝敏										
片岡雅章						川越高	校教誰	ÎŪ		
稲垣良二						,	,			
樋尾重雄										
加藤淳次										
田中安一										
辻 直樹						愛知け	と学			
中根真帆						西笹川	中教訓	ì		
宮崎宣光						四日市	北高村	交教諭		
萩 良樹						菰野小	教諭			
田中利秋						西陵中	教諭			

(津市埋蔵文化財パトロール委員名簿)

氏 名	所 属	住	所	電 話(勤務先)
福田和憲	一身田中学校			
川村賀美	"			
阪口兼二	"			
恒河哲人	櫛形小学校			
本多史和	新町 /			
奥山浩良	栗真 /			
斎藤 実	橋北中学校			
池田淳二	南立誠小学校			
森田正美	, "			
清山 健	三重大原始古代史部会			

(菰野町文化財パトロール員)

氏	名	住	所	生年月	日	電	話	番	号	備	考
大塚を	秀樹									桜中	
萩」	曳樹									菰野小	
田中和	利 秋									(四日市) 西陵中
諸岡甸	敢 文									竹永小	
鎌田牙	雕生									八風中	
宮崎宣	直 光									四日市北部	3

3. 埋蔵文化財発掘技術者研修

埋蔵文化財の調査に関する専門的知識と技術の向上を目的とした研修事業は、昭和42年度以来、学校職員を対象として夏期に県外の研究機関に派遣して実施してきた。しかし短期間の研修では不十分であるため、昭和54年度からは研修事業を強化拡大し、県外1~2カ月、県内11~10カ月の1カ年研修を実施している。

昭和63年度研修員

小高 昌久(松阪市立 西部中学校教諭文化課主事併任)
江尻 健(伊勢市立 厚生中学校教諭 ")
堀田 隆長(菰野町立 菰野中学校教諭 ")
小林 秀(三重県立 名張高等学校教諭 ")
平子 弘("四日市四郷高等学校教諭)
豊岡 勇(上野市立 久米小学校教諭)

(昭和63年度研修内容)

月	県	内	研	修		Ų	ļ	外	M	修
4	o 分布調査実習	o遺物実測実習	○研修がイ	ダンス	○室内講義【					
5	o 発掘調査実習(加和良神社遺跡	• 北奧遺跡	• 伊勢	寺遺跡ほか)					
6	0 // (【加和良神社遺跡	• 北奧遺跡	• 斎宮	跡ほか)					
7	0 // ((伊勢寺遺跡・与	市垣内遺跡	• 天道	遺跡ほか)	平城宫				查部
8	0 // (森脇遺跡・加和」	良神社遺跡	• 伊勢	寺遺跡ほか)			"		
9	0 // (勢寺遺跡・	北奧遺	跡ほか)			"		
10	0 // ((釜生田遺跡・森)	協遺跡●伊	賀国庁	跡ほか)			"		
11	0 // ((上相田遺跡・若)	宮遺跡・伊	賀国庁	跡ほか)			"		
12	0 " ((釜生田遺跡・模:	長遺跡・森	脇遺跡	ほか)					
1	0 " ((森脇遺跡・伊賀	国庁跡ほか)						
2	o 報告書作成実習	o 試掘調査実								
3	0 //	○室内講義Ⅰ								

(研修ガイダンス)

月・日	内 容	担	当	場	所
	文化課の事業概要	課長補	佐 蒔田 督	文化課	藤方分室
4 • 4	研修概要	技	師山田 猛猛		"
	研修事務取扱	文 化	振 興 係		"

(室内講義!)

月・日	内 容	担	当	場	所
4 • 4	埋蔵文化財の保護と発掘	第一係長	伊藤克幸	文化課 藤方分室	
4 • 5	測量概説、測量機器の取扱い方	主 査	吉永康夫	"	
"	遺物実測と拓本	主 事	駒田利治	"	
"	図面、写真類の整理・保管	/ 倉田直純		"	
4 • 6	発掘調査の計画立案準備	技 師	新田 洋	"	
"	〃 の実施	"		"	
"	分布調査と試掘調査	"		"	
"	三重県の主要遺跡と遺物	主 幹	伊藤久嗣	"	

(室内講義 [])

月・日	内容	担	当	場所
3 • 6	型式論と編年	技 師	山田 猛	文化課 藤方分室
"	弥生土器	主事	鈴木 克彦	中村川整理所
"	土師器(古墳時代)	主査	吉永 康夫	"
3 • 7	旧石器•縄文	主事	田村 陽一	近畿道 松阪整理所
"	瓦	"	河北 秀実	"
"	土師器(古代~中世)	技 師	新田 洋	"
3 • 8	埴輪	主事	上村 安生	斎宮跡調査事務所
"	官衙遺跡	"	田阪 仁	"
"	施釉陶器(古代)	技 師	泉 雄二	"
3 • 9	須恵器	技 師	山田 猛	文化課 藤方分室
"	施釉陶器(中近世)	主事	駒田 利治	国一 亀山整理所
"	城館	"	浅尾 悟	"
3 • 1 0	山茶	技 師	山田 猛	文化課 藤方分室
"	瓦器	"	"	"

4. 埋蔵文化財担当者の研修

三重県埋蔵文化財担当者会議

県及び市町村の教育委員会に配置されている埋蔵文化財担当者に対する研修 会を2ヶ月毎に開催地を順次交替し、開催した。

この研修会は、市町村教育委員会の担当者全員と県文化課、県斎宮跡調査事務所の若干名が参加し、埋蔵文化財における行政上の諸問題、調査方法等や県及び市町村で実施される調査について情報交換及び討議を行い、埋蔵文化財の研究を推進し、調査の充実を図るために実施した。おもな研修内容は、埋蔵文化財保護実務にかかる行政上の諸問題の討議、研究発表(事例研究)、講演会、調査の方法、結果の検討、遺跡見学等である。

なお、この研修会は昨年度まで行なわれていた、三重県埋蔵文化財担当者会 議と三重県埋蔵文化財調査担当者研修会を一本化し、交互に前者・後者の性格 を持たせて開催したものである。

※ 研修会を兼ねる

<u> </u>					
開	催	日	開催場所		見学先など
第1回	6 3.	4.22 😭	津市吉田山会館	今年度事業計画ほか	
※第2回	6 3.	6.24 (金)	松阪市サンライ フ松阪	「埋蔵文化財整理に関する再検 県教委 倉田直純	村」 松阪市教委整理所 近畿道松阪整理所
				「遺跡発掘調査と地理学」 立命館大学大学院 青木哲也	氏
第3回	6 3.	8.26 金	久居市中央公民 館	集落遺跡等の遺構密度につい	て 伊勢寺遺跡、川原表古 墳群ほか
※第4回	6 3.1	. 0.28 金	名張市役所	「古式土師器について」 県教委 伊藤裕偉	森脇遺跡
				講演会 「出土遺物の化学処理技術に いて」 奈良大学助教授 西山要一氏	つ
第5回	6 3.1	. 2. 2 3 😭	津市勤労者福祉 会館	「松阪市岡本古墳群の近況に いて」 松阪市教委 西田尚史氏	つ 中勢道路関係遺跡
※第6回平	成元年	三2. 3 金金	鈴鹿市文化会館	講演会 「我国における年輪年代測定 について」 奈良国立文化財研究所 光谷拓実	財展

5. 文化財保護連絡会議

(1) 趣 旨

本県内において行われる住宅造成、農業基盤整備、道路建設等の開発事業 にかかる埋蔵文化財の取り扱いに関する連絡を強化し、事前協議等における 文化財の確認、事務を円滑に行い、文化財保護の充実を図る。

(2) 昭和63年度文化財保護連絡会議

・開催日

教育事務所	開 催	日	時	場	所
北勢	5月 9日(月)	13:30	~16:30	県四日市庁舎5階第1	0会議室
中 勢	4月26日(火)	11:11	~":"	吉田山会館真珠間	
松 阪	5月16日(月)	":"	~ " : "	県松阪庁舎3階第3会記	養室
南勢志摩	5月17日(火)	":"	~":"	県伊勢庁舎3階大会議会	ž
上 野	5月12日(木)	":"	~ " : "	県上野分庁舎大会議室	
尾鷲・熊野	5月13日(金)	":"	~ " : "	県熊野庁舎 5 階第 9 会割	養室

• 協議内容

- ① 文化財保護の概要
- ② 開発にかかる埋蔵文化財の取り扱いについて
- ③ 各種開発事業計画と埋蔵文化財 (県及び市町村)
- ④ その他

•出席者

各県民局、各農林事務所、各土木事務所、各教育事務所 各市町村開発関係課 各市町村教育委員会 県教育委員会

■緊急調査の現状

1. 緊急発掘調査

本年度は県教育委員会が主体となって実施したものは52件、市町村教育委員会が主体のもの40件、遺跡調査会が主体のもの14件で、総数106件の発掘調査があった。今年度も圧倒的に公共事業によるものが多い。調査体制、出土品の整理・収蔵・保管などについては多くの問題を抱えている。

(※ 国・県費補助事業)

遺跡名	所 在 地	原 因	調査主体	費用負担
桑名城跡	桑名市吉之丸	公園造成	市教委	त्रं
ムギタ遺跡	員弁郡藤原町川合	県 営 圃 場 整 備	県 教 委	具 農 林水産部
シャゴジ遺跡	" " "	"	"	"
2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		"	,,	,,
五軒屋遺跡	ル ル 畑新田	,	"	"
中貝戸遺跡		<i>"</i>	"	"
前山遺跡	四日市市西松本町	宅 地 造 成	市教委	事業者
宮の西遺跡	〃 中川原	"	市遺跡調査会	"
観音寺遺跡	〃 垂坂字高山	特別養護老人ホーム 建設	市教委	市
馬溝・城下遺跡	〃 字馬溝・城下	団体営圃場整備	"	"
赤堀城跡	∥ 城東町	事務所建設	市遺跡調査会	事業者
縄 生 廃 寺	三重郡朝日町縄生字中谷	遺跡範囲確認調査	町教委	町 ※
伊勢国分寺跡	鈴鹿市国分町堂跡·西谷	"	市教委	市 ※
久保田遺跡	〃 高岡町	団体営圃場整備	市遺跡調査会	"
蛸田古墳	// 木田町	"	"	"
一反通遺跡	〃 上野町壱反通	農道建設	"	"
桑名垣内遺跡	/ 長法寺町字桑名垣内	県 営 圃 場 整 備	県 教 委	(県農林水産部※ 県教育委員会※
加和良神社遺跡	〃 三宅町西条	"	"	"
加和良1~2号墳	<i>II</i>	"	"	"
門田遺跡	〃 徳居町門田	"	"	県農林水産部
走り下遺跡	亀山市大岡寺町北谷・関町会 下走り下	工業団地造成	市教委	市

遺跡名	所 在 地	原 因	調査主体	費用負担
光於堂遺跡	亀山市中庄町光於堂	小学校建設	市教委	市
沢 遺 跡	/ 山下町沢	宅 地 造 成	"	事業者
柴戸遺跡	/ 栄町柴戸	公 園 造 成	"	市
大鼻遺跡	/ 太岡寺町	一般国道1号線亀山 バイパス建設	県 教 委	建設省
堀 越 遺 跡	〃 椿世町	"	"	"
北奥遺跡	安芸郡芸濃町多門	県 営 圃 場 整 備	"	(県農林水産部 ※ 県教育委員会 ※
椀 田 遺 跡	" "	"	"	"
下川遺跡	〃 〃 雲林院	"	"	県農林水産部
迎山遺跡	/ 安濃町今徳	"	"	"
若 林 遺 跡	津市大里野田	"	"	"
渋 見 砦 跡	〃 渋見町字城	遺跡範囲確認調査	市教委	市
上津部田城址	〃 一身田上津部田字ハノ坪	道路 建設	上津部田城址 発掘調査団	市
太田遺跡	〃 長岡町太田	一般国道 23 号線中 勢バイパス建設	県 教 委	建設省
森山東遺跡	〃 〃 宮ノ前	"	"	"
メクサ3号墳	〃 分部字前田	学 校 建 設	市教委	市
与市垣内遺跡	/ 神戸字与市垣内	県道 家所・阿漕線	県 教 委	県土木部
宝垣内遺跡	久居市七栗字宝垣内	県営圃場整備	市教委	県農林水産部
前川原遺跡	/ / 字前川原	"	"	"
家 野 遺 跡	一志郡白山町南家城	"	県 教 委	"
宮ノ下遺跡	/ 一志町其倉	宅 地 造 成	町教委	事業者
鳥居本遺跡	″ ″ 小山	近畿自動車道(久居 ~勢和間)建設	県 教 委	日本道路公団
ビハノ谷遺跡	/ 嬉野町薬王寺	"	"	"
天保古墳群	り り 島田	"	"	"
西野 7 号墳	〃 〃 天花寺	"	"	"
西野•北広遺跡	" "	"	"	"
堀之内遺跡	〃 〃 薬王寺	"	"	(F) other bill by where where
釜生田遺跡	〃 〃 釜生田	県 営 圃 場 整 備	"	(県農林水産部 県教育委員会
川原表古墳群	松阪市岡本町・藤ノ木町・丹生寺町	団 地 造 成	市教委	事業者
常光坊谷古墳群	"	"	"	. //
大分山古墳群	"	"	"	"

遺跡名	所 在 地	原 因	調査主体	費用負担
狼谷古墳	松阪市岡本町・藤ノ木町・丹生寺町	団 地 造 成	市教委	事業者
弥 三 郎 新 畑 l	"	"	"	"
追上遺跡	"	"	"	"
伊勢寺遺跡	松阪市伊勢寺町北浦 • 寺北	県 営 圃 場 整 備	県 教 委	(県農林水産部 、県教育委員会
上相田遺跡	// // 相田	"	"	"
榎 長 遺 跡	ル ル 復長	"	"	"
鳥戸遺跡	ル ル 鳥戸	"	"	県農林水産部
露 越 遺 跡	多気郡明和町竹川	宅 地 造 成	Ħſ	事業者
戸峰古墳群	〃 〃 池村字戸峰	山 土 採 取	"	
東垣外古墳群	/ / 坂本字東垣外	学 校 建 設	"	町
斎 宮 跡	ル ル 斎宮	重要遺跡確認	県 教 委	県教育委員会 ※
"	" "	史跡現状変更	町	町 ※
"	" " 竹川	県道 南藤原竹川線	"	県土木部
黒 土 遺 跡	ル ル 明星字黒土	県 営 圃 場 整 備	県 教 委	(県農林水産部 県教育委員会※
若宮 遺跡	ク 勢和村丹生字若宮	"	"	県農林水産部
大川原遺跡	" "	"	"	"
畝ノ上遺跡	" "	"	"	"
石神南遺跡	〃 〃 色太字石神	製材所造成	町	事業者
牛バサマ B遺跡	〃 多気町野中字ナルコ	近畿自動車道(勢和 ~伊勢間)建設	県 教 委	日本道路公団
浦ノ内遺跡	度会郡玉城町積良浦ノ内	"	"	"
田丸城跡	〃 〃 田丸	遺跡範囲確認調査	町教委	町
中里遺跡	/ 大宮町永会	県営畜産経営環境整備	県 教 委	県農林水産部
上通り遺跡	伊勢市上地町上中野	宅 地 造 成	市教委	事業者
朝熊山北麓	〃 朝熊町東谷ほか	観光文化施設造成	"	市
桶子遺跡	〃 中村町字桶子ほか	宅 地 造 成	"	事業者
佐八藤波遺跡	/ 佐八町字藤波	小 学 校 建 設	"	市
車塚2号墳	/ 藤里町字丸山	市道 宮本1号線改良事業	"	"
桜木古墳推定地	/ 朝熊町字桜木	中電鉄塔工事	"	事業者
小御堂前遺跡	/ 磯町字小御堂前	小学校プール建設	"	市
木津遺跡	志摩郡磯部町迫間ほか	宅 地 造 成	町教委	事業者

遺跡名	所 在 地	原	朝査主体	費用負担
東海道遺跡	志摩郡阿児町国府字東海道	サイクリング道建設	県 教 委	県土木部
無名塚	/ 大王町波切	宅 地 造 成	町教委	事業者
楊枝遺跡	南牟婁郡紀和町楊枝	遺跡範囲確認調査	町教委	町
長楽山遺跡	上野市西明寺字長楽山	厚生年金施設	市遺跡調査会	市
西明寺遺跡	ルルほか	火 葬 場 建 設	"	तं
森脇遺跡	〃 市部字森脇ほか	市道建設	"	"
三反田遺跡	〃 佐那具町三反田ほか	工場建設	"	事業者
御墓山古墳東接地	〃 〃 天王下ほか	開発の可能性	"	"
伊賀国府推定地	〃 印代	県 営 圃 場 整 備	県 教 委	(県農林水産部※ 県教育委員会※
広見遺跡	〃 下友生	"	"	県農林水産部
風呂ノ上遺跡	" "	"	"	"
福地遺跡	/ 中友生	"	"	"
東場谷遺跡	" "	"	"	"
西場谷A遺跡	〃 〃 字西場谷	"	"	"
森脇遺跡	ル 市部字森脇	"	"	(県農林水産部※ 県教育委員会※
小泉氏館跡	〃 依那具字西田	"	"	"
稲田遺跡	〃 古郡字東城	"	"	県農林水産部
"	" "	県営排水対策 特別 事業	"	"
奧小波田古墳群	〃 下友生奥小波田ほか	宅 地 造 成	市遺跡調査会	事業者
畔垣内遺跡	阿山郡伊賀町御代	県営圃場整備	"	県農林水産部
霊山地区遺跡	〃 〃 下柘植字道山	遺跡範囲確認調査	町教委	町
天道遺跡	ル ル 西ノ沢字天道	県道 川東佐那具線	県 教 委	県土木部
奥弁天4号墳 源六谷1号墳	ル 阿山町円徳院字奥弁天 ほか	ゴルフ場造成	市遺跡調査会	事業者
野台古墳群	/ 大山田村平田字野台	団体営農道整備	村教委	町
脇ノ田遺跡	名張市赤目町字脇ノ田	県 営 圃 場 整 備	県 教 委	県農林水産部

2. 緊急発掘調査の概要(※印は国庫・県費補助事業)

シュイジ機	県営圃場整備事業	県	教 委	S 6 3 1 0.3	400
2 7 3 9 4	从吕圆杨蛇湘争未	(服部	芳人)	~1 0.4	400 m

シャゴジ塚は、員弁川上流左岸の河岸段丘上に位置する。ムギタ遺跡の南約500 mの場所にあり、ちょうど間に県道時下野尻線がはしる。塚の周囲は水田である。この塚は、礫によって形成されたもので、水田の開墾によって形状は変形しているが、現状で径約16 m・高80 cmの規模を測る。幅2 mの調査溝を十字形に設定して調査を行なった。この結果、この塚は、黒色土(黒ボク)と人頭大以下の礫によって形成されており、礫層中より中・近世陶器が出土した。遺物には、13世紀代の山茶椀から16世紀代の天目椀・常滑の甕などがみられる。また、礫層の下、黄褐色レキの地山になるが、塚の中央やや北寄りで、土坑1基を検出した。遺物は含まれておらず、この塚との関連は定かでない。近世以降に成立したものであることは明らかであるが、意図的築造物か否かは、決し難い。塚の北、日内地区と南の川合地区の境界に位置することから考え、塞ノ神信仰に関係するものと思われる。

ムギタ遺跡 県営圃場整備事業	県 (服:a	教 邹 芳	委 人)	S 6 3.	1 0. 7	180 m²
----------------	-----------	----------	---------	--------	--------	--------

ムギタ遺跡は、員弁川とその支流である相場川とにはさまれた南向きにのびる台地の縁辺に位置する。標高は約120 m、すぐ北に流れる相場川との比高差は約20mあり、現在は雑木におおわれているが、眺望のきく場所であったと想定される。今回の調査は、排水路にあたる部分が削平をうけるため、幅3 m、東西長35m、南北長24mのL字状のトレンチを設定して行なわれた。現地表より60~70cm下で黄褐色の砂利層となり、その面で約60cm径の土坑10数基を検出した。埋土は黒褐色を呈するが、遺物を全く含んでおらず、時期の確定はできない。その他包含層遺物も全く皆無である。今回の調査区の西側で試掘を行なった結果、山茶椀数点を出土しており、遺跡の範囲は西側にひろがっている可能性が考えられる。

340 i	元 遺跡	具 営圃 場 整 備 事 業	県 (服部	教 委	S631011 ~1012	90 m²
-------	------	----------------	----------	-----	------------------	-------

溜尻遺跡は、員弁川の支流戸上川の上流左岸の低丘陵上に位置する。分布調査及び試掘調査の結果、密度は希薄であったが南北約10 m・東西約70 mの範囲が遺跡であろうと推定された。この遺跡範囲の西側部分約500 ㎡が削平されるため、この部分に幅18 m、長さ50 mのトレンチを南北方向にまず設定した。この結地、現地表下60~70 cmで黄褐色の粘質土(砂利混じり)になり、その間に明確な包含層、遺構は検出されなかった。遺物についても調査区内ではほとんどなく、東側の丘陵に近い部分に遺跡の中心があるものと予想される。

ф	8	百		0±	県 営 圃 場 整 備 事 業	県	教	委	863830	480 m²
+	只	μ.	遺	ROT.	异鸟圆物蛇佩争杀	(服部	5、田中	(久)	~9.2	400 111

中貝戸遺跡は、員弁川支流の青川右岸段丘上に位置する。現況は三岐鉄道「丹生川」駅南西にひろがる水田及び畑地である。今回の調査は水路部分についてのみ行ったものである。主な遺構として、2間×3間の掘立柱建物1棟、土坑、ビットなどである。なかでも調査区東端で検出した土坑は、径

3.5 m、深さ50cmで埋土中より、鎌倉時代のものと考えられる山茶椀とともに、フィゴ羽口、鉄滓、焼けた石などが出土し、製鉄に関わる遺構であろうと考えられる。

五軒屋遺跡	具営圃場整備事業	県 (服:	教	—— 委 人)	S 6 3.1 0.1 1 ~1 0.1 2	1 2 0 m²
1			. ,,,	•		

五軒屋遺跡は、溜尻遺跡の南西約500 mに位置する遺跡である。分布調査の結果、遺物の散布はまばらであったが、試掘調査を行ない事業地内南西隅の排水路部分で土師器を出土した。今回特にこの排水路部分だけ工事立ち合い調査を行ない、東西方向にはしる幅40cm程の溝1条を検出した。この溝の北側で、平行に落ち込みを確認したが、溝とともに遺物はなく時期の確定はできない。

4 * w c 縄生廃寺跡 ※ 縄生廃寺跡緊急調査	朝 日 町 教 委 S63.9.26 (早川 裕己) ~12.22	1 5 0 m²
-------------------------------------	--------------------------------------	----------

昭和61年度の調査で7世紀末頃創建と考えられる塔跡を検出した。そこで他の建築物や寺城の確認 調査を実施するために本年度を初年度とする三年計画の範囲確認調査を実施することとなった。

昭和63年度の調査は、塔跡の東に1ケ所、北に2ケ所、幅3 m・延長50mのトレンチ調査を実施した。

調査の結果、塔跡のすぐ北のトレンチで斜距離約7 m、現存層厚約50cmの版築を確認することができた。全体規模、性格等は現時点では不明である。

主な出土遺物には、平瓦片11袋(土のう袋)、須恵器杯蓋(8世紀)、少量の土師器片、近世陶磁器片がある。調査指導委員会の指導を得て、次年度以降も周囲へトレンテ調査を広げる予定である。

									四日市市遺跡調査会	S 6 3.3.2	
宮	の	西	遺	跡	住	宅	建	設	(春日井 恒)	~4.2	454 m²

近畿日本鉄道湯の山線中川原駅の東に所在する。三滝川と鹿化川の沖積作用によって形成された標高3m~6m程の低地に営まれた遺跡である。

周辺には弥生時代から中世に至る遺跡が数多く所在しており、宮の西遺跡の北東約 400 m、現在の市立四日市病院の所には昭和51・53年に発掘調査を行った小判田遺跡が所在している。

調査では、時期不明の畦状遺構と非常に浅い溝の他ピットが検出された。また、遺物は、弥生から中世に至る土器、砥石、土錘、木製品等が出土した。これらの遺物の中で特に多かったものは、平安時代から鎌倉時代に至る土器である。その他の時期の遺物は、この中に混在した状況で出土している。

(春日井 恒)	観	音	寺	跡	老人	ホーム建設	四日市市教委 (春日井 恒)	S 6 3. 2. 2 6	1 1 2 m²
---------	---	---	---	---	----	-------	----------------	---------------	----------

遺跡は、米洗川左岸に位置し、対岸の台地には大膳寺跡が所在する。開発協議のため4m×4mの 試掘坑を7ヵ所設定し、調査を行ったが、遺構・遺物ともに確認されなかった。

前 山 遺 跡 共同住宅 建設	四日市市教委 (春日井 恒) S631215	88 m²
-----------------	---------------------------	-------

三穐川右岸の標高 $10m\sim15m$ 程の水田地帯に広がる遺跡で、弥生時代の遺物が確認されている。 開発協議のため $2m\times4m$ の試掘坑を11ヵ所設定し、調査を行ったが、遺構・遺物ともに確認されなかった。

鳥溝遺跡・城下遺跡 団体営ほ場整備事業	四日市市教委(春日井恒・上垣幸徳)	S 6 3.1 0. 7	40 m²
----------------------------	-------------------	--------------	-------

朝明川左岸の水田地帯に所在する。事業地内の分布調査により、石鏃・土師器・須恵器・山茶碗等の遺物が散布することを確認したため、排水路部分と道路部分について、2 m×4 mの試掘坑を設定し、調査を行った。耕作土・床土の下は、砂礫土層が続くだけで遺構・遺物は確認されなかった。

伊勢国分寺跡※ 寺 域 確 認 調 査	鈴 鹿 市 教 委 (中森成行·新田)	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
---------------------	------------------------	---

伊勢国分寺跡は、大正11年に国の史跡指定を受けたあと、考古学調査は実施されたことはなく、寺域や伽藍配置が不明のまま今日に至ってきた。史跡周辺は、畑地から水田への地目変更等による現状変更が進むことから、昭和63年度から約3か年の計画により、寺域確認調査を実施することになった。昭和63年度調査は、指定区域外に幅4mのトレンチを3本設定し、そのうち、北西隅のトレンチから、国分寺の西の境を区画する、幅3.5~4mの築地跡が確認され、その内と外に掘られた溝には、多数の瓦が埋もれていた。また、築地跡の外側からも、四面に庇を持つ大型の掘立柱建物跡や、かまどの袖に瓦を使用した竪穴住居跡も検出されている。前者からは、9~10世紀の灰釉陶器、後者からは8~9世紀の須恵器が出土している。

ا ئ	反	ž*9 通	遺	跡	農	道	建	設	I	事	鈴鹿市遺跡調査会 (新田剛)	H. 1.	1.17 3.20	380 m²

鈴鹿川とその支流我入坊川に挟まれた舌状台地上に位置する。当遺跡は以前より縄文時代から中世までの遺跡として知られてきたほか、玉造関連遺物が採集された遺跡としても注目されてきた。

調査は農道部分についてのみ実施した。基本層序は地表より耕作土5 cm、暗褐色土10cm、褐色土(以下地山)に分かれ、褐色土上面にて遺構確認を行なった。その結果、弥生時代の土坻多数と溝5条が検出された。これらの溝のうち幅15~2 m、深さ約0.8 mのもの2条は、発掘区外において繋がる同一溝であると考えられる。この溝からは弥生時代後期の土器が整理箱に約30箱、突線鈕式銅鐸の鰭下端部分1点、磨製石鏃1点、打製短剣ないし石槍と呼ばれるサヌカイト製尖頭器1点、石錐1点などが出土している。

溝の性格等は、発掘区が狭隘なため明らかにしえないが、今回の発掘区が台地の北縁に偏っている ことから、遺構・遺物の分布はさらに南に広がっていることが予想される。

その他に弥生時代前期~中期の土器や銅鐸形土製品などが出土している。

蛸	田	古	墳	団体営圃場整備事業	鈴鹿市遺跡調査会 (新田 剛)	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	450 m²
l .					(1) 124 733 7		

蛸田古墳は鈴鹿川の支流浪瀬川左岸の台地上に位置する。周辺の古墳としては小さな谷を挟んだ東隣の台地上に国分狐塚古墳群があり、浪瀬川を 700 m程遡った台地上には大谷古墳がある。なお、里人の話によれば、かっては浪瀬川をさらに遡った自由が丘団地付近にも数基存在したらしい。

当古墳は後世の開墾、土取り等によって大きく原形を損なっていたが、調査の結果幅 2~4 mの周溝を方形にめぐらせる一辺15 mの方墳であることが判った。中央には南に開口するほりかた幅 3 mの横穴式石室の痕跡を留め、さらに石室から周溝を突き抜けて、南へ延びる幅 1 m長き 9 m以上の墓道が検出された。石室ほりかたの長軸及び周溝は磁南北に対してほぼ平行に造られている。石室ほりかた内の機乱土中からは7世紀中葉の須恵器杯が数点出土している。

桑名垣内遺跡※	県 営 圃 場 整 備 事 業	県 教 委	S 6 3.	5.16	1,400 m²
~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~	71. [2] [M] 33 IE 111 3 710	(服部方、堀田隆長)	~	0.4	

桑名垣内遺跡は、中ノ川左岸、標高20mの河岸段丘上に位置する。調査地は、昨年同様A地点とB地点に分かれており、ともに東接して行なわれた。耕作土の下、約10数cmですぐ黄褐色の地山面となる。A地点では、奈良時代~平安時代にかけてと思われる掘立柱建物(2×3間)1棟・竪穴住居らしき遺構1基、時期不明の溝3条が検出された。また、B地点では、古墳時代後期の竪穴住居2棟・中世の掘立柱建物2棟・時期不明の溝5条が検出された。両地点ともに遺物は極めて少ないが、古墳時代の須恵器壷・杯身・杯蓋・緑釉片・山茶椀などが出土した。

加和良神社遺跡	県 営 圃 場 整 備 事 業	県 教 委 (服部芳、堀田隆長)	S 6 3. 6. 6 ~ 8. 3	1,980 m²
---------	-----------------	------------------	-----------------------	----------

加和良1号墳	県 営 圃 場 整 備 事 業	県 教 委	S 6 3. 7. 6	600 m²
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		(服部・中嶋・堀田)	l ~ 9.22 l	000 ///

加和良1・2号墳は、加和良神社遺跡の所在する丘陵の南東端に位置する。北側が1号墳、南側が2号墳である。1号墳は径約18mの円墳であり、主体部は木棺直葬で東西方向に3基検出された。北から第1主体、第2主体、第3主体と仮称し調査を行なった。第2・第3主体は、南側からの盗掘を受け中央部は破壊されていた。第1主体の墓址は全長約5.2m、幅約1m、深さ約0.3mで長方形のプランをもつ。墓址内に納められた木棺は周囲に残っていた粘土の状況から全長約3.6m、幅約0.7mの規模と推定できる。西側小口の上面では、須恵器の杯身、杯蓋2組が並んで出土した。また、木棺内東側部分では、須恵器の高杯、提瓶、杯身、杯蓋、土師器の小型台付壷などがかたまって見つかり、その一群の下からは鏡板、辻金具など馬具も出土している。第2主体では西側小口部分で鉄鏃が80数本、第3主体では切子玉、小玉など約150個、鉄刀が出土した。6世紀中頃の築造と思われる

加和良2号	墳	県 営 圃 場 整 備 事 業	県 教 委 (服部•中嶋•堀田)	S 6 3.	7. 6 9.2 2	600 m²

2号墳は、北側を後世の土取り、中央部は戦時中の防空壕のための陥没と、遺存度は極めて悪い状態であった。ただ東西方向は残りもよく、規模は径約20mの円墳であろうと思われる。調査の結果、東西方向に主軸をもつ木棺直葬が2基検出された。北側の主体部からは碧玉製の管玉・小玉が10数個が出土し、南側主体からは、須恵器の杯蓋が2個出土したにとどまる。

7 5	田道	计跳	県営圃場整備事業	県 (服)	教部•堀	— 委 田)	S 6 3.	9.26 9.27	230 m²
------------	----	----	----------	----------	------	--------------	--------	--------------	--------

門田遺跡は、中ノ川中流右岸、徳居古窯跡の所在する丘陵の北隅に位置する。中ノ川をはさんで対岸の北西丘陵上には、加和良神社遺跡、桑名垣内遺跡・加和良古墳など数多くの遺跡が存在し、古くから開けた地域である。今回調査した部分は、周知の遺跡の北東隅にあたり、南からのびる丘陵の先端より一段低い所である。計画排水路に沿って東西方向にトレンチを設定し調査を行なったが、地表より約1~12m下でレキ層に混じった状態で遺物が出土した。遺物は、古墳時代の杯身、廖から山茶椀・15世紀代の常滑焼の甕など各時代にわたっている。明確な遺構は検出されず、本遺跡の中心は南西の丘陵上に所在する可能性がある。

集 戸 遺 跡 公 園 造 成 工 事 <mark>亀 山 市 教 委</mark> S63. 9. 1 7.8

椋川右岸の標高約45mの段丘上に所在する。昨年度の調査区(C・D区)の西側隣接地である(A・B・C区)A区は、円墳8、帆立貝式前方後円墳1、竪穴住居14を検出した。円墳は径10~15m程でいずれも周溝を有するが墳丘は後世の開墾時に削平を受けており残存していない。又周溝内には埋葬主体がある。帆立貝式前方後円墳は全長25m程と推定され、周溝から、円筒、家形・人物埴輪・須恵器大甕が出土しているがいずれも転落したものと思われ原位置は留めていない。これらの古墳群は家族墓的な様相を呈し、首長豪族に従属する有力農民層の墓地と思われる。なお、これらは5世紀末~6世紀中葉の築造と考えられる。住居跡は5世紀前半~中葉にかけてのものであるが、多数の土師器が出土しており、中には少数ながら多面に「タタキ」を有するものも見られ、周辺地域との関連が考えられる。C区は昨年に同じく、掘立柱建物(2×3間)の他は特に目立ったものは見られなかった。

中の川右岸の標高約60mの段丘上に所在する。遺物は古墳〜近世にかけてのものが見られるが、遺構の大部分は近世のものである。しかし乍ら掘立柱建物(1×2間)の柱穴から山茶碗が出土しており、中世に集落の存在した可能性をうかがわせる。井戸は18世紀代のものと考えられ、木杭列と共に江戸後期頃に水田化された際に埋められたのであろう。古墳時代の遺物としては土師器甕・須恵器杯身が出土しているが、出土地点に接して焼土が見られ住居跡等が存在した可能性もありうる。これらの他には緑釉把手付水注の破片、青磁片等も出土しているが全体に遺物量は多くない。地元ではかってこの地に寺院があったとの伝承があるが、これに関係すると思われるものは見られなかった。

走り下城跡 関・亀山名阪工業団地造成 (亀山 降) S63 4.9 9,800 m

鈴鹿川左岸の標高約 110 mの台地上に所在し小野城跡とは谷を隔てて北側に位置する。事前調査で土塁・堀が発見されていたが、発掘調査においてこの他に特に遺構は見られず、遺物も皆無に近い。従ってこの城跡は普段は誰も生活していなかった場所であることがうかがえる。土塁は、東端・中央部・西側の 3 ケ所があるが、概ね高さ15 m、巾 2 m程度ですべて東側からの進攻に備えたものである。中央部の土塁は約20 m四方に廻るが郭を形成するものではない。小野城に面した南側の突出部には掘切状の溝が存在する。遺物は、石硯・土師質土器皿・山茶碗の破片が数点見られるだけであるが、弥生中期土器片・サヌカイト剝片も出土している。この城跡は単独で存在するものと言うよりも小野城の背後を防禦するための堡塁的な性格を持つものと推測される。詳細な時期は不明である。

 大 鼻 遺 跡
 一般国道1号 亀山バイパス建設事業
 県教委(駒田・浅尾 悟・森川幸雄・近藤)
 S63. 5. 9 ~H1. 2.28

主な遺構はA地区(6,300㎡)で、弥生時代中期の方形周溝墓2基、古墳時代後期~奈良時代の竪穴住居22棟、鎌倉時代の掘立柱建物4棟、中世墓4基、B地区(5,000㎡)で、古墳時代後期の竪穴住居20棟、鎌倉・室町時代の掘立柱建物2棟以上、井戸5基(素掘3、石組2)、池状遺構がある。特に古墳時代後期の竪穴住居は集中しており、この時代の大集落跡であることが確認された。中には、馬蹄形に並ぶ一群も見られる。

特筆すべき出土遺物は、A地区竪穴住居より出土した滑石製の子持勾玉がある。長さ8cm、幅5cm、厚き25cmで、頭部に25mmの円孔があり、尾部は筒状になる。背部に4個の小勾玉と1個の円形突起、腹部に1個の小勾玉、片面に3個の円形突起、裏面に3個の小勾玉がつく。また、埋土のフルイ掛けの結果、多くの竪穴住居から、滑石製の臼玉が出土している。

堀	越	遺	跡	一般国道1号 亀山バイパス建設事業	県 (駒田	教 利治 · 近 i	委 篠健)	S 6 3.1 1. ~ 12	1 2	1,900 m²

堀越遺跡は亀山市椿世町の集落の東西、椋川東方の標高約40m程の段丘上に広がっている。遺跡面 積は約4,700mと推定されるが、今回は第2次調査として1,900m発掘調査しました。

出土遺物は、山茶碗、土師器羽釜、常滑甕等で第1次と同様に鎌倉時代末から室町時代にかけてのものが中心である。

北 臭 遺 跡 ※ 県営圃場整備事業	県 教 委 (宮田・小林秀)	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
--------------------	-------------------	---

本遺跡は、安濃川中流右岸に位置し、多門集落の北西200mにある。遺跡は後背丘陵地より安濃川に注ぐ小支流によって形成された扇状地の扇端部に立地している。行政上は、安芸郡芸濃町多門字北奥に所在する。便宜上調査区を西から東にA・B・C区として設定し調査を実施した。

A区(約2,600 m) 主な遺構としては平安時代の掘立柱建物2棟と東壁にカマドをもつ竪穴状遺構1棟、調査区の南側で検出した円弧状に曲がる溝址がある。遺物としては縄文時代早期から晩期の

土器片数点のほか、平安時代の灰釉陶器、山茶椀、近世・近代陶器がある。また鉄製品としては鋤、 鎌がビットより出土している。

B区(約750㎡) 調査区東半部で奈良時代の竪穴住居4棟と平安時代の掘立柱建物3棟、土坑、溝を検出した。掘立柱建物群は、ほぼ棟方向を同じくし、柱掘方は不定形を呈するものが多いが、掘方底部で隅丸方形を呈するものもある。出土遺物には土師器杯、皿、甕、緑釉陶器片、須恵器杯、高台付杯、蓋などがある。

C区(約1,250 ㎡) 北側の面調査部分と南側の排水路部分に分かれ、面調査部分では、北半部では遺構が少なく、南側に集まる。検出した遺構は土坑、溝、ビット群で、土坑内より平安時代の土師器小皿、皿、杯などの土師片が大量に出土した土坑もある。

北側の面調査部分から南に伸びる排水路部分では、大溝3条、土坑のほか中世墓1基を検出した。溝・土坑ともに鎌倉時代以降と考えられる土師器皿、鍋、羽釜、中世陶器片が出土している。特に鍋よりも羽釜の点数が多い。他の出土遺物には石製の方硯がある。中世墓は、80cm×60cm、深さ50cmの隅丸方形を呈し、床面及び周壁で焼土がめぐる。坑内には多量の木炭片に混在して、少量の焼骨と北宋銭6枚が出土した。

槐 田 遺 跡 県営圃場整備事業	県 教 委 (鈴木 克彦)	S 6 3.1 0.1 2 ~ 1 0.2 8	97 m²
------------------	------------------	----------------------------	-------

椀田遺跡は、安濃川中流右岸の河岸段丘下位面に立地し、標高は約57 m、河床面との比高は約10 m である。周囲には削平を受け水田化されている個所もあったが、調査区の現状は畑地であった。遺跡は弥生時代~中世の遺物散布地として知られていたが、試掘調査の結果、縄文時代晩期の突帯文系土器も出土している。

本調査では、弥生時代の土坑 1 基(4×1 m、深さ0.6 m)、鎌倉時代の溝 1 条などが検出され、土 坑からは中期後葉の完形に近い 2 個体の壷形土器が出土した。他に甕形土器、台付鉢形土器の破片が出土している。狭小な調査範囲の関係で確認できなかったが、この土坑は方形周溝墓の一辺である可能性もあろう。

遺物としては、突帯文系土器、弥生時代中期中葉~後葉の土器、古墳時代の須恵器、中世の山茶椀、 土師器などが出土している。突帯文系土器は破片ばかりであるが、安濃川流域としては最もまとまっ た資料である。

本遺跡は雲林院下川集落の東方、北奥遺跡とは県道津芸濃大山田線を隔てた南側に所在する。安濃川の一支流によって形成された小扇状地上に位置する。標高73m前後である。

調査区は排水路部分の調査で、調査区東側で溝、ビットを検出し、西側で自然流路を検出した。出土遺物には瓦器椀片、山皿片のほか若干の土師器片にとどまる。

迎	Щ **	遺	跡	県 営	圃場	整	備	事	業	県 (伊藤	教 裕	- 委 偉)	S 6 3.1	2.21	85 m²
													l		

当遺跡は穴倉川の右岸、長谷山から北東方向へ派生する尾根の先端部に位置する。同一丘陵中には 長谷山古墳群と呼ばれる大群集墳の一支群である迎山古墳群(仮称)が2基存在している。現況は畑 地で、基本的には耕作土直下で明褐色系砂質土の地山(岩盤)に達し遺物包含層はないが、旧地形の 落ち込みを検出した地点では4層の堆積が認められた。その他、地山に近似した埋土の入った土坂がある。付近にサヌカイト片の散布があることと併せて弥生時代以前の遺構の存在が想定される。調査区内からの遺物の出土は少なかったが、付近には埴輪片が散布しており、迎山古墳群と一連の古墳が存在していたのかも知れない。

渋	見	砦	跡	遺	構	確	認	調	査	津市教委(萱室康光・ 池端清行・米山浩之)	$ \begin{array}{c} 8631129 \\ \sim 129 \end{array} $	300 m²
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--------------------------	--	--------

被見砦跡は、津市街の西の北高約25mの独立丘陵に立地しており、遺構はこの丘陵ほぼ全域におよんでいる。今回の試掘調査は、この丘陵に4m×4mを基準とする試掘坑19ヶ所を任意設定しておこない、もっとも遺構密度が高いと思われる頂部平坦地には6ヶ所の試掘坑を集中して調査を行なった。遺構としては、堀・土塁・頂部平坦地において挙大から人頭大の石を包蔵する集石土坑・土坑・版築状土坑・溝などを検出した。堀は断面V字形で現在の地表面より深さ3.2mを計る。また土塁は地山がわかりにくいが断面を見るかぎり、ほとんどが盛土である。遺物としては、土坑から土師器皿が一括で、また、溝からも完形の燈明皿を含む土師器皿や羽釜などが出土しており、これらは16世紀後半の渋見砦に伴うものと思われる。他にも、擂鉢・鍋・染付椀などが出土している。

若 林 遺 跡 県営圃場整備事業	県 教 委 (伊藤 裕偉)	H 1 1 9 ~ 113	680 m²
------------------	------------------	---------------	--------

当遺跡は志登茂川中流左岸の河岸段丘上に位置する。当地は丘陵上端部では耕土直下で明褐色土の地山が検出されるが、斜面部ではいわゆる黒ボク(黒色土)の堆積が認められ、標高が下るにつれて厚く堆積している。黒色土系の土が基本的に遺物包含層に相当するが、遺物の含有は少ない。遺構は時期不明の溝の他、土城等があり、中でも古道と考えられる遺構の存在が注目される。遺物は縄文土器片の他、須恵器片、志摩式製塩土器、鎌倉時代頃の土師器、陶器類があるが、前3者については当該時期の遺構は認められなかった。

与市垣内遺跡は、岩田川中流域の右岸低位段丘に位置する。現況は宅地及び畑地である。砂が堆積しており、岩田川が氾濫したと考えられること、現在の市街地と近接していることなどから、相当攪乱されており、遺存状況はよくなかった。遺構としては平安時代の溝1条、鎌倉時代の溝1条・土坑2基、近世の井戸2基を検出した。遺物は中世を中心に相当量が出土した。主なものとしては、平安時代の土師器杯、緑釉陶器椀、鎌倉時代の山茶椀、土師器甕及び天目茶椀、瀬戸皿などが出土した。

前川原遺跡 県営圃場整備事業	県教委·久居市教委 (辻 富美雄)	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	2,280 m²
----------------	----------------------	--	----------

調査区域から掘立柱建物3棟が発見された。いずれも奈良時代である。

掘立柱建物は2棟と1棟の2ブロックにわかれている。

掘立柱建物は3間×2間の規模をもつ。柱間寸法は建物によって異なりをみせている。

柱掘り方は1辺60cm程度の大規模なものである。また、検出された柱痕跡から直径30cm程度の柱が 建てられていたことが想定できる。調査区からは黒色土器等が発見された。

今回の調査によって発見された掘立柱建物群は奈良時代の農村風景をほうふつさせるものである。

家 野 遺 跡 県営圃場整備事業 県 教 委 H 1 1 9 約740 m ~ 121

本遺跡は、雲出川中流右岸の河岸段丘低位面上、標高65mほどに位置する。昨年11月上旬の試掘調査の結果、弥生時代を中心とする遺跡面積2万5,000 ㎡に及ぶ遺跡であると判明し、急きょ本年度事業に係わる部分を調査実施した。

調査区は排水路部分(A・B区)と面調査部分(C区)に分かれ、A区では弥生時代中期の溝、土 拡、平安時代の土城を検出した。平安時代の土城では瓦器椀が2個体合わせるかたちで出土し墓の可能性もある。B区では弥生時代の溝、土城のほか調査区東側にビット群を検出した。C区は弥生時代中期の竪穴住居2棟、土城のほか平安時代の掘立柱建物1棟、中世の溝、柵を検出した。竪穴住居は直径5mの円形状を呈するものと長軸3.5m以上の不正円形であり、両者ともに焼土面は検出されなかった。弥生時代の遺物としては、壷・甕のほか石斧、石鏃などの石製品もあり、他に中世の土師器鍋も出土している。

宮ノ下遺跡住宅団地造成	一志町教委(伊勢野久好)	S 6 3. 9.2 6 ~ 1 2.2 4	1,400 m²
-------------	--------------	---------------------------	----------

本遺跡は、雲出川と支流長野川の合流地点の南西部に位置しており、其倉集落北東の標高51mの独立丘陵上に所存している。調査は当初、工事に伴い削平される宮ノ下古墳2基(1・2号墳)を対象としたが、その過程で弥生時代の竪穴住居等が確認され、宮ノ下遺跡と改称した。

主な遺構としては、弥生時代中期後半の竪穴住居 2 棟、古墳 3 基 (1 ・ 2 ・ 4 号墳) 、時期不明の 焼土土壙、集石遺構等が検出された。このうち1号墳は、一辺16mの方墳とみられ、片袖式の横穴式 石室を内部主体としており、6世紀後半代の築造である。天井石は不明ながら、石室の遺存状態は良 好で、副葬品には須恵器(杯、高杯、平瓶、膠、脚付壷、広口壷等)、土師器甕、武具類(鉄刀・鉄 鏃)、装身具類(金環、臼玉)等がある。また、4 号墳は6世紀末~7世紀初頭の小石室であり、須 恵器(蓋 2 ・ 身 2 ・ 細頸壷 1)が出土している。

鳥居本遺跡	近畿自動車道 (久居~勢和)建設	県教委(山崎恒哉 河北秀実小坂宣仏)	S 6 3. 5.1 6 ~ 7.2 7	2,6 4 0 m²

鳥居本遺跡は、雲出川右岸に形成された河岸段丘の中位面に立地する。本年度の発掘調査は、昨年 度調査区の農道をはさんだ南側について行った。

遺構は、30条をこえる大小の溝と井戸、土広、ビットがある。溝は、幅約1m、深さ約45cmのものが最大であるが、多くは浅く、途中ではっきりしなくなる。井戸は飛鳥時代のものであり、土坻には奈良時代末のもの等がある。

遺物は、飛鳥時代末の須恵器杯身や土師器椀・杯身・杯蓋等完形品8点(井戸出土)、奈良時代末の土師器杯・皿・椀・甕や須恵器高杯等(土拡出土)があり、井戸出土の土師器杯は、内側に放射状及び螺旋状の暗文を持つ畿内的なものである。この他、弥生時代後期前半の受口甕、平安時代の灰釉陶器や黒色土器、山茶椀、常滑焼等があるが、量は少なく、大半は小片である。

														 						_
**	生	Ĕ	遺	跡	*	県	営	圃	場	整	備	事	業	県 田中/	教な・江原	委	S 6 3.	9.19	4,700 m²	1

釜生田遺跡は、中村川左岸の河岸段丘上に位置し、現況は水田及び畑地である。調査は保存の不可能な遺跡北西部について行なった。主な遺構として、縄文時代の竪穴住居4棟(1棟は縄文晩期であ

る 3・土坑 5 基・陥穴と思われる土坑 1 基、鎌倉時代初めの掘立柱建物 2 棟・溝 1 条・井戸 1 基・土坑 3 基が検出された。他に時期不明の掘立柱建物 3 棟がある。縄文晩期の竪穴住居は、35 m×40mの精円形で中央に石囲みの炉が検出された。鎌倉時代初めの掘立柱建物のうち 1 棟は、4 間×6 間(132 m×7.3 m)を測り、東南隅に 2 間×2 間分の深さ30cm余の隅丸方形土 塩を伴っていた。遺物としては、縄文早期~晩期の土器及び石鏃・石匙・石錐・凹石・叩石などの石器類がある。石器はサヌカイトが大半であるが、チャート製のものもある。尚、2 点のみであるが、黒輝石のフレークも出土した。鎌倉時代以降の遺物は、山茶椀、小皿、土師器甕・皿、青磁皿、青白磁合子などがある。尚、山茶椀には墨書のあるものもあった。

ビハノ谷遺跡は、嬉野町と松阪市の境にある東西にのびる丘陵の支脈の北端に位置する。発掘調査はA、Bの2区に分けて行った。

A区では、古墳時代後期と考えられる竪穴住居や溝等が検出された。遺物は、竪穴住居からの須恵器杯身や土師器甕の他、須恵器・土師器の小片多数と、南北朝頃と考えられる常滑焼若干が出土している。

B区では、鎌倉時代前半と考えられる掘立柱建物や土坂の他、多数のビットが検出された。掘立柱建物の規模は2間×2間である。遺物は、山茶椀、山皿、土師器皿・鍋が主で青磁、須恵器も若干出土している。また、石鏃15点・フレーク数十片(共にサヌカイトが主)と縄文土器数点(中期前葉~晩期末葉)も出土している。縄文時代の遺構は検出されなかった。

天保古墳群	近畿自動車道	県 教	委	S 6 3.	5.13	1,160 m²
	(久居~勢和)建設	【野田 化	₹久)	~	7.12	1,100 m

昨年度にひきつづく調査で、1号墳の周溝検出と各石室(1・3・5・6・7号)の解体調査を主な内容として行った。以下1号墳のみについて調査結果の概略を記す。

[1号墳] 墳丘を徐々に掘り下げ、最終的に盛土を全て除去した結果次のようなことがわかった。① 周溝は直径15mの規模でC字形に巡る。周溝幅は 15~3 mで、検出面からの深さは20~40 cm程度。②墳丘北半の周溝内側にも細い溝が巡り、墳丘断面の土層からは、その溝を境に墳丘が段階的に盛られていったとも考えられる。③玄室基底石は薄いものであるが、裾石については立方体に近いような石材が使用されていた。④ 最も重い石材は、西側壁二段目に積まれていたもので44t あった。⑤ 石室掘形は、東側壁に沿ってはほぼ垂直に掘り下げられているのに対して、西側の辺はやや傾斜をもって掘られている。⑥ 石室掘形の東辺の肩部に窪みがあり、二段目の石材を積むためのものと思われる。

西野	7	号	墳	近畿自動車道 (勢和~伊勢)建設	県 (新	数 田•山!	委 崎)	S 6 3.	5.16 9.28	3,400 m²	

西野 7 号墳は天花寺丘陵の最高部に近い尾根に立地し、標高は約58mである。本墳は葺石をもつ地山整形の円墳であり、その築造方法は、北面を除く三方向を削り出し、未整形部分には葺石を施さないという特異なものである。主体部は既に流失しており、埋葬形式は不明である。墳丘から碧玉製石釧片 2 個体分、車輪石、ガラス玉等の装身具類が発見された。また、水銀朱の付着した石枕片も出土している。墳丘外から、大形の管玉に加え、底部穿孔をもつ土師器壷や、一片のみであるが、円筒埴輪片が出土した。詳細な築造時期は検討を要すが、出土遺物等から概ね4世紀後半代のものと考えられ

٠					
	西野・北広遺跡	近畿自動車道 (久居~勢和)建設	県 教 委 (野田 修久)	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	2,473 m²

標高42~46mの台地状の丘陵に、遺跡確認のためのトレンチを7本設定し調査した。その結果、丘陵の頂部にあたる所で古式土師器片(台付壷、高杯など)とサヌカイト製の削器片が検出された。また、そこから約300m南方の尾根平坦部でもサヌカイト製のポイント片が出土した。小字名に従い、前者周辺を西野遺跡、後者周辺を北広遺跡とした。しかし、西野遺跡の遺物出土範囲は約10m四方の狭い部分に限られ、また、遺構はどのトレンチにも検出されなかった。

堀之内遺跡(下層)	近畿自動車道 (久居~勢和)建設	県 (田村	教 委 陽一)	S 6 3.	5.16 8.12	1,900 m²
-----------	---------------------	----------	------------	--------	--------------	----------

当遺跡は雲出川の支流の中村川がつくる沖積平野内の微高地に立地した遺跡である。昭和62年度に 実施された上層遺構面の調査では、弥生時代末から古墳時代、奈良、平安時代の遺構が多く検出され、 遺物も膨大な量が出土した。調査はA~D地区に分けて行われたが、C地区では下層から縄文時代の 遺物が出土したことから本年度の調査となった。

調査の結果、沖積層の礫層の上に厚さ約3 mにわたってシルトと砂の互層が堆積しており、その間に縄文時代中期末、同後期前葉、同晩期中葉の遺物包含層を確認した。検出した遺構は中期末で屋外炉と思われる焼土8カ所、配石等がある。後期は焼土1カ所、晩期が焼土4カ所を検出した。遺物は整理箱約60箱分出土したが、50箱程が中期末のものであり、加曽利E3~E4式併行期の良好な資料が得られたほか、晩期中葉の遺物も少量ながら良好である。沖積低地下深くでの発見は、さまざまな見地から注目されるべきである。

近畿自動車道	近畿自動車道	県	±8/₁	委	S 6 3.11.28	m²
第 9 次 区間	(勢和~伊勢)建設	が	教	女	H 元 3.23	

近畿自動車道第9次区間(勢和~伊勢間)建設にともない、多気町・玉城町内の水田部の遺跡の第 1次調査を行った。また、牛バサマB・浦ノ内の2遺跡については一部2次調査も行った。

近畿自動車道第9次区間(勢和~伊勢間)

昭和63年度 第1次調査(試掘調査)、第2次調査一覧

遺跡名	所在地	調査面積(m)	調査期間	調査結果概要	調査担当者
王子谷遺跡	多気町前村	4 8	H元年2月7日 ~ 们元年2月10日	作物のため、12グリッド設定したうちの3グリッドしか調査で きず。 中世土器片(山茶碗、土師器)出土	山崎 恒哉
牛パサマA遺跡	多気町野中	304	S 6 3年1 2月7日 ~ H 元年 2月1 0日	遺構:平安時代溝 遺物:縄文土器片、古式土師器片、平安土器片 〔 要本講査〕	"
牛パサマB遺跡	多気町野中	336	S63年12月5日 ~日元年1月27日	遺構:柱穴 遺物:中世土器片 〔 婁本淵査〕	"
		2次 1,630	H元年2月14日 ~ 3月23日	古式土師器片、中世土器片出土	山崎 恒哉 小坂 宜広
ヒジヤロ遺跡	玉城町原	288	S63年11月28日 ~S63年12月1日	遺構・遺物なし	小坂 宜広 野田 修久
のせんじ遺跡	玉城町積良	96	S 6 3年1 2月2日 ~S 6 3年12月7日	遺構なし。山茶椀底部出土:	"

ì	Œ.	Si.		名	所在地	調查面積(m)	調査期間	淵 査 結 果 概 要	調査担当者
浦	,	内	i i	i 跡	玉城町積良	192	S 6 3年1 2月6日 ~1 2月21日	中世土師器片(皿・鍋)・陶器片出土 〔要本調査〕	小坂 宜広 野田 修久
						2次2129	H元年2月22日 ~ 3月3日	表土除去のみ	野田 修久
上。	/ t	E P	Ŋi	自跡	玉城町山神	208	S 63年12月20日 ~S 63年12月26日	中世土師器片少量出土。遺構なし	小坂 宜広野田 修久
蚊	Ц	Li	遺	跡	玉城町岩出	587	H元年1月10日 ~H元年2月2日	遺標:ビット多数、溝 遺物:中世土師器片(皿・鍋等)・陶器片、山茶椀片、青磁片 〔 安本鶏査〕	"
宫	坩	Þ	遺	跡	玉城町岩出	144	H元年1月26日 ~H元年2月2日	連構:ビット 遺物:中世土師器片(皿、鍋等)・山茶椀片・山皿、刀子 〔 要本調査 〕	"
						合計 5,962			

川原表古墳群他	団			成	松阪市教委 S63. 4. 1 6,000㎡]
川原安口填矸池	ध्य	78	冱	ALC.	(西田 尚史) ~H13. dovo ///	ſ

松尾小学校の背後から岡本町にかけて、坂内川と並行するように南西から北東方向へのびる丘陵がある。との丘陵の南及び西側は谷が複雑に入り込み、いくつもの突出する小さな尾根を形作っている。との尾根筋や先端部にはいくつかの古墳が位置している。との内今回発掘調査を行ったのは、川原表古墳群11基、常光坊谷古墳群5基、狼谷古墳、弥三郎新畑A古墳(当初、追上1号墳としていたものである。発掘調査の結果、追上2~6号墳は近世以降の盛土状遺構と分かった。1号墳は小字弥三郎新畑に位置しているが、これより450 m西の同じ小字内に2基の古墳があることから、前者をA古墳、後者をB-1・2号墳としたる、大分山古墳群8基である。発掘調査の結果、これら古墳は5世紀後半~7世紀初めに築造されたものであることが判明した。常光坊谷4号墳からほぼ完形の形象埴輪が出土するなど、いくつかの貴重な資料を得ることができた。

古墳以外の遺構としては、川原表で弥生時代後期初頭の竪穴住居 6 棟、追上からは時期的に県下で初めての縄文時代中期前半の竪穴住居 1 棟が検出された。弥生時代の住居 6 棟はほぼ一定した短い期間に営まれたものであり、2・3・4・5 号住居からは、壷・高杯・甕・鉢・器台等が一括出土しており注目される。

川原表弥生時代後期初頭竪穴住居一覧表

名 称	形態	規模(m)	炉	貯蔵穴	周溝	出土	遺	物	備考
1 号住居	方	4.9×-	有	有	無	蹇			南側は斜面下位のため、2/3 が消滅。柱穴は竪穴住居コーナーに接する位置に2穴を検 出。
2 号住居	方	6.9×5.7	無	有	有	壷、高杯、	蹇、	鉢	北側は斜面下位のため、壁面 は消滅。
3号住居	方	6.0×6.9	無	有	無	壷、高杯、 器台	甕、	鉢、	南端側は斜面下位のため消滅。 柱穴は、4本の主柱穴以外に、 主柱の対角線位置竪穴住居の 四隅にある。
4 号住居	方	5.1×5.5	無	有	有	壷、高杯、 器台	蹇、	鉢、	
5 号住居	方					壷、髙杯、	蹇、	蹇蓋	

追上縄文時代中期前半竪穴住居

・形状及び規模 径3.3×3.4 mのほぼ円形 東側壁に段中央に炉 柱穴5本(主柱穴4本)

・出土遺物 縄文土器片多数、チャート・サヌカイトの剝片数点

発掘調査古墳一覧表

形状	規 模 (m)	主体部規模(m)	出土遺物	時 期	備考
円	12×14	木相直舞	主体部:鉄器(鏃・刀)	6 C後	中央に盗掘拡
P3	15.5×16.0	木棺直葬	主体部:須恵器(杯蓋・広口壷)	6 C後	中央から東周溝にかけて盗掘塩
			墳 丘:須恵器(杯身・杯蓋・髙杯)、		
			土師器(椀)		
			その他:須恵器(杯身・杯蓋・髙杯)、		
İ			鉄器(刀)		
円	7.5×8.5	石 室(13×25)	主体部:須恵器(杯身・杯蓋・髙杯・広口)	6 C中	石室は2段の石材が残る。
			壷・横瓶)、土師器(高杯・ 直口		石室床面に砂が敷かれている。
			壷)、鉄器(鏃・刀子)		
			周 溝:須恵器(杯身・杯蓋・短顎壷)、		
			土師器(椀)		
円	7.9×9.0	石 室(1.0×~)	主体部:碧玉製管玉	6 C中	石室は奥壁側 1/3 ほど 3~4 段分残
			墳丘裾:須恵器(杯身・杯蓋)		3.
г э	8.0×9.0	石 室(1.6×3.2)	主体部:須恵器(杯身・杯蓋・高杯・躑)	6 C中	石室は4~5段分の石材が残る。
			鉄器(鏃)		北西よりに 0.8×1.8mにわたり円礫と
			墳丘裾:須恵器(杯身)		砂
円	7.0×6.0	木棺直葬(3.6×0.8)	墳丘裾:須恵器(杯蓋)	7 C前	
円	6.5×-	木棺直葬(2.3×0.6)	周 溝:須恵器(長頸壶・髙杯)、		
		1	土師器(變)		
方	8.0×8.5	木棺直葬(2.5×1.1)	周 溝:土師器(甕・鍋・楓)		
方	5.5×6.0	石 室(0.9×2.0)	主体部:須恵器(杯身・杯蓋)	6 C 中	石室は1段分の石材が残る。
					石室内には、円礫が敷かれる。
円	9.0×9.5	石 室(2.2×0.9)	主体部:須恵器(杯身・杯蓋・髙杯・提瓶	6 C中	石室は1~3段分の石材が残る。
			・壷)、鉄器(鏃・刀子)		盗掘により主体部があらされていた。
			墳丘裾:須恵器(杯身・杯蓋)	İ	
PJ.	19.0×~		須惠器片、土師器片		2/3 ほどが崩壊
円	1 8.5×1 8.5	木棺直葬(0.6×-)	主体部:須恵器(杯身・杯蓋・纏・短頸竈)	5 C末	北西側土砂がいちじるしく流出
-			・台付短頸壷と蓋・短頸壷)、鉄		割竹形木棺内に朱が塗られる。
		ļ	剣	ł	
		ļ	墳 丘:円筒埴輪(列)、朝顔形円筒埴輪		
			周 溝:須恵器(杯身・杯蓋・高杯・筒形		
			器台・壷)、円筒埴輪、形象埴輪		
i			(人物・馬・鳥)		
	円円 円 円 円円 方方 円	円 12×14 円 155×160 円 7.5×85 円 7.9×90 円 8.0×90 円 7.0×60 円 6.5×一 方 8.0×85 方 5.5×60 円 9.0×95	円 12×14 木 棺 直 葬 円 155×160 木 棺 直 葬 円 7.5×8.5 石 室(13×2.5) 円 7.9×9.0 石 室(1.0×~) 円 8.0×9.0 石 室(1.6×3.2) 円 7.0×6.0 木棺直葬(3.6×0.8) 円 6.5×一 木棺直葬(2.3×0.6) 方 8.0×8.5 木棺直葬(2.5×1.1) 方 5.5×6.0 石 室(0.9×2.0) 円 90×9.5 石 室(2.2×0.9) 円 19.0×~	円 12×14 木 棺 直 葬 主体部: 須恵器(杯斎・広口童) 木 棺 直 葬 主体部: 須恵器(杯身・杯蓋・高杯)、土師器(腕) その他: 須恵器(杯身・杯蓋・高杯)、鉄器(刀) 主体部: 須恵器(杯身・杯蓋・高杯・広口童・横阪)、土師器(高杯・直口童・横阪)、土師器(稿) 円 7.9×9.0 石室(1.0×~) 主体部: 須恵器(杯身・杯蓋・海杯・庭口童)、鉄器(稿) 円 8.0×9.0 石室(1.6×32) 主体部: 須恵器(杯身・杯蓋) 円 7.0×6.0 木棺直葬(3.6×0.8) 墳丘部: 須恵器(杯身・杯蓋) 内 6.5×一木棺直葬(2.3×0.6) 周溝: 須恵器(長頸市・高杯)、土師器(甕) 方 5.5×6.0 石室(0.9×2.0) 周溝: 土師器(甕)・納・惟) 方 5.5×6.0 石室(0.9×2.0) 主体部: 須恵器(杯身・杯蓋) 円 19.0×~ 主体部: 須恵器(杯身・杯蓋) 円 19.0×~ 主体部: 須恵器(杯身・杯蓋・高杯・松瓶・滑水・松瓶・滑水・松瀬・銀舎・杯蓋・御野・ 短頸面・合行短頸面と蓋・短頸面・合行短頸面と蓋・短頸面・合行短頸面と蓋・短頸面・合行短頸面と蓋・短頸面・合行短頸面と蓋・短頸面・合行短頸面と蓋・短頸面・ら合行短頸面と蓋・短頸面・ら合行短頸面と蓋・短頸面・ら行短頸面と蓋・短頸面・ら行短頸面と蓋・短頸面・ら行短頸面と蓋・短頸面・ら行短頸面と蓋・短頸面・ら行短頸面と蓋・短頸面・ら行短頸面と蓋・短頸面・ら行短頸面と蓋・短頸面・ら行短頸面と蓋・短頸面・ら行短頸面と蓋・短頸面・ 財 上に円筒埴輪(列)、朝衛形円筒塚輪・形・衛和・衛和・衛和・衛和・衛和・衛和・衛和・衛和・衛和・衛和・衛和・衛和・衛和・	円円 12×14 木 棺 直 葬 主体部: 鉄器(蓋・刀) 6 C後 155×160 木 棺 直 葬 主体部: 須惠器(杯身・杯蓋・高杯)、上師器(級) 6 C後 項 丘: 須惠器(杯身・杯蓋・高杯)、終器(刀) 七師器(級) その他: 須惠器(杯身・杯蓋・高杯・瓜口 産・横版)、土師器(八) 6 C中 産・横阪)、土師器(級) 円 79×90 石 室(10×~) 主体部: 須惠器(杯身・杯蓋・短頭面)、土師器(級) 6 C中 域上師: 須惠器(杯身・杯蓋・商杯・磨) 6 C中 域上師: 須惠器(杯身・杯蓋・高杯・磨) 円 80×90 石 室(16×3.2) 主体部: 須惠器(杯身・杯蓋・高杯・磨) 7 C前 大棺直葬(23×0.6) 円 65×一 木棺直葬(23×0.6) 関 澤: 須惠器(天身・杯蓋) 7 C前 第: 須惠器(天身・経直) 方 80×85 木棺直葬(25×1.1) 周 溝: 須惠器(下身・経直) 6 C中 ・産(09×2.0) 方 55×60 石 室(09×2.0) 主体部: 須恵器(杯身・杯蓋・高杯・脱瓶 6 C中 ・産・分付短頭面と 素・短頭面・ 5 C末 ・合付短頭面と 素・短頭面・ 3 短端(不身・杯蓋・高杯・脱瓶 円 190×~ 円 190×~ 主体部: 須恵器(杯身・杯蓋・磨・短頸面・ 5 C末 ・合付短頭面と 素・短頭面・ 3 短端(列)、側刷形円筒 財輪 周 溝: 須惠器(杯身・杯蓋・高杯・筒形 端台・産)、円筒填輪、形象埴輪

古り	墳	名	形状	規模(m)	主体部規模(m)	出土	遺	物	時期	備	
常光坊?	谷1	号墳	方	1 0.6×9.9		周 溝:須恵器片	(杯身・杯蓋	(・壷)	6 C 前		
	2	号墳	円	直径 13m	石 室(1.8×3.7)	主体部:須恵器(杯身・杯蓋・	高杯・籐・	6 C中	墳丘頂部か	る西側にかけて土 取りの
				前後		提壷・壷)、土師器直	[口壷、鉄器		ため大きく	平されている。石室も
						(鏃・刀	子・刀)、カ	ラス玉		破壊を受け	ている。その際捨てられ
						墳 丘:須恵器杯	蓋、土師器囊	ţ		たと思われる	3多数の須恵器片や土師
										器片が墳丘	長土や周溝埋土上層から
									ļ	検出された。	
	3	号墳	प्ति	14.0×13.0		盛 土内:紡錘車				墳頂部は削っ	¥され半塩、また、 <u>肉</u> か
										ら北にかける	ても大きく破壊を受けて
ĺ										いる。	
İ										表土から須ん	世器杯・壷や土師器の細
ĺ										片が出土して	ている。
İ	4	号墳	円	1 7.5×1 7.5	木棺直葬(3.7×0.8)	主体部:須恵器(怀身・杯蓋・	鰺・短頸壷)	5 C末	墳頂部から	5側にかけて土取りのた
						鉄器(鏃	・刀子・直ノ	1)、紡錘車		め削平されて	ている。
						墳 丘:円筒埴輪	(列)				
						周 溝:須恵器(怀身・杯蓋・	髙杯・短頸			
						壷)、土 l	添器(甕・台	付蹇)、円			
						筒埴輪、	朝顧形円簡埴	i輪、形象埴			
l						輸(人・	家・馬・鳥)				
	5	号墳	円	14.5×14.5		周清:土師器台	付甕		〔4号墳	は 墳丘のほとん	んどが土取りのために削
									り古い	平されている	3.
弥三郎	8 1	新畑	方	14×15		主体部攪乱土:須	思器蹇細片、	鉄剣片、	5 C後	墳頂部は大き	さく削平されている。
A ī	古	墳				墳丘及び墳丘崩壊	土:須恵器廳	片、土師器		中央部はほぼ	ま地山まで掘られている。
İ						直口壷、	円簡埴輪片、	蓋形埴輪片			
ļ										-	
大分山	5	号墳	方	9.5×8.5	木棺直葬(0.5×3.3)	主体部:須恵器高			5 C後		
						周 溝:須恵器(怀身片・杯蓋)、土師器			
						爽 片					
		号墳	方								
		号墳	円	9.5×9.5	石 室						
		号墳	方	8.5×8		周溝埋土:土師器:		-			
ĺ		号墳	方	115×12		周灣埋土:須恵器!	E.				
		号墳	方	10.5×10							
l .		号墳	方	7×6.5							
	1 2	号墳	方	6.5×6.5		周溝埋土:土師器	冕				

[※] 大分山6~12号墳は2月末日現在調査中

[※] 川原表10号墳・弥三郎新畑B1・2号墳、 大分山1~4号墳は現状保存

伊勢寺遺跡※ 県営圃場整備事	県教委(森川常厚・ 小高・江尻)	S 6 3. 5. 9 ~ 6. 7	1,035 m²
----------------	---------------------	-----------------------	----------

松阪市西部の堀坂川、岩内川などによって作られた複合扇状地上の扇端部近くに位置する。調査の結果、遺構は、調査区の南部に集中しており、奈良時代~平安時代の竪穴4棟、掘立柱建物4棟、中世墓2基を検出した。遺物は、竪穴住居から、土師器の杯、皿、須恵器の蓋、鉄製の鏃、釣針などが出土した。

伊勢寺遺跡は堀坂川左岸の扇状地標高36~48mの扇央部に位置し、現況は水田及び畑地である。圃場整備に伴い削平される箇所、掘削される排水路部分について調査を行なった。排水路部分は幅5mで総延長約14kmに及び、また東西南北に走るため範囲確認調査の性格を持つにいたった。調査の結果奈良時代末~平安時代初期を中心とする遺構が検出された。主な遺構は、奈良時代末~平安時代初期の掘立柱建物9棟、竪穴住居11棟、土拡数基など、鎌倉時代の溝3条、井戸3基、石組遺構1ヶ所などが、また多数のpit群などがある。

遺物は奈良時代の軒丸・平瓦片など、奈良~平安時代の土師器、鎌倉時代の山茶椀・土師器鍋などが多量に出土した。遺構の集中などから4ヶ所程度の集落が考えられ、扇状地内の微高地に立地していたことがうかがえる。また伊勢寺廃寺付近からは塼も採集され、寺域も中心域も推定されるにいたった。

上相田遺跡は観音岳のふもと、堀坂川の氾濫原に位置している。調査面積は、立合調査の排水路部分を含めて約1,000㎡。 掘立柱建物1棟の他は、数条と溝と土坑数ケ所で、目立った遺構は検出できなかった。出土遺物も相対的に少なかったが、西側排水路の土坑からは奈良時代の土師器が出ており、焼土も存在するところから、竪穴住居である可能性もある。東側の土坑からは伊勢型鍋が相当量出土している。その他の遺物としては、表土除去の段階であるが、甑や土師皿、灰釉系陶器も出土している。但し掘立柱建物の柱穴からは、時代を決定する土器は出土していない。

松阪市の西部堀坂川の氾濫原中腹に位置する遺跡である。今回の調査は、用水路部分についてのみおこない、奈良時代を中心とする遺構・遺物が検出された。建物の遺構は8棟で、すべて掘立柱建物である。特に東半分にある4棟は、1辺が80cmある方形の柱掘り方をもつかなり規模の大きなものである。その他、土坑が7ヶ所、溝が3条確認された。

遺物は、奈良時代の完形の壷が1点と、他土師器の皿・甑・壷の破片、須恵器の小片などが出土した。

以上のことから、未調査の部分にかなり規模の大きな集落跡の埋蔵が推測される。時代的にみても 伊勢寺地区に多数存在する他の遺跡との深い関連性も推測できよう。

1	the:	###	遺	緣	倡	台角	場整		#		県	教	委	S 6 3.1		280 m²
ı	197.	×	15	1071	715	名 個	777 TE	. VHS	7	*	(河滩	質・小	高)	~	14	2007

松阪市の西部堀坂川の氾濫原中腹に位置する遺跡である。遺跡の中心となる部分は、昭和60年10月 に近畿自動車道久居〜勢和間建設工事に伴って発掘調査され、主に奈良時代〜平安時代初頭の遺構・ 遺物が検出されている。今回の調査は、自動車道東側に平行する用水路部分についてのみおとなわれ た。

調査の結果、目立った遺構は検出されず、わずかに土坑が1ヶ所検出されたのみである。遺物についても、土師器片・須恵器片が少量出土したのみであった。これらのことから、今回調査された部分は遺跡の東縁辺部と考えられる。

当古墳群は、昔より地元で言い伝えられている「坂本百八塚」に含まれるものであり、鈴木敏雄氏の『上御糸村考古誌考』によると、明和中学校周辺に30基の古墳が群集していたことが記されている。昨年の試掘調査の結果に基づいて事業地 15,000㎡のうち 3,150㎡について調査をおこなった。その結果、方墳の痕跡である周溝を 6 基、奈良時代の土城墓 1 基、鎌倉時代の土城墓 1 基を検出した。方墳は一辺9.5 m~6.0 mと小規模なものであり、周溝内からは 6 C末~7 Cにかけての須恵器・土師器が出土している。

当古墳群は、開墾のために墳丘が削平され実態が不明であったが、今回の調査で位置・形態・時期等が明らかになり、隣接する坂本古墳群、斎宮跡地内に存在する塚山古墳群など台地上に群集する古墳群を検討する上で貴重な資料を得ることができた。

戸峯古墳群 山 土 採 取	明 和 町 (中野 敦夫)	H 1 119 ~ 331	1,000 m²
---------------	---------------	------------------	----------

当古墳群は、玉城丘陵北側中央部にある標高42mの丘陵に所在する。

今回の土取り事業地には、2~4号墳の3基が確認されていたが、木の伐採作業中にさらに4基確認した。今年度は7基の測量調査と2号墳の発掘調査をおこなった。各古墳の概要は次のとおりである。

	規模(m)	高さ(m)	備 考		規 模 (m)	高さ(m)	備	考
2 号墳	18×18	3. 2	須恵器・土師器	7 号墳	9× 7	1.0		
3 号墳	19×19	2.0		8 号墳	15×13	1.2		
4 号墳	19×19	4. 0		9 号墳	18×18	4. 0		
6 号墳	17×16	2.8						

遺跡は、明野ケ原の一部である標高約10mの低位段丘の西端に位置する。調査区は、大きく3区に分かれ、【区が水池遺跡、】、【区が黒土遺跡に相当し、その現況は植林地である。

【区は、国指定「水池土器製作遺跡」の西隣であるが、遺跡の西端にあたるためか数条の耕作溝を検出しただけだった。 【、 ■区においても、同様に遺跡の西端であるため遺構密度が薄く、主な遺構

は、中世の梱立柱建物1棟(3間×3間)、南北に延びる溝1条、焼土と土器片が埋った土坑1基、 土器留り2ヶ所、近世の東西溝1条等である。掘立柱建物の柱抜き取り跡の一部には、土師器片が多 量に投棄されていた。遺物は大部分が土師器で、中~近世の鍋、山茶椀等である。

斎宮跡 ※ 重要遺構確認調査	県教委(県斎宮 跡調査事務所)	S 6 3 5 6 ~H1 3 8	4,900 m²
-----------------------	--------------------	----------------------	----------

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	地籍•地番	所有者	備考
77	6AGJ-D	1,300 m²	63. 5. 6~ 63. 7.13	明和町斎宮字東加座	個人	計画的面調査
7 8	6ADL	1,000	63. 7. 5~ 63.10.20	明和町斎宮字宮ノ前 3054他	明和町	計画的面調査
7 9	6 AGG—A • B	1,500	63. 9.16~ 63.12. 5	明和町斎宮字東加座	個人	計画的面調査
8 0	6AFG-F~I	1,100	6312 5~ 1 3 8	明和町斎宮字西加座	個人	計画的面調査

清 宮	S 5	史 跡	現	状	変更	県教委(県斎宮 跡調査事務所)	H 1 ~	1.26 3.31	1,043 m²
------------	------------	-----	---	---	----	--------------------	----------	--------------	----------

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	地番・地籍	所有者	備 考
76—15	6 ABF∼ 6 ABH	1,0 4 3 m²	1. 1.26~ 調査中	明和町竹川字中垣内 369—1他	三重県	県道南藤原竹 川線拡幅

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	地番•地籍	所有者	備考
76— 1	6ADB—A~D	4,5 4 3 ^{m²}	63. 4. 1~ 調査中	明和町斎宮字塚山 他	明和町	町道塚山線拡幅
76— 2	6 ADE-F • G	300	63. 4.1 1~ 63. 5. 9	明和町斎宮字篠林	個人	個人住宅新築
76-3	6ABE	434	63. 4.19~ 63. 5.28	明和町竹川字古里 554他	明和町	古里地区整備事業、排水路新設
76 4	6 ACK	18	63. 7. 4~ 63. 7. 6	明和町竹川字東裏	個 人	個人住宅新築
76 5	6AEE-W	20	63. 7. 4~ 63. 7. 6	明和町斎宮字楽殿	個人	個人住宅新築
76— 6	6 ACB—A	300	63. 7.25~ 63. 8.29	明和町斎宮字塚山	個人	個人住宅新築
76 7	6 ACM—M	185	63. 8.22~ 63. 9. 9	明和町斎宮字広頭 3385—2他	明和町	斎宮小学校給 食室移転改築
76— 8	6AFM—G	12	63. 8.25~ 63. 8.26	明和町斎宮字鍜冶山 2736—3他	近 鉄	保全柵新設
76- 9	6 ACQ	175	63. 9.26~ 63. 9.30	明和町竹川字南裏	個 人	住宅新築
76—10	6 ABD—U	448	631116~ 6312 2	明和町竹川字古里他 579他	池田建設	盛土

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	地籍・地番	所有者	備考
76-11	6 ABE	925 m²	631115~ 631219	明和町竹川字古里 554他	明和町	古里地区整備事業、ふれが、広場
76-12	6 AEE	24	1 222~ 1 227	明和町斎宮字楽殿地 内	明和町	町道下水管新設
76-13	6 ADD-K	246	631128~ 631223	明和町斎宮字篠林	個人	プレハブ新設
76-14	6AEE-S	72	1 118~ 1 2 1	明和町斎宮字楽殿	個人	個人住宅新築
76-16	6 AEK-B	37	1 222~ 1 223	明和町斎宮字下園 2936—2	明和町	史跡公園内の 便益施設の設置
76—17	6 AEV—A	38	1 3.14~ 1 3.20	明和町斎宮字鈴池	個人	個人住宅増築

石神南遺跡(縄文中・後期主体)は昨年度調査した石神遺跡より南西に約80m離れた、一段低い台地縁辺部にある。今回の造成区域(地目は主に山林)はそのすぐ南に隣接して計画され、同遺跡の広がりが予想されたため、試掘調査を実施した。調査区は段丘張り出し部にあたる南向き緩斜面を中心に合計8ヶ所設定した。その結果、造成区域内7ヶ所の調査区ではいずれも地山(礫泥じり黄褐色土)面まで極めて浅く、遺物はチャート製楔形石器(?)1点を確認しえただけであった。しかし、造成予定地北端部の道路ノリ面にあたる第7調査区においては、表土及び黒褐色土層を遺物包含層として後期初頭及び時期不明の縄文土器片数十点、石鏃2点、磨石1点、剁片数点等を検出。今回の造成区域のすぐ北側の平坦面には、ほぼ確実に石神南遺跡の広がっている様子を確認することができた。現状は荒地となっているが、近い将来、おそらく工場敷地の一角となるであろう同遺跡の保護策を要望しておきたい。

当遺跡は櫛田川中流右岸、高位河岸段丘上に位置する。現況は畑地で基本的には耕土直下で明褐~淡黄褐粘質土の地山に達するが、段丘中ほどには砂礫まじりの暗褐色土の遺物包含層が40cmほど堆積していた。遺構は根石を持つ建物跡の他、土城、溝などがあり、中でも土城の数は30基を越える。遺物は土城を中心に多量に出土している。陶器では瀬戸産の摺鉢、常滑産の捏鉢・壷などがあり、前者は16世紀前半に比定される。土師器では皿、杯、鍋などがある。特に鍋の数量が多く、形態上の差異も大きい。青磁では龍泉窯系の他同安窯系のものも認められる。遺物の傾向としては、土師器の量が陶器・青磁の量をはるかに凌いでいる。これらの遺跡の量や遺構の密度を見る限り、16世紀前半頃のこの地域の拠点的な集落であった可能性が高い。

当遺跡は櫛田川中流右岸の低位河岸段丘上に位置する。現況は水田地で耕土下に灰褐〜暗褐色の土層(遺物包含層)が認められるが薄く、段丘先端では表土下約20㎝、段丘奥部では表土下約40㎝で地山(淡黄褐〜明褐色粘質土)に達する。遺構は性格不明の円形、方形土坂の他、小溝群がある。小溝群は溝の間隔や方向、太さによって8群にまとまり、耕作に関するものと考えるならば個々の単位は

耕地の一区画を表わすものと考えられるが、時期の限定は困難である。なお、個々の単位は現況水田 区画と必ずしも一致していない。その他調査区内からは船元【式に属する縄文土器片の他、弥生土器、 灰釉系陶器などが出土しているが、数量的には極めて少ない。

献 ノ 上 遺 跡 県営圃場整備事業	県 教 委 S63.12 (宮田 勝功) ~ 12	13 219 約440 m
--------------------	------------------------------	------------------

本遺跡は丹生西川集落の北方、櫛田川右岸の河岸段丘上に位置する。現状は荒地である。主な遺構としては、掘立柱建物1棟のほか土城、ビットを検出するにとどまる。掘立柱建物は、3間×2間で数か所の柱穴より柱痕跡を認めた。また土坻には炭化物、焼土面をもつ土坻もあり、土坻内より出土遺物がみられなかったが掘立柱建物との関連も考えられる。出土遺物には、須恵器壷、土師器小皿がある。

田 丸 城 址 三重県指定史跡田丸城址天守閣礎石確認調査(試掘)		H l ~	1.27 2.27	6 6.2 9 m²
----------------------------------	--	-------	--------------	------------

三重県指定史跡田丸城址城郭内の天守跡の礎石確認のため、試掘調査を行なった。調査の結果、礎石と思われる石、約50cm~1 m程度のものが出土した。礎石は今回の調査で13~14個出土し、それぞれが南北、東西で一線で結ばれる位置に出土した。又、礎石の上に約20~30cmの細石が乗っており、これについては何のために置かれたのか判明しなかった。

遺物は瓦が多く、まれに鉄製の釘や土師器等が出土した。又、鯱の腹の部分と思われる瓦製のものも出土した。

ь	里	:	跡	具営畜産環境整備事業	県 差	数 委	S 6 3.	9.11	150 m²
LT	_	425	1011	从西田庄垛况 他 佛 尹 未	(田中	久生)	•	13	130 m

中里遺跡は、宮川支流の藤川左岸の段丘上に位置する。現況は水田及び宅地である。今回の調査は水路部分についてのみ行った小規模なものである。ビット10個余を検出したにすぎないが、径50cm内外のビットが4個、L字状にそろっており掘立柱建物とも考え得るが、調査区南端で検出されたもので、確認し得なかった。土師器鍋・皿、天目茶椀、摺鉢などが出土した。

佐八藤波遗跡 佐八小学校新築事業	伊勢市数委(岩中淳之)	S 6 3. 4.18 ~ 6.11	2,400 m²
------------------	-------------	-----------------------	----------

本遺跡は標高16m、宮川右岸河岸段丘上に立地する縄文後〜晩期にかけての遺跡として著名である。推定範囲は約10万mと広大なもので国重文『伊勢新名所絵歌合』にも「藤波の里」として描かれた、 **名勝地。も内乞するものと考えられ原始〜中世にかけての複合遺跡としても注目されている。

今回、佐八小学校新築工事に伴って遺跡の東端部2400㎡の調査を実施した。調査区の基本層序は耕作土→黒色土→暗黒褐色土→黄褐色粘質土となる。検出遺構は6世紀後半頃の古墳円形周溝2基、13世紀前後の南東隅に1間×2間の土坻をもつ4間×4間掘立柱土台石建物1棟・掘立柱建物(2間×2間)1棟・土坻墓・溝等、時期不明の柵列(15間分)がある。このうち柵列は藤波氏居宅に伴う外柵や佐八御牧の柵等の性格を考えることも可能である。

出土遺物は6世紀後半頃の杯身・短頸壷、13世紀前後の鍋・皿・山茶椀(墨書あり)、鳥へラ書き屋美窯壷片、金銅製椀が出土した。なお、縄文時代の遺物は包含層内でも検出されず、中心は調査区の北西の段丘崖に近い部分に広がっているものと考えられる。

上	通	遺	跡	宅	地	造	成	事	業	伊 勢 市 教 委 S63	7.25	64 m²
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---------------	------	-------

本遺跡は汁谷川左岸標高16m前後の段丘部に位置する広大な遺物散布地である。今回の試掘地は遺跡の南西端部で、若干の遺物散布が認められたため調査を実施した。調査地の基本層位は黒色土→赤 黄褐色粘質土となるが、遺物包含層及び遺構は各試掘塩とも検出されなかった。

以上、本造成工事は施行されるに至った。

車 塚 2 号 墳 宮本 1 号線改良事業	伊勢市教委(岩中 淳之)	\$ 6 3. 7.20	32 m²
-----------------------	--------------	--------------	-------

豊受大神宮(外宮)の北西、藤里町字丸山に田上大水神社が所在する。この社殿の裏には石室の天井石が露出し横穴式石室を有す後期古墳と推定され、墳丘内でも須恵器器台、弥生前期の土器が表採されている。この車塚1号墳は、名古屋大須真福寺蔵の『高庫蔵等秘抄』(永保2年書写)の中に、「宮崎大海原大神主小事石窟」の記事があり考古学史的にも注目される。

本2号墳は、この1号墳の南に位置し、水田の中に径5m、高さ1m程の高まりとして残存していた。調査の結果、基本層位は表土→茶褐色土→水田耕作土→水田床土→砂層→青灰粘質土となる。遺物は近世期の天目茶碗片のみで、古墳に伴う遺物は皆無であった。遺構は未検出で、土層観察から水田の畔付近に畑寄せされた高まりであることが確認された。

以上、車塚1号墳は社殿構築等のため原初の墳形をとどめていないが、横穴式石室を有す後期古墳であることは明らかなものの、昭和30年代に同墳と共に2号墳として周知登録された本推定墳は古墳ではなく、単なる古墳状の高まりであることが判明した。

桜 木 古 墳 推 定 地 中部電力株式会社五十針 川分岐線鉄塔工事	伊勢市教委(岩中淳之)	S 6 3. 9. 2	16 m²
---------------------------------------	-------------	-------------	-------

調査地は五十鈴川右岸標高37.6 mを計る朝熊神社裏山頂部に位置する。分布調査の結果、自然地形と思われるものの若干の高まりが認められた。このため万全を期すため試掘調査を実施した。

調査の結果、土層は自然堆積で遺物・遺構は確認されず、鉄塔は施工されることとなった。

・ 小 御 堂 前 遺 跡 豊浜西小学校プール用地 造成事業	伊勢市教委(岩中淳之)	S 6 3.1 2.2 1 ~ 2 2	48 m²
--	-------------	------------------------	-------

外城田川左岸、標高1m前後の沖積地に所在する遺跡で昭和54年に土地改良に伴って一部を調査した。今回の調査地は、前回の調査地の道路を挟んだ西側の水田地である。分布調査では遺物の散布は認められないものの試掘調査を実施した。

調査の結果、各試掘拡で遺構は検出されないものの、平安時代~鎌倉時代を中心とする土器少片が多く出土した。これらの土器は、いずれも黄灰粘質土の上層の黒色土中に混入していた。なお、特記すべき遺物としては地山直上で木葉形尖頭器(チャート製)が出土したことである。

本用地造成は、現表土より12 m盛土しその上よりプールを建設するため本調査は実施しないこととした。

東	海	ů.	遺	跡	磯部大王自転車道整備事業	県 (伊藤	教 委 裕億)	S 6 3. 9. 1	19	615 m²
		_	_			(伊藤	俗仰)	~ 10.2	21	

当遺跡は国府白浜海岸の奥部、丘陵裾に形成された発達した海岸砂丘上に位置する。現況は畑地で表土も含めて 0.2~10 mの砂の堆積があり、その下に暗褐色細砂と黄色砂の無遺物の安定した層が認められる。遺構面は中央部では 3 面認められたが、いづれも出土遺物は少なく、時期決定は難しい。最下の第 3 遺構面では、杭列のある溝等が検出された。出土遺物は灰釉系陶器、陶器、青磁、土師器の類で、前 2 者は主に常滑、渥美産のもので、瀬戸産のものは少ない。土師器は主に鍋が中心で、その中心時期は16世紀前半頃に求められる。なお、同時期と思われる縄文時代の凹石に類似した石製品が3 点出土している。

1	森	R22	*	24	上野新都市開発整備事業関	市遺跡調査会(前川	S63 822	1.200 m²
	糀	湖的	旭	幼	連公共事業 他	依久雄、田中秀和)	~H13.末日	1,200 m

森脇遺跡は上野盆地を北流する木津川の右岸、標高約145 m~149 mの河岸段丘上に立地する。調査地は遺跡の北端部で、山麓が近づく所である。

縄文時代晩期の貯蔵穴8基、弥生時代後期の溝1条、古墳時代末の土坑1基、縄文時代から奈良時代頃まで流れていたと考えられる旧河道2条、奈良時代から平安時代にかけての掘立柱建物4棟、溝30条、土坑14基等を検出した。

調査地のほぼ中央部を北東から南西に流れる旧河道は、幅約136m・深さ約13mを測り、底は幅約15m、・深さ約0.5mで溝状に蛇行する。貯蔵穴はこの旧河道の埋土を除去して発見された。穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、直径約1~2m、深さは1m前後である。穴の中には丸木・板材が放射状に落ち込み、底では木の葉の層の下に、アラカシ・トチ等の木の実が多量に検出された。水際の低湿地に立地するこの貯蔵穴群は、出土した土器片から滋賀里【式併行期頃と考えられ、取り出し口と認められる付属土坑に加工した板材や杭が残存すること等から、食料の保存方法や貯蔵形態を知る上で大変貴重なものである。

なお、注目される遺物として、奈良時代の溝出土の「富貴」と墨書された須恵器杯蓋、「大井」と 線刻された土師器杯、包含層出土の須恵器円面硯等がある。

1							1 mz + \m nt 300 + \	0.00	
	西	明	寺	遺	跡	上野市営火葬場建設事業	上野市遺跡調査会 (西森 平之)	○H13末日	1,300 m²

西明寺遺跡は上野市街東部の台地上に位置し、国史跡伊賀国分寺跡および長楽山廃寺跡(尼寺跡) を含む広大な遺跡であり、国分寺跡周辺においては昭和55年度から3年間、重要遺構確認調査を実施 している。

この発掘調査は、市営火葬場改築に伴って実施したもので、調査区の一部は昭和55年度調査地と重複するものの、現火葬場内にもおよんでいる。

国分寺跡東接地では、掘立柱建物 3 棟・溝 6 条・柵列のほか、土城・柱穴群が検出された。建物規模は 3 間× 2 間のもの 2 棟と廂構を有すると考えられる 2 間× 2 間以上の建物で、いずれも方向が一致する。柱掘り方は30㎝内外と小さい。火葬場内北東調査区で検出された建物は、前述の建物とは方位を異にする 2 間× 2 間以上の建物で、柱掘り方が 1 加に近い堅固なものである。また、この建物に付属したと考えられる井戸は、直径 25 m、深さ 15 の漏斗状をした素掘りのもので、底部は直径 60 cm 程度の円筒形を呈する。

出土した遺物は、奈良末~平安の土師器片が主体で、国分寺存続の時期と関連を示す。瓦片の出土

もわずかに認められるほか、『□寺』と線刻された土師器皿片の出土も注目されるところである。

森脇遺跡は、上野市の南東、丘陵の裾野にあり南側遠くを木津川が南東から北西へ流れている。以前より周知の遺跡として知られ、また遺跡内には、古来から数多く歌に詠まれている「あわれその森」や、ぬか塚古墳がある。今回の調査は、その「あわれその森」の周囲の水田で行った。

主な遺構は、縄文時代晩期~弥生時代の旧河道、縄文時代晩期の貯蔵穴4基、弥生時代の溝2条、奈良時代の掘立柱建物16棟、柱列1条、井戸4基、溝数条等である。掘立柱建物の内最大のもの(5間×2間)は「あわれその森」の直下で検出され、また4棟は総柱建物で、倉庫と考えられる。井戸の1基は、方形木枠組みで、枠板の残りがよく、13段まで確認でき、外側には枠組みの位置を示す墨書がある。遺物としては、弥生時代の石鏃、壷・甕、木製の砧・平鍬と丸鍬の未製品、奈良時代の須恵器の壷・杯。蓋・横瓶・円面硯、土師器の杯・甕、木製品の串斎・糸巻・曲物の底等がある。さらに、「大井」「千倉」等の墨書土器も数点出土した。全体的に須恵器の出土が多いのが特徴的である。

稲	田	遺	跡	県営圃場整備事業	県 教 委 (宮田・堀田)	S63.11 4 ~ 12 7 約950m²
---	---	---	---	----------	------------------	---------------------------

青山高原に源を発し、上野盆地を北流する木津川の右岸、河岸段丘低位面上に遺跡は立地する。行政上、上野市古郡字稲田に属する。現況は水田であるが、明治以後の土地整理を通じながらも条里制がほぼ現存する地域である。

調査区はL字状に曲がる排水路部分のため、南北調査区と東西調査区に分けて調査実施した。

南北調査区では敷石をもつ土城1基と幅3mの大溝1条のほかピットを検出した。大溝は直交する 東西調査区では検出されなかったため、東西調査区の手前で切れるか、東に曲がることが考えられる。 出土遺物には室町時代の瓦器椀、土師器小皿などがある。

伊賀国府推定地 ※	県 営 圃 場 整 備 事 業	県 教 委(服部久· 服部芳·中嶋·伊藤)	S 6 3.1 0. 1 ~Hl 113	5,000 m²
-----------	-----------------	--------------------------	-------------------------	----------

伊賀国府は、柘植川と服部川に挟まれた沖積平野に4町~6町四方の規模で推定されている。近い時期に圃場整備等の事業が計画されているため、字切り、水掛り等の予備調査後、巾3mで約1,700mにわたり調査を実施した。現況は水田であり、翌年度も耕作することから、畦畔や水路・道路は掘削せず、調査後は埋め戻しをして現状復帰を行なった。

調査の結果、従来の推定地の範囲内では奈良・平安時代の遺構・遺物は無いに等しい状況であり、 伊賀国府は今回の調査地区以外の場所に求めざるを得ない。検出した遺構は、東西 600 m、南北 200 mの範囲内で弥生時代後期を中心にした竪穴住居・土坑・溝・方形周溝墓、水田跡などがあり、他に 中世の柱穴群がある。

出土遺物は、弥生土器が量的に最も多く、長頸壺・広口壺・甕・高杯・器台・手焙型土器などの器種がある。次いで中世の瓦器・土師器・白磁・文明七年銘の土符があり、若干ながら古墳~奈良時代

の須恵器も出土している。なお、調査区の東部から曲物の把手付底板や人形状木製品が出土しており、 注目される。

小泉氏館跡	県営圃場整備事業	県 教 委 (服部・中嶋)	S 6 3. 5. 9 ~ 6.23	1,000 m
-------	----------	------------------	-----------------------	---------

小泉氏館跡は木津川の右岸の沖積地に位置し、近鉄伊賀線猪田道駅の南東にあったと考えられている。今回は水路部分の調査で、依那古神社の北に幅 5 m、東西長 180 mの範囲で調査した。

調査区の中ほどと西端でそれぞれ堀を検出し、摺鉢片・漆器椀などが出土した。東の堀は幅8 m、深さ2 mほどで、その内側から土塁の跡を、更にその内側から幅1 mほどの溝を検出した。このことから城館の東西の距離は、堀の内側で約50 mと推定される。しかし、この範囲からは、城館の建物跡は検出されず、火舎などを伴う集石遺構、小穴、土坑などを検出したにとどまった。城館より東では、溝2条、集石遺構、小穴、柱列などを検出した。柱列は、出土した瓦器から平安後期と思われる。溝からは、土製の犬や摺鉢などが出土した。その他の遺物として、古墳時代の壷、古瀬戸製品、天目茶椀などが出土している。

本遺跡は、広見遺跡の南東約 350 mに位置し、現況は畑である。今回は、排水路が計画されたため、その部分について、2 m×45 mの調査溝を設定し、調査を行った。

今回の調査では、遺構は認められず、遺物は少量の土師器を出土したのみである。

今回の調査地は、遺跡の縁辺部と考えられ、中心は更に東にあると考えられる。

広 見 遺 跡 県営圃場整備事業 県 教 (中嶋 =	委 S63 9.27 千年) ~ 9.28 580㎡
----------------------------	-------------------------------

本遺跡は、久米川右岸の盆地の北縁に位置し、現況はなだらかに傾斜する水田、荒地である。今回は、用水路と水田の削平を受ける部分について調査した。用水路部分の調査溝はA区($4m \times 100m$)、B区($4m \times 25m$)をT字形に設定し、水田部分については $4m \times 10m$ の調査溝を2ヶ所(C区、D区)設定した。

A、B区では、須恵器の杯、瓦器皿などがわずかに出土したのみで、遺構は認められなかった。C、D区からは、遺物、遺構ともに認められなかった。

今回の調査区は、遺跡の縁辺にあたると考えられ、遺跡の中心は調査区より南にあると考えられる。

西場谷 A 遺跡 県営圃場整備事業	県 教 委 S63. 9.26 40m
-------------------	---------------------

本遺跡は、渋田川左岸の山裾にあり、東場谷遺跡の約200 m西に位置する。河川改修により削平されるため、その範囲内に4m×2mの調査坑を5ケ所設定し、調査を行った。

現地表下約20~50㎝で黄褐色砂層の地山となり、遺物、遺構とも認められなかった。

福	地	遺	跡	県 営 圃 場 整 備 事 業	県 教 委 (中嶋 千年)	S 6 3.1 0.1 7	88 <i>m</i> ²
ı					(1 mg)	i	i I

本遺跡は、久米川と渋田川にはさまれる西へのびる丘陵の東端に位置し、現況は水田、荒地である。

今回は、用水路部分をA区(4m×7m)、水田削平部分をB区(2m×30m)として調査を行った。 A区から土師器片が少量出土したのみで、A、B区ともに遺構は検出されなかった。

試掘調査時に、遺跡の南端から12世紀頃の瓦器を多く出土し、土坑、溝などを検出していることから、本遺跡の中心は、A区の南、B区の東にあると考えられる。

本遺跡は、渋田川の左岸の山裾に位置し、福地遺跡の南東約 400 mにある。今回、河川改修に伴い削平される部分について、3 m×25 mと 3 m×10 mの調査溝を設定し、調査を行った。

摺鉢片、土師器片をわずかに出土したのみで、遺構は検出されず、遺跡の性格は確定し得なかった。

奥小波田 3 号 墳	県 営圃 場 整 備 事 業	県 教 委 (中嶋 千年)	S 6 3.1 0.2 6	105 <i>m</i> ²
------------	----------------	------------------	---------------	----------------

本遺跡は、西場谷 A 遺跡の約 180 m西に位置し、現況は山林である。河川改修に伴い削平を受けるため、墳丘の裾に 3 m×35 mの調査溝を設定し、調査を行った。

遺物は認められず、周溝も確認されなかった。

伊賀盆地の北部、河合川と柘植川が合流する付近は、県下最大の前方後円墳、御墓山古墳をはじめ、四世紀前半の築造時期が考えられる東山古墳、前方後円墳数基を擁する外山、鷺棚の古墳群他、卓越した古墳が分布する。今回、調査の対象となった2基の古墳は、外山、鷺棚古墳群の所在する信楽高原東端の標高250 m前後の丘陵上に位置している。

奥弁天 4 号墳は、外山古墳群の丘陵尾根北側下の谷に築かれた 6 世紀後半代の横穴式石室をもつ円墳である。石室内は既に攪乱、盗掘をうけ、出土遺物は多くなかったが、須恵器(提瓶、高杯、壷、坏蓋)、土師器の坏、鉄刀の破片、刀子、耳環、珍しいものではトンボ玉と呼ばれるガラス玉が出土している。また、羨道付近において黒色土器が 4 個体出土している。

源六谷1号墳は奥弁天4号墳の北、岩瀬川左岸を少し入った丘陵支尾根に築かれた円墳で、墳頂部から木棺直葬された3つの埋葬主体部が検出された。出土遺物は、須恵器(甕、短頸壷、提瓶、坏身蓋、壷)、土師器(壷、小型壷、高杯)、刀子、鉄鏃が出土した。出土遺物から6世紀前半の築造時期が規定され、3つの埋葬主体部についても、あまり時期差はないと考えられる。

	古墳	古墳の	埋葬施設	3	<u>፯</u>	室	羨	道	出	± à	数
	の形	規模	连	幅	長	高	幅	長	土師器	須恵器	その他
									杯 4	髙杯 2	鉄刀破片
奥弁天		径 16 m	横穴式石室						黒色土器	壷	刀子
	円墳		(南に開口)	1.7	4.5	2.4	1.4	4.5	4	提瓶	耳環 2
4 号墳		高さ4 m	全長約9m	m	m	m	m	m	土師器皿	杯蓋	トンポ玉 6
											不明鉄製品

	古墳	古	墳の	4411	##		=n.	483	F	נועב	H	Ц	土		遺	4	b
	の形	規	模	埋	葬	施	設	幅	長	深	土自	市 器	須	恵	器	鉄	器
				木棺直	葬												
NET - L. Z.S			10	第1主体		割竹	型木棺	2.3 m	5.6 m	1.6 m	小型量 高杯	ē. ā	蹇、	. 提	瓶、	刀子、	鉄鏃
源六谷	円墳	径	17 m	L									(20)	質壷			
1号墳	13.7	高さ	2.5 m	第2主体	本	組合:	式木棺	1.4 m	2.9 m	0.9 m		ž 4 .	杯	盖、	杯身、		
				第3主体	本	割竹	型木棺	1.6 m	3.2 m	0.9 <i>m</i>	高杯 2	?	杯	盖、	杯身	刀子。	鉄鏃

服部川左岸、富岡、中島、真泥の一段高い段丘上は、野台古墳群をはじめとする多数の古墳、遺跡の密集しているところである。

本古墳群は6基あり、そのうち2基を対象として調査を行なった。

3 号墳は、径20mの円墳で、東開口の横穴式石室を有し、玄室から羨道にかけて排水溝をもち、玄室長45m、幅2mである。左側壁面の石は1段を残すのみで盗掘をうけている。遺物は、須恵器の破片・玉類など出土している。築造年代は、6世紀前葉と思われ、6世紀末にかけて追葬が行なわれたと考えられる。

4 号墳は、径11mの円墳で、美道部、玄室の一部が崖で崩れている。遺物は、須恵器の杯、短顎壷、椀など完形品多数出土している。出土遺物から6世紀末の築造と考えられ、7世紀初めにかけ追葬が行なわれたと考えられる。

その他の遺構として、古墳時代の土坻墓、菱野館跡の畑、時期不明の焼土土坻がある。

畔垣内遺跡 県営圃場整備事業	県 教 委 (中嶋 千年)	$\begin{array}{c cccc} H & 1 & 2 & 8 \\ \sim & 2.13 \end{array}$	1,000m²
----------------	------------------	--	---------

本遺跡は、柘植川右岸の河岸段丘上に位置し、現況は水田、荒地である。調査箇所はA地点、B地点の2ヶ所に分かれている。

B地点では、遺跡の西の一部 450 ㎡ を調査した。溝1条、掘立柱建物1棟、小穴10余り、土坑などを検出した。溝は、高台付の須恵器の杯が出土したことから、奈良時代のものと思われる。掘立柱建物は、調査区外へのびるが、棟方向は東西で2間以上、南北2間である。時期は不明であるが、包含層から須恵器の高台付の杯や杯蓋、白磁片、瓦器片が出土していることから、13世紀末まで存続したものと思われる。

A地点では、東西 $3 m \times 9.5 m$ 、南北 $3 m \times 42 m$ 、 $3 m \times 14 m$ の調査溝を設け、竪穴住居、土坑、小穴などを検出した。遺構密度が高いため、遺構細削は行わず、釆年度再調査をすることにした。

これらのことから、本遺跡は、6世紀頃はA地点が中心で、後にB地点に移っていったと考えられる。

ſ	天	道	遺	跡	県道川東佐那具線道路	県	教	委	S 6 3.	6.29	900 <i>m</i> ²
ĺ	大	旭	退		特殊改良第1種事業	(服部	久・平子	子弘)	~	8.10	900//

本遺跡は柘植川左岸、標高約 162 mの河岸段丘上に位置する。名阪国道壬生野インターチェンジの北方約 400 mの地点である。調査以前の状況は水田であり、遺構検出面は地表面下約60cmである。調査区の形状は15 m×60 mの南北に長い長方形で、調査区北側(柘植川に近接する段丘の縁辺部)は遺構密度が高く、南側では稀薄である。

調査の結果検出された主な遺構は、竪穴住居 8 棟・溝 1 条・土坑・柱穴などである。竪穴住居は古墳時代後期のものと考えられ、その規模は 1 辺43 m~8.2 mの方形である。8 棟のうち 5 棟からはカマドが検出された。そのカマド 5 基のうち 4 基は住居跡の北辺に設置されていた。

遺物は古墳時代後期の土師器や須恵器が大部分を占めるが、それ以外では縄文土器や弥生土器の小 片・黒色土器・瓦器などである。

脇	1	田	遺	跡	県 営圃 場 整 備 事 業	県 教 委 (中嶋 千年)	S 6 3.1 2. 5 ~ 1 2. 8	1,000m²
---	---	---	---	---	----------------	------------------	--------------------------	---------

本遺跡は、宇陀川の右岸の河岸段丘上に位置し、現況は畑である。今回、削平部の600 mについて調査したが、遺物、遺構ともに認められなかった。この調査中、更に20m南の削平中の水田より土器片の散布が認められたため、3 m×35mの調査溝を2 ケ所(A、B区)と幅3 mの調査溝を東西40m、南北45mの十字形(C区)に設けた。

C区からは、わずかの土師器片を出土したのみで、遺構は確認されなかった。

A、B区からは、小穴90余り、土坑10、溝1条を検出し、小穴から羽釜片、黒色土器A類、B類の椀、土師器の椀などが出土し、包含層からも、黒色土器A類の椀、灰釉の椀、土錘などが出土した。

これらのことから、本遺跡は10世紀頃を中心とした集落跡であることが推定され、遺構密度も高い ことから、盛土対応により遺跡の保存を図った。

Ⅳ調査結果の公開

1. 三重県埋蔵文化財展

三重県埋蔵文化財展は三重県教育委員会が主催し、昭和56年度から各市町村を会場に毎年実施している。三重県教育委員会が実施した発掘調査の成果を中心に市町村が主体となって実施した発掘調査の成果もあわせて展示して広く県民に公開、社会教育の一環として埋蔵文化財保護思想の普及啓蒙に努めている。本年度は第8回を迎え、古代北勢地方の中心の1つである鈴鹿市で開催した。

今回は、「鈴鹿地方の考古資料」を主テーマとし、これまで発掘調査された 鈴鹿地方の主要遺跡、遺物を図面・写真パネル、展示遺物等で紹介した。期間 中の入場者総数は約 名であった。

(第8回三重県埋蔵文化財展開催要項)

1. 目的

県内で実施した埋蔵文化財発掘調査により出土した遺物と関連資料を公開展示し、県民に埋蔵文 化財に対する啓発と普及をはかり、文化財保護意識の高揚をはかる。

- 2. 主 催 三重県教育委員会
- 3. 共 催 鈴鹿市教育委員会
- 4. 期間 平成元年2月1日(水)~2月5日(日) 9:30~16:30
- 5. 場 所 鈴鹿市文化会館1Fさつきプラザ 鈴鹿市飯野寺家町810
- 6. 展示テーマ 「鈴鹿地方の考古資料」
- 7. 主な紹介遺跡と関連資料
- 8. 記念講演会
 - 日 時 平成元年2月4日(土) 14:00~
 - •場 所 鈴鹿市文化会館2F第一研修室
 - 講師 八賀 晋 氏(三重大学教授)
 - ・演 題 「国分寺の造営と遺構」

展 示 品 一 覧

'al D+ &7	77 H	遺物名	n±: 445	保管者
遺跡名	所 在 地		時代 代	
大 鼻 遺 跡	亀山市太岡寺町 	押型文土器片 土偶 弥生土器(壷)	紅文早期 ** 弥生中期	三重県教委
東庄内A遺跡	鈴鹿市東庄内町字 杉山	深鉢	縄文後期	三重県教委
東庄内B遺跡	鈴鹿市東庄內町字石癿	深鉢	組文,中期	三重県教委
B		外生工器(軍)	弥生中期	
北一色遺跡	鈴鹿市園府町字北一色	深鉢・鉢	縄文後期	神戸高校
地蔵僧遺跡	亀山市川崎町字地蔵僧	弥生土器(壷)	- 弥生中期	亀山市教委
上箕田遺跡	│ 鈴鹿市上箕田町 │ │	弥生土器 (壷・甕・狩猟文壷 ・銅鐸型土製品)	弥生 _そ 前期 弥生後期	神戸高校
萱 町 遺 跡	鈴鹿市神戸八丁目	彩文壷	弥生後期	清水 修氏
起遺跡	鈴鹿市安塚町	弥生土器(壷)	弥生中期	三重県教委
茶白山古墳	亀山市井田川町	須重整 · 重 · 重 · 斯 · 斯 · 斯 · 斯 · 斯 · 斯 · 斯 · 斯	古墳後期	三重俱教委
木下古墳	亀山市木下町字宮ノ前	獣帯鏡 人物埴輪	古墳後期	三重県教委
岸岡山古墳群	鈴鹿市岸岡町	家型埴輪・円筒埴輪	古墳後期	岡田 惇氏
経 塚 古 墳	鈴鹿市中瀬古町	直刀•鉄鏃	古 墳	鈴鹿市教委
伝石薬師地内	鈴鹿市石薬師町	須惠器鈴台付小壷	古墳後期	辻 昭三氏
官上道古墳	鈴鹿市小田町字宮上道	須恵器壷	古墳後期	鈴鹿市教委
塚越 1 号墳	鈴鹿市岸岡町六ノ坪	両文帯神猷鏡 二神四猷鏡 捩形文鏡 勾玉・管玉・紡錘車	古墳後期	費中克己氏
赤鄉 2 号墳	鈴鹿市秋永町	三角縁神猷鏡	古 墳	染野 勲氏
北野古墳	鈴鹿市加佐登町字北野	無文銀銭	飛 鳥	鈴鹿市教委
大欠積石塚	鈴鹿市加佐登町字大欠	和銅開珎	飛鳥	鈴鹿市教委
田茂遺跡	亀山市田茂町	円面硯	奈 良	亀山市教委
西高山A遺跡	鈴鹿市郡山町字西高山	三足円面硯 須恵器摺鉢	奈 良	鈴鹿市教委
伊勢国分寺跡	鈴鹿市国分町	軒丸瓦・軒平瓦 須恵器・土師器	奈 良	鈴鹿市教委
長者屋敷跡	鈴鹿市広瀬町	文字瓦	奈 良	村山邦彦氏
椎山中世墓群	鈴鹿市加佐登町字椎山	須恵器・薬壷	奈 良	鈴鹿市教委
河原井遺跡	鈴鹿市加佐登町字河原井	軒丸瓦•軒平瓦 灰釉净瓶	奈 良 平安前期	鈴鹿市教委
大木ノ輪遺跡	鈴鹿市林崎町	緑釉碗	平安前期	三重県教委
遺跡名	所 在 地	遺物名	時 代	保管者

	遺	跡_	名		所	在	地	遺	物	名	時		代	保	Į	管	:	者
納	所	ì		弊	津市納所町			彩文壷	木製	零・櫛	弥	生前	期	Ξ	重	県	教	委
太	田	ì	ŧ	跡	津市長岡町			銅鐸型	上製品		弥	生 後	期	Ξ	重	県	教	委
下	之庄	東	方道	磁	一志郡嬉野町中	中川		「鹿」約	会画土	器	弥	生 後	期	Ξ	重	県	教	委
伊	勢	寺	遺	跡	松阪市伊勢寺	Ŋ		軒丸瓦	軒平	瓦	奈		良	Ξ	重	県	教	委

2. 発掘遺跡現地説明会

発掘調査の途中、あるいは終了時には地域の人々に対し、文化財保護に理解を深めていただくため、現地説明会を開催し、調査結果について報告を行っている。県教育委員会が調査主体となった発掘調査に係る現地説明会は下表のとおりである。

遺跡名	所 在 地	主催者	開催日	参加人数
斎宮跡第77次	多気郡明和町斎宮	斎宮跡調査事務所	63. 6. 19	230名
天 道 遺 跡	阿山郡伊賀町西之沢	文 化 課	63. 8. 13	80名
斎宮跡第78次	多気郡明和町斎宮	斎宮跡調査事務所	63. 8. 28	180名
大鼻遺跡第4次	亀山市太岡寺町字大鼻	文 化 課	63. 10. 8	100名
斎宮跡第79次	多気郡明和町斎宮	斎宮跡調査事務所	63. 11. 3	200名
釜生田遺跡	一志郡嬉野町釜生田	文 化 課	63. 12. 17	80名
森山東遺跡	津市長岡町字宮ノ前	文 化 課	63. 12. 24	180名
太田遺跡	津市長岡町字太田•井戸	文 化 課	63. 12. 24	180名
森脇遺跡	上野市市部字森脇	文 化 課	(平成) 1.114	120名
斎宮跡第80次	多気郡明和町斎宮	斎宮跡調査事務所	1. 2. 5	180名

3. 保管遺物等の貸出し・写真等の掲載許可

県教育委員会が保管している県内各地から出土した遺物の展示会等への貸出 し、写真撮影・掲載許可等については、一定の手続きのもとに応じている。

可目	4. 7		4. 14			4. 22																				
#	63.		63.			63.																				
B III						4. 18	~ 63. 6. 3											-								
(4 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	建市納所遺跡出土	注口土器 1	東庄内遺跡出土 縄文深鉢 1	/ / 一 / 合付鉢 1	辻垣内遺跡出土 / 深鉢 1	63	数/下遺跡縄文土器 1	天保遺跡縄文土器 1	中之圧遺跡出土 前期弥生土器 3	/ 馬形埴輪 1	御前坊遺跡出土 中期弥生土器	~ 石器	深長古墳二重口縁重 2	平林 1 9 号墳遺物一括	垣内田 3 号墳遺物一括	杉垣内遺跡 土馬 4 净瓶 1	/ 井戸 2 出土 土師器	<i>"</i>	服部遺跡青磁椀	横尾墳墓群出土 蔵骨器 古銭	五輪塔	墨書士器	閑浄寺遺跡 土師器杯 『仁田』	『相類』	セセン 火ン通 際	SD14 出土 土師杯 『中万』
	世世	ZD	東田		迁	遺物	数	天	17		御		深	4	桓	加加			服品	横角			器		4	
目的	本の美術』	器」写真掲載	文土器大観』	3 巻中期1、写真掲載		市歷史民俗資料館特別展	阪のあけぼの」資料出品	掲載																		
	₽B J	「酒器	「縄文	網3		松阪市	L 松阪	写真推																		
拖	垣		细		_																			_	-	
申	×		計			開府 400年まつり 実行委員																				
	KH		÷			開府																				

曲遺跡 A地区 SE32出土土師杯『奥』 出口遺跡 SD8出土土師器皿 『口世』 遺跡全景写真またはパネル・ネガー 銅形木製品 杉垣内遺跡 土師器皿 『松女』 曲遺跡AB地区 曲遺跡A B地区 **新樹** 10 伊勢寺遺跡 土師器杯 『萬』 伊勢寺遺跡 閑净寺遺跡 堂ノ後遺跡 杉垣外遺跡 複長遺跡 土師杯 『諸人』 報告書実測図番号 64 即在遺跡 山添遺跡 出口遺跡 深長古墳 SB10 灰釉陶器皿 『中万』 灰釉陶器椀 『中万』 杉垣内遺跡 旧河道 刀形木製品 1 馬形木製品 1 遺構・遺物写真 陽物木製品 天神山古墳群 垣内田遺跡 平林古墳群 横尾墳墓群 横尾古墳群 大河内城址 木製品 椱長遺跡 服部遺跡 牧瓦窯

申 請 者	田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	田田田	五葉	粬	回日	
		平林19号墳遺物出土状況		<u> </u>		
		深長埴輪出土状況				
		加加石油 野 井 二 2				
		平面・たち割り				
		為 串 木製人形 植物				
		旧河道遺物出土状況				
		山添遺跡 SE10平面にち割り				
		壇•柏原遺跡SB12 鶴 up				
吉川 弘文館	「馬具大鑑」写真掲載	井田川茶臼山古墳出土		63.	വ	9
		鎧、鏡板、杏葉、鈴、辻金具				
三重俱立博物館	常設展「くらしの道具」	写真パネル 5点	63. 5. 26	63.	5. 1	17
	展示資料		$\sim 63.7.15$			
三重大学歷史古代史部会	三重大学大学祭展示	約所遺跡				
	~	朱彩広口畫、細類畫、萬杯、	63. 5. 27	63	5.	24
		台付聽、手塔型上器	\sim 63. 5. 30			

		琴型木製品(写真)				
焼津市教育委員会	特別展「日本農耕文化の黎明ー	- 北畑池遺跡水田跡航空写真	63. 8. 30	63.	6	က
	稲のシルクロード のパネル展	Viter	$\sim 63.10.10$			
	示、図録掲載					
「日本列島発掘展」主催	「日本列島発掘展」展示、図録	\$\	63. 7. 10	63.	6. 1	10
朝日新聞、全国埋蔵文化	の掲載	弥生時代 櫛 1	$\sim 64.9.20$			
时法人連絡協議会、全国		琴型木製品 1				
公立埋蔵文化財センター						
連絡協議会						
愛知県陶磁資料館	特別展「日本陶磁絵巻」	下文庄東方遺跡出土, 弥生壷形土器片 1	63. 9. 25	63.	6. 1	17
財団法人五島美術館	展示、図録の掲載	約所遺跡出土・土師器手焙形土器 1	$\sim 63.12.10$			
			_	_		_

В																										24		
回																										∞i		
粘																										63.		
圓																										31	9.30	_
	ļ																									∞	63.9	
難																										63	≀	
田田田田																												
鈳	・古墳と古墳時代	• 高床建物復元図	・竪穴住居の復元	• 子特勾玉	・茶臼山古墳	・古墳の形と大きさ	・馬具の名称	須惠器	• 青銅器	• 木棺直葬	• 埴 輪	• 横穴式石室	・合わせ口甕棺	写真パネル 11点	• 神前山古墳全景	• 河田古墳群	鏡の名称	• 埴輪円筒棺	•石 鲗	・手焙り式土器	• 石山古墳埴輪	・人形埴輪	・家型埴輪	寒形石	• 石製刀子	高瀬遺跡 遺構写真 1	遺構平面図 1	
目																										展 古代東国の王者一三ツ	館とその時代 展示	
中豬者																	•				and and					群馬県埋蔵文化財調査事 特別	業団 幸居	-
																										猫	**	

63 9.12		63 9 28 63 9 22	~ 63.12.9										63 9.22 63 9.22	~ 63.9.26		63. 10. 17		63. 10. 24	63. 10. 24			63 10 31 63 10 24	~ 63.11.7				
				G	3	1	2	2				-	上偶 1			写真 1		か写真 1				石器 2	石器 2	磨製石剣 1	博 出	通	石製品 1
東庄内A遺跡出土	写真 1	: 前期土器 8	後 // 7	路 S X 1 出土	SB1 "	石包丁	野 SB2	S X 23	1	小型電 2	断 石包丁 1	写真ネガ	上器 9	石器 40	上器 5	縄文土器片写真		弥生彩文童の写真	跡 水田跡写真			断 土器 1	上器 1	重 2	跡 小形土 3	四獣鏡 1	銅鏃 3
H A		薮遺眑		黎山灣			垣外遺		所遍路		垣外遺	薮遺跡	鼻遺跡		薮遺跡	鼻遺跡		所遺跡	4年治遺			垣内遺	山海野	切遺跡	中補遺	山古墳	
常設展「尾張の歴史」(仮)に 東圧内	使用際	特別展「伊勢市の弥生文化一宮 大薮遺跡	川流域の弥生文化を探る」展示	中黎山遺跡			野垣外遺跡		約所遺跡		赤垣外遺跡	大数遺跡	シンポジウム「縄文早期を考え 大鼻遺跡	る一押型文化の諸問題」参考展	示	「縄文土器大観」第1巻 大鼻遺跡	草創期・早期・前期への写真掲載	「 車市の文化財 」への掲載 納所遺跡	「古代史復元」第6巻 北畑池遺跡	古墳時代の王と民衆への写真掲	載	第1回阿山町埋蔵文化財展、展 辻垣内遺跡	示中一一十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	北切遺跡	北中溝遺跡	東田上墳	

期間 許可日																					63. 10. 25				63 10 27 63 10 25	~ 63.11.4	
留 用	品 2 器台 1	士師器の高杯 1	1	J W	小形のコップ 1	1	1	1	1	1 (第 1 目 1)	7	然 2	2 杯 4	1 灯明皿 1	すりばち 1	×9 1	30×45×90) 1					構)			8	刀子 1 器台 1	垂 1 高杯 1
貸	鉄製品	上部	近代古墳 埴輪	高瀬遺跡 こしき	一	補遺跡 硯	1本木遺跡 椀	北堀池遺跡 硯	公治	的場遺跡 瓦器	少街	西沖遺跡 山茶椀	恒岡氏城 小皿	整	福地氏城すり	下郡遺跡 のこぎり	ガラスケース (180×45×90)	文字パネル 13	写真パネル 9	キャプション	写真	東山古墳(鏡・遺構	北中溝遺跡(遺構)	恒岡氏城(遺構)	[1] 納所遺跡 鍛	高松弥生墳墓	
的																					山山				大学祭展示「三重の方形周溝墓」		
本																					<u> </u>						
舞																					冝				皇学館大学考古学研究会		

							63 11 4 63 11 2	$\sim 63.11.7$					63.11.7	63 11 12 63 11 7	~ 631113					63.11.16			63.11.14		63.12.2		
片野遺跡 広口童 1	下之庄東方遺跡 童 5	金剛坂遺跡 広口童 2	高 杯 3	野垣内遺跡 壷 2 高杯 1	北切遺跡 童 2 聽 1	大鼻遺跡 華 1 小形華 1	下之庄東方遺跡 弥生細頸童 2	/ 広口画 1	上師器瓢童 1	/ 選 2	, H 1	遺跡空中写真パネル	納所遺跡出土 琴写真 1	伊勢寺遺跡出土	軒丸瓦 5 軒平瓦 9	士師器皿 2 土師器杯 1	須恵器杯蓋 1 須恵器杯 1	緑釉陶器 1 鉄製品 1	パネル 5	納所遺跡出土 琴、櫛	宮間土遺跡出土 和鏡	亀井遺跡出土 双脚亜	納所遺跡 全景 出土品写真撮影		「歴史の道調査報告 一熊野街道一	P 59 所収の写真 1	
							嬉野町文化祭での展示公開						「三重県風土記」写真掲載	地区文化祭での展示公開									「新日本風土記・三重県」への	掲載	伊勢志摩を歩く」掲載		
							嬉野町教育委員会						第 風 土 社	松阪市伊勢寺町、郷土研	完全					車 市 教育委員会			(株) 童 夢		皇学館大学		

<u></u>	27		12																	10		20					
回田	12.		-																	%		83					
糕	63.		64.																	7		-					
圖			18	24					-											15	14	12					
				7																8	4	62					
羅			႕																	-	₹	H					
田田田田	「明治十五年農商務省第8号達古来船舶図書調」所収のと	ラタ松の図 1	福地域 香炉 1 染付皿 3	天目茶碗 1 すり鉢 2	的場遺跡 灰釉小瓶 1	小国 2 初釜 1	瓦器小皿 2 乾 2	東山遺跡 土師器 2	網鎖 1	一本木遺跡 須恵器皿 1	展示用ガラスケース 180×70×90(cm)	文字パネル 9	弥生、古墳、室町時代	埋蔵文化財保護のために	横穴式石室、青銅鏡	青磁·白磁、灰釉・緩釉	写真パネル 4	鏡の名称、堀立柱建物群	伊賀(地図)、御墓山	北期池遺跡出土 木製品 4		井田川茶臼山古墳	スライド 各1	横穴式石室 ,馬具	面文帯神獣鏡、装身具	銀象嵌太刀、土器及び出土状況	木ノ下古墳
6 目	企画展図録「伊勢湾をめぐる船」	の文化」掲載	「伊賀町埋蔵文化財展示会」で │ ネ	の展示			,	Inter				F)								年輪年代学のデーター収集のた	めの測定	「親子文化財教室」での映写、	公開				
中離者	名古屋市博物館		伊賀町教育委員会						_											奈良国立文化財研究所、	埋蔵文化財センター	亀山市教育委員会					

		3. 7			3. 7			3. 7		3. 13		3. 28	
		-			-1			٦		-		ij	
								3.28	$\sim 1.6.24$	1 3 16	1. 3. 22	L 3.27	1. 4. 7
スライド 各 1 円筒埴輪出土状況	尊石検出状況	亀井遺跡出土 双脚童	約所遺跡出土 木橋	モノクロ写真	茶臼山古墳 馬具、冠	前山古墳 馬具	天保古墳 馬具	横尾1号、3号出土金環 1	<i>`</i>	牧瓦窯出土 軒平瓦 3 1 1	■ 1 1 1 1 1 1 1 1 1	田丸城航空写真 1 1	?
		「古代史復元」第5巻、弥生人	の造形に掲載		金銅装遺物の金渡金調査			企画展「男と女の化粧展」での	展示、公開	地域住民への公開、展示		「グラフ三重」一城のある風景	一掲載
		談社			興寺文化財研究所			松阪市歴史民俗資料館		多気町教育委員会		伊勢新聞社	

付〔1〕 〔三重県文化財調査員設置要綱〕

沿革 昭和52年5月1日施行 昭和53年5月1日改正 昭和59年11月1日改正

(目 的)

第1条 三重県内に所在する埋蔵文化財を中心とし、必要に応じてその他の有形文化財、民俗文化財、史跡名勝天然記念物(以下「文化財」という。)の保護の万全を図るため、三重県文化財調査員(以下「文化財調査員」という。)を設置する。

(任 務)

- 第2条 文化財調査員は、次に掲げる調査事項 に従事する。
- (1) 三重県文化財パトロール事業における文化財の巡視及び調査
- (2) 国、県営の各種土木建設事業における文 化財の分布及び確認調査
- (3) 埋蔵文化財発掘調査における調査協力
- (4) その他、文化財の保護に関し必要と認め る調査

(定数)

第3条 文化財調査員の定数は、60人以内と する。

(任用)

- 第4条 文化財調査員は、地方公務員法第3条 第3項第3号の規定により任用する。
- 2 文化財調査員は、大学において考古学、歴 史学を専攻した者又は、それに準ずる専門的 知識を有する者のうちから、教育委員会が任 命する。
- 3. 文化財調査員の任用期間は1年とし、再任

することができる。

(勤務条件等)

第5条 文化財調査員の勤務条件、事務処理その他服務に関し必要な事項は、教育長の承認 を得て別に定める。

(報酬の額)

第6条 文化財調査員の報酬の額は、特別職に 属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関す る条例(昭和36年条例第3号)第2条の別 表の規定に基づき教育長が別に定める。

(費用弁償)

第7条 文化財調査員の費用弁償の額は、職員 等の旅費に関する条例(昭和32年条例第46 号)に規定する行政職4等級の職務にある者 に支給される旅費の額に相当する額とする。 (公務災害補償)

第8条 文化財調査員にかかる公務災害補償は 議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補

償等に関する条例(昭和 4 2 年条例第43号)

(補 則)

の定めるところによる。

第9条 この要綱に定めるもののほか、文化財 調査員に関し必要な事項は、教育長の承認を 得て別に定める。

附 則

1. この要綱は、昭和59年11月1日から施 行する。

付〔2〕 〔昭和63年度 三重県文化財調査員一覧〕

中 中 中 市 市 市 市 市 市 市	地区	E	E	4	3	4	助数	3 9	ŧ	勤	務	地	(下段	現住所)	電	話	番	身
秦名・員弁・四日市・三重・鈴鹿・亀山 津・安芸・一志・久居 松阪・多気・飯南・飯高田田松川 桐 鎌 大 三 安 河高 下 小 本 津 宮福田 田 四 部 東 南 松明 飯 東 芸 村 久 鎌 第 東 南 松明 飯 南 田 四 部 本 林 谷 居 井 村 堂 村 崎田 古 本 林 谷 居 井 村 堂 村 崎田 古 本 林 谷 居 井 村 の 小 中 小 中 小 中 小 中 小 東 高 三 井 の の の の の の の の の の の の の の の の の の		伊	東								·								$\neg \neg$
· 員弁·四日市·三重·鈴鹿·龜山 建·安芸·一志·久居 松 灰 · 多気 · 飯南 · 飯高 · 飯高 · 飯面 · 飯 和 東 南 松 明 飯 和 東 南 松 明 飯 和 東 南 松 明 飯 和 東 南 松 明 飯 面 井 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本		片	岡	雅	章	Ш	起	ž.	髙										
- 四日市・三重・鈴鹿・亀山 準・安芸・一志・久居 松阪・多気・飯南・飯高 二 井 秋 堂 村 崎田 古 本 林 谷 居 井 秋 堂 村 崎田 古 古 本 林 谷 居 井 神 ・安芸・一志・久居 松阪・多気・飯南・飯高 二 井 徳高 出	桑名	田	中	伸	之	城	룜	ã	小										
- 四日市・三重・鈴鹿・亀山 準・安芸・一志・久居 松阪・多気・飯南・飯高 二 井 秋 堂 村 崎田 古 本 林 谷 居 井 秋 堂 村 崎田 古 古 本 林 谷 居 井 神 ・安芸・一志・久居 松阪・多気・飯南・飯高 二 井 徳高 出	員弁	松	本		覚	東	員第	₹ =	中										
·三重·鈴鹿·亀山 津·安芸·一志·久居 松阪·多気·飯南·飯高		ЛІ	添		護	桑	名	í	髙										
重·鈴鹿·亀山		桐	生	定	己	西	笹	Ш	中										
金田 10 10 10 10 10 10 10 1	重	鎌	田	雅	生	八	届	i.	中							!			
世 安 川 富 春 関 中 営 川 高 春 関 中 営 小 中 国 良英 東 知 弘 善 彦 さ 村 久 居 田 田 知 小 中 中 小 本 津 宮福 田 古 本 林 谷 田 田 四 小 東 南 松 町 ・ 東 南 松 町 ・ 東 南 松 町 ・ 東 南 松 町 ・ 東 南 松 町 ・ 東 南 松 町 ・ 東 南 松 町 ・ 東 南 松 町 ・ 東 南 松 町 ・ 東 南 松 町 ・ 東 南 松 町 ・ 東 南 大 ・ 東 南 大 ・ 東 南 大 ・ 東 南 大 ・ 東 高 上 時 日 井 博 之 飯 南 ・ 飯 高 車 中	鈴鹿	大	場	範	久	石	薬	師	高										
		Ξ	浦	儀	直	若	粒	Ž.	小										
高 下 小 中 中 小 中 中 小 中 中 小 中 中 小 中 市 和 弘 善 并 和 弘 善 并 和 弘 善 并 和 弘 善 并 和 弘 善 并 相 显 中 中 小 中 小 中 小 中 小 中 小 中 小 中 小 東 南 松 町 市 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和		安	Ш	富	春	舆			中										
建・安芸・一志・久居 東 無 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 市 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 本 中 中 中 本 中 中 中 本 中 中 中 本 中 中 中 本 中 中 中 本 中 中 中 本 中 中 中 本 中 中 中 本 中 中 中 本 中 中 中 本 中 中 中 本 中 中 中 本 中 中 中 本 中 中 中 本 <th></th> <th>河</th> <th>合</th> <th>良</th> <th>成</th> <th>自</th> <th></th> <th></th> <th>営</th> <th></th>		河	合	良	成	自			営										
· 安芸· - 志· 久居 中 市 市 <tr< th=""><th></th><th>高</th><th>森</th><th>英</th><th>純</th><th>豊</th><th>Ħ</th><th>3</th><th>小</th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th>ļ</th></tr<>		高	森	英	純	豊	Ħ	3	小										ļ
一志·久居		下	井		彰	東	匍	į	中										
志・久居 中 中 小 中 小 原 南 田 中 小 原 南 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田		小	林	和	彦	芸	溏	ŧ	中										
宮崎洋史 福田哲也鎌田中 松阪・多気・飯南・飯高 一 松 阪市教委 南・飯高 三 井 博 之 飯 高 東 中	志・	本	堂	犯	之	村	É	Ē	小						i				
福田哲也鎌田中 松阪・多気・飯南・飯高 二井 博之 飯 高 東 中	月月	津	村	善	博	久	扂	3	中										
福田哲也鎌田中田哲也第四小田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田		宮	崎	洋	史														
(本) (本) (水						鎌	Ħ	1	中										
阪・多気・飯南・筒 居 利 久 明 和 中 飯高 こ 井 博 之 飯 高 東 中	松	世	古	且	守	第	21	3	小										
気・火 塩 八 州 塩 八 州 小 大 奥 谷 義 一 松 阪 市 教 委 南 筒 居 利 久 明 和 中 飯 高 東 中	阪	岡	本	好	雅	東	咅	ß	中										
歌 筒 居 利 久 明 和 中 飯 高 三 井 博 之 飯 高 東 中	多気	小	林	直	人	南			小										
・ 同 店 和 久 剱 和 中 飯 高 三 井 博 之 飯 高 東 中		奥	谷	義	-	松	阪市	す 教	委										
高二升段乙城商米平	•	筒	居	利	久	明	利	П	中										
		Ξ	井	博	之	飯	髙	東	中										
福田昭久保中		福	田		昭	久	G	Ř	中										

地区	E	 F:	2	ζ,	-	助 犭	务 5	ŧ	勤	務	地	(下段	現住所)	雷	話者	*	骨
702	中	西	IE.	典	玉		克	中	39/J	30	~-	\ 1 tX	-SULLI/I			HH 1		-
		西西	素	行	外	城	田田	小										
			7 1%	11	76	744	щ	/ J .										ļ
伊勢	東		浩	成	志	<u> </u>	图	高										
度	中	西		健	宿	田	曽	中										į
会 •	中世	古	_	芳	五	ケ	所	小										
鳥羽	村	Ł	喜	雄	安	楽	島	小										
志	竹	内	Œ	犯	和	ţ	ŧ	小										
摩	Ш	添	昭	愽	東	à	¥	中										
	田	村	俊	-	中	Ē	3	小										
	市	田	進															
		ш.	/r-fa						ŀ									
	福	井	健	=														
上	中	山		暁	崇	D	5	中										
野・	柘	植	智	司														
山山	寺	岡	光	三	会	ŧ	ŧ	員										
名	森	前		稔	名	3	Ę	中										
賀・	奥	西		勲	穐	之	原	小										
名張	松	鹿	昭	=	名	張	西	高										
	竹	内	英	雄	梏	梗ば	5 丘	中										
	谷	戸		実	赤	E	3	小										
尾北 鷲牟 • 婁	田湊	崎	通章	雅治	中長	央点	◇ 民 •	館高	,,,,,,								-	
熊	福	村	直	ᄉ	阿	田	和	小										
野・南	田	#	安	弘	御	ď	Ę	小										
南牟婁	古	部		均	井	B	8	小										

o 勤務先欄 ※印は教頭職

付〔3〕 〔昭和63年度 三重県文化財パトロール実施要項〕

1. 趣 旨

県下における指定文化財(国・県)及び埋蔵文化財包蔵地(以下文化財という。)を巡視し常時文化財の管理・保存状況を把握し、適切な処置を講じて、文化財保護の万全を期する。

2. 活動内容

- (1) 文化財管理、保存状況把握のための巡視
- (2) 所有者等に対する文化財の保護管理指導
- (3) 巡視、保護管理指導についての結果報告
- (4) 文化財保護思想についての普及活動
- (5) その他文化財の保護保存に関すること
- 3. 期間

昭和63年5月1日~昭和64年3月31日

- 4. 事業の実施について
- (1) 事業は、各教育事務所が執行するものと し、各教育事務所長は実施計画書(様式1) を2期にわけて、三重県教育委員会文化課 長に提出する。
- (2) 文化財パトロールは、三重県教育委員会 が任命した三重県文化財調査員が、前項実 施計画書に基づき、実施する。
- (3) 三重県文化財調査員は、文化財バトロール実施報告書(様式2)を毎月末までに各教育事務所長に提出し、各教育事務所長はとりまとめて翌月10日までに文化課長に提出する%なお、緊急事態が発生した場合は、電話その他の方法により、すみやかに関係教育事務所に報告する。

- ※(その写しを関係市町村教育委員会へも送付)
- (4) 各教育事務所長は、緊急事態の状況に応 じて、文化課長及び関係市町村教育委員会 に連絡する。
- (5) 文化課長は、前項の状況により、早急に 文化財パトロールカーを出動させ、文化財 の保護対策を講じる。
- (6) 事業の執行にかかる経費は、2期にわけて予算を令達する。各教育事務所長は、全事業終了後、すみやかに実績報告書(様式3)を文化課長に提出する。 (昭和63年4月2日までに)
- (7) その他必要な事項は、そのつど文化課長が指示する。

〈様式3----- B 5 判〉

平成 年度 文化財パトロール事業実績報告

平成 年 月 日付け第

号で事業施行の通知のあった

文化財パトロール実績について、下記の通り報告します。

記

1. 文化財パトロールの実績

月	В	調	査	員	パトロール地区	備	考
							:
				!			
i							

2. 支 出 証 明 書

項	目	令	達	額	支	出	額	内	訳
		1						※ 旅費については、 明記すること。	行き先、回数を

〈様式1----- B 5 判〉

文 化 財 パ ト ロ ー ル 実 施 計 画 書

平成 年 月 日 (1) 平成 年 月 日

月	B	調査員名	パトロール地区	内	容	備	考

〈様式 2----- B 5 判〉

文化財パトロール実施報告書

経	曲	平成	年	月 教育事務	日 野所 日	所 長 印			
文パ調調	化 財 日 章 査 員								
	文化財の名	名称	所	在	地	調	査	事	項
報									
告事						※ 裏	面に、問題箇所	乐。 息的倒。	写直签
項							のこと。	TO TOPACE	320
備	考								

付〔4〕 〔昭和63年度埋蔵文化財発掘技術者研修実施要項〕

1. 目 的

埋蔵文化財の発掘調査および保存について の専門的知識と技術の習慣につとめようとす る者を、県外の埋蔵文化財関係研究機関に派 遣し研修を受けさせるとともに、県内におい ても現地研修を実施し、埋蔵文化財の保護体 制の強化に資することを目的とする。

- 主 催
 三重県教育委員会
- 3. 期 間昭和63年4年1日から翌年3月31日まで県外研修 3カ月間県内研修 9カ月間
- 4. 場 所

県外 奈良市二条町 奈良国立文化財研究 所 平城宮跡発掘調査部 奈良国立文化財研究所 埋蔵文化財 センター

> 櫃原市木之本町 奈良国立文化財研 究所 飛鳥藤原宮跡発掘調査部

県内 発掘調査現場・斎宮跡調査事務所

- 人 員
 6名(小、中、高校教員)
- 6. 参加資格
 - (1) 県内の小中高校の教職員のうちで、大学 において考古学・歴史学を専攻、もしくは 発掘調査の経験を有する者
- (2) 健康で現場作業に従事することのできる者で、昭和28年4月以降生まれである者

7. 研修内容

(1) 講 義

総論 ・文化財の保護

各論 • 文化財保護法

- ・史跡・埋蔵文化財保護の現状
- ・発掘調査方法 調査計画、墳墓・集落・生産所 窯・宮殿・官衙・寺院跡の調査
- ・遺物調査方法実測原理、土器・土製品・石器木製品・瓦の観察と整理、人骨動植物遺体の調査
- 関係学概説 建築構造、測量、保存科学、文 献史学
- 報告書作成方法 等
- (2) 実 習
 - 発掘調査実習、測量実習、遺跡実測実習写真撮影実習、遺物保存処理実習等
- 8. 講 師 奈良国立文化財研究所技官•県係員 他
- 9. その他
 - (1) 研修者の旅費は、県の旅費規程にしたがって支給する。
- (2) 研修期間中は、当該学校に対し教員の補充がなされる。
- (3) 研修を終了した者には、修了証書を交付する。

付(5) (文化財保護の指導要項)

① 適用の範囲

文化財保護法・県条例の適用を受ける開発 事業および文化財の所在地の形質の変更につ いて適用する。

- ② 文化財の所在の確認
 - (1) 史跡・名勝・天然記念物
 - ② 文化財地図・文化財台帳・文化財一覧表によって照合する。
 - 回 開発区域内の文化財確認調査を実施する。この場合は、県教育委員会文化課の認める者により現地において確認調査を行ない調査報告書を提出させる。
 - (2) 埋蔵文化財
 - ① 遺跡地図・遺跡台帳によって照合する。
 - 回 開発区域内の遺跡分布調査を実施する。 この場合についても現地において県文化 財調査員または、県教育委員会文化課の 認める者による分布調査を行ない調査報 告書(書式2)を提出させる。
- ③ 文化財の保存方法
 - (1) 史跡・名勝・天然記念物
 - ① 開発区域より除外する。
 - ② 文化財の周囲で開発事業を実施する場合には、維持・管理方法および環境変化を検討し、保存に影響のないよう考慮する。
 - (2) 埋蔵文化財
 - ① 現状保存とする。ただし整備して保存する場合は、整備計画書を提出させる。

- ② 発掘調査を必要とする場合は、現状保存が困難な事由を説明し、その箇所の開発事業設計図面(平面図、縦断面図)および発掘調査計画書ならびに調査計画図面を提出させる。ただし、保存の可否は発掘調査終了後その結果にもとづき決定する。
- (3) 保存については保護措置書(書式1)を 提出させるとともに覚書もしくは協定書を 締結する。

④ 経費の負担

文化財確認調査・遺跡分布調査・発掘調査 および保存に要する経費は、原則として原因 者負担とする。 (書式1)

年 月 日

文 化 財 の 保 護 措 置

教育委員会教育長殿

住所

事業主 氏名

(FI)

電話

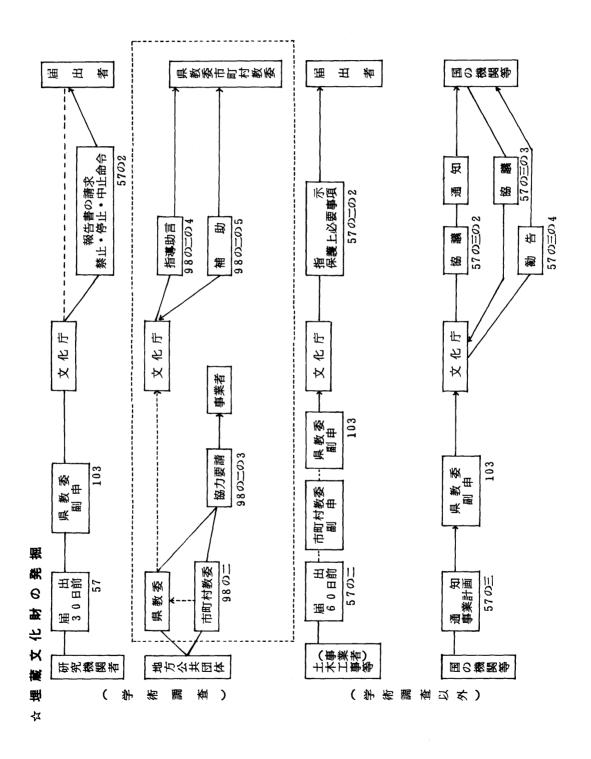
事業地		市 郡		町 村	大字		計画面積	m²
事業名								
文化財地図 遺跡地図・7	・台帳 台帳との照合							
文化財調査	年	月	日					
調査担当者								
文化財保護協	協定の締結	年	月	日	遺跡発見届	ź	手 月	日
該 当文化!	財の名称			保	護	措	置	
	;							
備考								

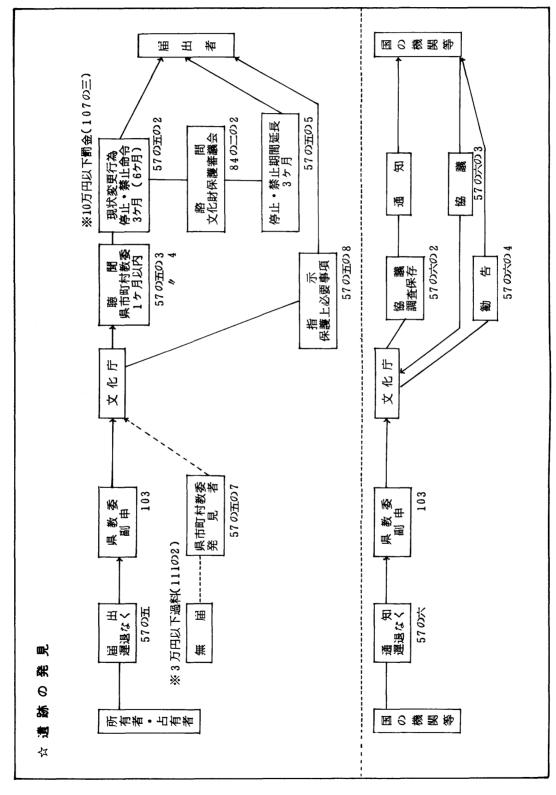
[※] 分布調査の結果、確認されなかった場合は、その旨を備考欄に記入のこと。

文化財調査報告書

事	業	地			市郡		H	力大	字									計画	面 積			m
事美	業	名	住名代	所 称 を者氏	名			_								事業						
			電	話												名						
調査	担	当者	3																			
調査	期	間		年	Ξ	月	1	3	~		年		,	月		日	()
調査地の概況		(B	見泥地	也目。	地形等	等)										· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						
調査方法																						
		ź	3	栵	Γ		規	模	•	現	状	•	出	土	品			備		考	(時代	(J
文																						
化																						
財																						
ø																						
概																						
况																						
備考																						

〔埋蔵文化財関係事務の流れ〕





付〔7〕

〔発掘等に関する手続き〕

調査のための発掘に関する手続

第57条 土地に埋蔵されている文化財(以下「埋蔵文化財」という。)について、その調査のため土地を発掘しようとする者は、文部省令の定める事項を記載した書面をもって、発掘に着手しようとする日の30日前までに文化庁長官に届け出なければならない。ただし、文部省令の定める場合は、この限りでない。

(様 式)

(文書番号)

年 月 日

文 化 庁 長 官

届出者 住所

氏名 (名称及代表者氏名)@

埋蔵文化財発掘調査届出書

文化財保護法第57条第1項の規定により、下記のとおり届け出いたします。

記

- 1. 発掘予定地の所在地の所在及び地番
- 2. 発掘予定地の面積
- 3. 発掘予定地に係る遺跡の種類、員数及び名称並びに現状
- 4. 発掘調査の目的
- 5. 発掘調査の主体となる者の氏名及び住所
- 6. 発掘担当者の氏名及び住所並びに経歴
- 7. 発掘着手の時期
- 8. 発掘終了の予定時期
- 9. 出土品の処置に関する希望
- 10. その他参考となるべき事項
- 一添 付 書 類一
 - 1 発掘予定地及びその附近の地図 (2万5千分の1及び千分の1に位置、範囲を記入)
 - 2. 発掘担当者が発掘調査の主体となる者以外であるときは発掘担当者の発掘担当承諾書

- 3. 発掘予定地の所有者の承諾書
- 4. 発掘予定地につき権原に基づく占有者があるときは、その承諾書
- 5. 発掘予定地の区域において、石灰石、ドロマイト、耐火粘土、砂鉱等 地表に近い部分に存する鉱物につき鉱業権が設定されているときは、当 該鉱業権者の承諾書

くそ の 他〉

(埋蔵文化財発掘調査計画書「三重県開発事業に関する計画設計の技術基準」 の文化財保護の指導要項の書式3を必ず添付)

()は参考

土木工事等のための発掘に関する手続

第57条の2 土木工事その他埋蔵文化財の調査以外の目的で、貝づか、古墳その他埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地(以下「周知の埋蔵文化財包蔵地」という。)を発掘しようとする場合には、前条第1項の規定を準用する。この場合において、同項中「30日前」とあるのは「60日前」と読み替えるものとする。

(様 式)

(文書番号)

年 月 日

文 化 庁 長 官

届 出 者 住所 (事業主体者) 氏名 (名称及代表者氏名)@

埋蔵文化財発掘届出書

文化財保護法第57条の2第1項の規定により、下記のとおり届け出いた します。

記

- 1. 土木工事等をしようとする土地の所在及び地番
- 2. 土木工事等をしようとする土地の面積
- 3. 土木工事等をしようとする土地の所有者の氏名又は名称及び地番
- 4. 土木工事等をしようとする土地に係る遺跡の種類員数及び名称並びに現状
- 5. 当該土木工事等の目的計画及び方法の概要(埋蔵文化財所在地における 土木工事計画とその方法)

- 6. 当該土木工事等の主体となる者(当該土木工事等が請負契約等によりな されるときは契約の両当事者)の氏名及び住所
- 7. 当該土木工事等の施工担当責任者の氏名及び住所
- 8. 当該土木工事等の着手の時期(埋蔵文化財の所在地における土木工事着 手の時期)
- 9. 当該土木工事等の終了の予定時期(埋蔵文化財の所在地における土木工 事終了の時期)
- 10. その他参考となるべき事項
- 一添 付 書 類一

土木工事をしようとする土地及びその附近の地図並びに当該土木工事等の 概要を示す書類及び図面

国の機関等が行なう発掘に関する手続

第57条の3 国の機関、地方公共団体又は国若しくは地方公共団体の設立に係る法人で政令で定めるもの(以下この条及が第57条の6において「国の機関等」と総称する)が、前条第1項に規定する目的で周知の埋蔵文化財包蔵地を発掘しようとする場合においては、同条の規定を適用しないものとし、当該国の機関等は、当該発掘に係る事業計画の策定に当たって、あらかじめ文化庁長官にその旨を通知しなければならない。

(様 式)

文 書 番 号

年 月 日

文 化 庁 長 官

通知者

(事業主体者) 名称及び代表者氏名@

○○事業に伴う埋蔵文化財の発掘について

文化財保護法第57条の3第1項の規定により、下記のとおり通知いたします。

記

(第57条の2第1項の記載事項及び添付書類を準用する。ただし7の当該土木工事等の主体となる者の氏名及び住所は、機関法人、団体の名称及び代表者の氏名並びに事務所の所在地とする。)

付〔8〕

〔遺跡の発見に関する手続〕

第57条の5 土地の所有者又は占有者が出土品の出土等により貝づか、住居跡、 古墳その他遺跡と認められるものを発見したときは、第57条第1項の規定に よる調査に当って発見した場合を除き、その現状を変更することなく、遅滞な く、文部省令の定める事項を記載した書面をもって、その旨を文化庁長官に届 け出なければならない。ただし、非常災害のために必要な応急措置を執る場合 は、その限度において、その現状を変更することを妨げない。

(様 式)

(文書番号)

年 月 日

文 化 庁 長 官

届出人 住所

氏名 (名称及び代表者氏名) @

遺跡発見届出書

文化財保護法第57条の5第1項の規定により、下記のとおり届け出いた します。

記

- 1. 遺跡の種類
- 2. 遺跡の所在地及び地番
- 3. 遺跡の所在する土地の所有者の氏名又は名称及び住所
- 4. 遺跡の所在する土地の占有者の氏名又は名称及び住所
- 5. 遺跡の発見年月日
- 6. 遺跡を発見するに至った事情
- 7. 遺跡の現状
- 8. 遺跡の現状を変更する必要のあるときは、その時期及び理由
- 9. 出土品のあるときは、その種類、形状及び数量
- 10. 遺跡の保護のために執った又は執ろうとする措置
- 11. その他参考となるべき事項
- 一添 付 書 類一

遺跡が発見された土地及びその附近の地図並びに土木工事等により遺跡の 現状を変更する必要があるときは、当該土木工事等の概要を示す書類及び図面

国の機関等の遺跡の発見に関する手続

第57条の6 国の機関等が前条第1項に規定する発見をしたときは、同条の規定を適用しないものとし、第57条第1項又は第98条の2第1項の規定による調査に当って発見した場合を除き、その現状を変更することなく、遅滞なく、その旨を文化庁長官に通知しなければならない。ただし、非常災害のために必要な応急措置を執る場合は、その限度においてその現状を変更することを妨げない。

(様 式)

文 書 番 号

年 月 日

文 化 庁 長 官

通知者 名称及び代表者氏名®

○○事業に伴う遺跡発見について

文化財保護法第57条の6第1項の規定により、下記のとおり通知します。

記

(第57条の5第1項の記載事項及び添付書類を準用する。)

地方公共団体が行なう発掘調査に関する手続

文化財保護法の一部を改正する法律等の施行について(文化庁次長通達)の第 11地方公共団体及び教育委員会関係(1)を参照のこと。

(様 式)

文 書 番 号

年 月 日

文 化 庁 長 官

通知者 名称及び代表者氏名®

埋蔵文化財の発掘調査について(通知)

埋蔵文化財を発掘調査しますので、下記のとおり通知いたします。

記

(第57条第1項の規定を準用)

付〔9〕 (埋蔵文化財発掘通知・届出一覧表〕 〈法第9 8条の2による通知〉

連 部 名	(仏弟90条の)	?による通知〉					
	遺跡名	所 在 地	事業名	面積(m)		受付年	月日
無 名 塚 志摩郡大王町敦切 1213-6	走り下城跡	亀山市太岡寺町北谷	工場建設	2000		63. 4	l. 4
無 名 琴 歩車	光於堂遺跡	亀山市中庄町光於堂	学 校 建 設	2173	"	63. 5	i. 16
据 技 選 時	無名塚	志摩郡大王町波切1213—6	宅 地 造 成	8		63. 7	7. 5
	霊山地区遺跡	阿山郡伊賀町下柘植字道山	遺跡範囲確認調査	150		63. 7	7. 5
表 野 館 跡 け	楊枝遺跡	南牟婁郡紀和町楊枝 294	#	46		63. 7	7. 5
## 2	上通り遺跡	伊勢市上地町上中野 1647-1	宅地造成	1,289		63. 7	7. 26
	菱野館跡ほか	阿山郡大山田村平田字野台 1943 社	団体営農道整備	300		63. 7	7. 26
 乗 戸 遺 跡 亀山市栄町柴戸 本 津 遠 跡 亀山市栄町柴戸 本 津 遠 跡 地画 中野 東三 本 東 東	伊勢国分寺跡	鈴鹿市国分町堂跡•西谷	遺跡範囲確認調査	300		63. 8	3
無性 直 協	露越遺跡	多気郡明和町竹川 144-1	宅地造成	180	明和町長 辻 英輔	63. 9	21
無	柴 戸 遺 跡	亀山市栄町柴戸	公 園 造 成	6,940		63. 9). 14
国生発・・ 二重都明日 両生子中合 2438 はか 温齢範囲催認調査 180	木津遺跡	志摩郡磯部町迫間 368—1 ほか	宅 地 造 成	1,141		63. 9	28
大分山5号墳(出) 松阪市岡本町川原表はか	縄生廃寺跡	三重郡朝日町縄生字中谷 2438 ほか	遺跡範囲確認調査	150	水谷光抬	63. 9	19
	宮ノ下古墳群	一志郡一志町其倉 281-3 ほか	宅 地 造 成	800	小畑 長	63. 10	. 1
古墳推定地 伊勢市朝照即果合はか 製売入化施設造成 2000 向井孝治 63 10 27 東垣外古墳群 多気部別和町坂本東垣外1216-1はか 学 校 健 設 3,150 明和町長 辻 英輔 63 11 11 11 24 240	大分山5号墳(动)、	松阪市岡本町川原表ほか	"	1,500	三井貞司	63. 10). 14
前 山 遺 跡 四日市市西松本町 517 ほか 名 地 造 成 240 四日市市教育委員会教育長 岡田久江 会 市教育委員会教育長 同田久江 会 市 教育委員会教育長 同田久江 会 市 教育委員会教育長 会 教育長 会 教育長 会 教育長 宗 生 恵 広 5500 地 市 本 教育委員会教育長 に 大 坂 町 教育委員会教育長 に 大 坂 町 教育委員会教育長 に 大 坂 町 教育委員会教育長 に 大 坂 町 教育委員会教育長 に 大 坂 市 神戸字与市垣内 に 東 道 跡 神市神戸字与市垣内 に 東 道 遠 跡 四日郡伊賀町西之沢字天童 が 900 が 63. 6. 22 中林 博 63. 4. 22 東 海 道 遠 跡 上野市依那具字西田 に 東 宮 圃 場 整 備 1,000 が 63. 5. 2 を ま 整 諸 は か 伊勢寺遺跡はか か 伊勢寺遺跡はか か 伊勢寺町北浦はか が 4,310 が 63. 5. 2 を 対 大 変 達 跡 に か 伊勢寺町北浦はか が 4,310 が 63. 5. 2 を 対 な 仮市伊勢寺町北浦はか が 8,100 が 63. 5. 2 を 対 な が 4,310 が 63. 5. 2 を 対 な が 4,310 が 63. 5. 2 を 対 な が 4,310 が 63. 5. 2 を 対 4,310 が 63. 5. 6 を 対 4,310 が 63. 5. 6 を 対 4,310 が 63. 5. 2 を 対 4,310 が 63. 5. 2 を 対 4,310 が 63. 5. 2 を 対 4,310 が 63. 5. 2 を 対 4,310 が 63. 5. 2 を 対 4,310 が 63. 5. 2 を 対 4,310 が 63. 5. 2 を 対 4,310 が 63. 5. 6 を 対 4,310 が 63. 5. 6 を 対 4,310 が 63. 5. 6 を 対 4,310 が 63. 5. 6 を 対 4,310 が 63. 7. 20 を 対 4,310 が 63. 5. 6 を 対 4,310 が 63. 7. 20 を 対 4,310 が 63. 7. 20 を 対 4,310 が 63. 7. 20 を 対 4,310 が 63. 7. 20 を 対 4,310 が 63. 7. 20 を 対 4,310 が 63. 7. 20 を 対 4,310 が 63. 7. 20 を 対 4,310 が 63. 9. 5 を 対 4,310 が 63. 9. 5 を 対 4,310 が 63. 9. 5 を 対 4,310 が 63. 9. 5 を 対 4,310 が 63. 9. 5 を 対 4,310 が 63. 9. 5 を 対 4,310 が 63. 9. 5 を 対 4,310 が 63. 9. 5 を 対 4,310 が 63. 9. 5 を 対 4,310 が 63. 9. 5 を 対 4,310 が 63. 9. 5 を 対 4,310 が 63. 9. 5 を 対 4,310 が 7 を 対 4,310 が 7 を 対 4,310 が 7 を 対 4,310 が 7 を 対 4,310 が 7 を 対 4,310 が 7 を 対 4,310 が 7 を 対 4,310 が 7 を 対 4,310 が 7 を 対 4,310 が 7 を 対 4,310 が 7 を 対 4,31		伊勢市朝熊町東谷ほか	観光文化施設造成	2,000		63. 10). 27
刑 山 遺 跡 四日市市西松本町 517 ほか	東垣外古墳群	多気郡明和町坂本東垣外 1216-1ほか	学校 建設	3,150		63. 11	l. 11
東 名 城 跡 乗名市吉之丸? 公 園 造 成 500 鈴木聖三 玉城町教育委員会教育長 信 63 12 28 63 12 28 63 12 28 64 66 66 5500 田 丸 城 跡 鹿山市山下町沢 宅 地 造 成 5500 5500 風山市教育委員会教育長 麻生 直 向井孝治 63 12 28 64 60 65 60 65 6500 1 1 12 6 63 62 28 66 60 65 60	前山遺跡	四日市市西松本町 517 ほか	宅地造成	240	岡田久江	63. 12	1 15
田 凡 城 跡 度会郡玉城町田凡114-1 遺跡範囲確認調査 66 岩 12 28 別	桑名城跡	桑名市吉之丸 7	公 園 造 成	500	鈴木聖三	63. 12	2 26
 祝 遺 跡	田丸城跡	度会郡玉城町田丸 114-1	遺跡範囲確認調査	66	岩崎澄雄	63. 12	2 28
# 子 遺 跡 伊勢市中村町子補子 325-24 はか	沢遠跡	亀山市山下町沢	宅 地 造 成	5,500	麻生 直	1. 1	. 12
東市垣内遺跡 本市神戸子与市垣内 県 道 壁 設 2000 中林 博 63. 4. 22 東 海 道 遺跡 応摩郡阿児町国府字東海道 サイクリング道建設 3,100 ル 63. 5. 2 東 海 道 遺跡 上野市依那具字西田 県 営 圃 場 整 備 1,000 ル 63. 5. 2 黒 土 遺跡 多気郡明和町明星字黒土 ル 2600 ル 63. 5. 2 北奥遺跡 ほか 安芸郡芸濃町多門字北奥ほか ル 4310 ル 63. 5. 2 伊勢寺遺跡はか ル 松阪市伊勢寺町北浦ほか ル 8100 ル 63. 5. 2 が 約鹿市三宅町西条 ル 4,170 ル 63. 5. 6 な 協力 ル 4,300 ル 63. 7. 20 宝 垣 内 遺跡 久居市七栗字宝垣内 ル 140 ル 63. 9. 5	桶子遺跡	伊勢市中村町字桶子 325-24 ほか	"	16,000	向井孝治	1. 3	23
東 海 道 遺 跡 志摩郡阿児町国府字東海道 サイクリング道建設 3,100	与市垣内遺跡	津市神戸字与市垣内	県 道 建 設	2,000		63. 4	. 22
小 泉 氏 館 跡 上野市依那具字西田 県 営 圃 場 整 備 1,000	天 童 遺 跡	阿山郡伊賀町西之沢字天童	"	900	"	63. 6	. 22
黒土遺跡 多気郡明和町明星字黒土 // 2600 // 63.5.2 北奥遺跡ほか 安芸郡芸濃町多門字北奥ほか // 4310 // 63.5.2 伊勢寺遺跡ほか 松阪市伊勢寺町北浦ほか // 8100 // 63.5.2 加和良神社遺跡 総庫市三宅町西条 // 4170 // 63.5.6 森脇遺跡 上野市市部字森脇 // 4300 // 63.7.20 宝垣内遺跡 久居市七栗字宝垣内 // 140 // 63.9.5	東海道遺跡	志摩郡阿児町国府字東海道	サイクリング道建設	3,100	"	63. 9	1 12
北奥遺跡ほか 安芸郡芸濃町多門字北奥ほか	小泉氏館跡	上野市依那具字西田	県営圃場整備	1,000	"	63. 5	. 2
伊勢寺遺跡はか、 松阪市伊勢寺町北浦ほか、	黒土遺跡	多気郡明和町明星字黒土	"	2600	"	63. 5	i. 2
加和良神社遺跡 (i か) 森 脇 遺 跡 上野市市部字森脇	北奥遺跡ほか	安芸郡芸濃町多門字北奥ほか	"	4,310	"	63. 5	i. 2
(ほか、 如起 II 三 毛町 四 架	伊勢寺遺跡ほか	松阪市伊勢寺町北浦ほか	"	8,100	"	63. 5	. 2
宝 垣 内 遺 跡 久居市七栗字宝垣内 / 140 / 63. 9. 5		鈴鹿市三宅町西条	"	4,170	"	63. 5	i. 6
五 垣 P3 匾 颇 人后印记来于玉垣P3	森脇遺跡	上野市市部字森脇	"	4,300	"	63. 7	. 20
前川原遺跡 久居市七栗字前川原 1980 163.9.5	宝垣内遺跡	久居市七栗字宝垣内	"	140	"	63. 9). 5
	前川原遺跡	久居市七栗字前川原	"	980	"	63. 9). 5
釜 生 田 遺 跡 一志郡嬉野町釜生田	釜生田遺跡	一志郡嬉野町釜生田	"	4,700	"	63. 9) 12

遺跡名	所 在 地	事業名	面積m)	通知者	受付年月日
伊賀国庁跡ほか	上野市印代	県営圃場整備	5,000	三重県教育委員会教育長 中林 博	63. 9.24
東城遺跡	上野市古郡字東城	"	930	11	63. 10. 14
大鼻遺跡	亀山市太岡寺町	国道1号バイバス建設	11,300	"	63. 4. 11
堀 越 遺 跡	亀山市椿世町	,,	2,400	"	63. 10. 24
牛パサマA遺跡	多気郡多気町野中字牛バサマ	近畿自動車道建設	144	"	63 11 10
牛バサマB遺跡	"	"	368	"	63 11 10
王子谷遺跡	多気郡多気町前村字王子谷	"	192	"	63 11 10
ヒジヤロ遺跡	度会郡玉城町原字ヒジヤロ	"	400	"	63. 11. 10
のせんじ遺跡	度会郡玉城町積良字のせんじ	"	96	"	63. 11. 10
楠ノ木遺跡	度会郡玉城町勝田字楠ノ木	"	2032	"	63. 11. 10
浦ノ内遺跡	度会郡玉城町積良字浦ノ内	11.	192	" "	63 11 10
蚊山遗跡	度会郡玉城町岩出字蚊山	"	768	"	63 11 10
宫地遗跡	度会郡玉城町岩出字宮地	,,	208	"	63 11 10
上ノ垣内遺跡	度会郡玉城町山神字上ノ垣内	"	240	u,	63 11 10
太田遺跡	津市長岡町 太田	中勢道路建設	3,000	"	1 2 1
森山東遺跡	津市長岡町宮ノ前	,,	4,400	"	1 2 1
ナルコ遺跡	多気郡多気町野中字ナルコ	近畿自動車道建設	1,200	"	1. 2. 1
浦ノ内遺跡	度会郡玉城町積良字浦ノ内 ¹⁴⁶¹	"	2,000	"	1. 2. 1
メクサ 3 号墳	津市分部字前田 1204 ほか	学校建設	200	津市教育委員会教育長 田岡草生	1 3. 4

〈法第57条の1による届出〉

遺跡名	所 在 地	事 業 名	面積(m)	届 出 者	受付年月日
奥弁天古墳ほか	阿山郡阿山町円徳院	ゴルフ場造成	650	阿山町遺跡調査会長 北川 弘	63. 4. 1
長楽山遺跡	上野市西明寺字長楽山	厚生年金施設建設	320	上野市遺跡調査会理事長 米澤 昇	63 3 19
森脇遺跡	上野市市部字森脇 741 ほか	道路建設	1,200	"	63. 8. 18
西明寺遺跡	上野市西明寺 3214―2 ほか	火葬 場 建 設	1,000	"	63 8 26
三反田遺跡	上野市佐那具町三反田 993	工場建設	400	"	63. 10. 14
渋 見 岩 址	津市渋見町字城	遺跡範囲確認調査	390	津市教育委員会教育長 田岡草生	63. 10. 28
久保田遺跡	鈴鹿市高岡町	団体営圃場整備	96	鈴鹿市遺跡調査会代表 市川年夫	63. 6. 13
蛸田古墳	鈴鹿市木田町	"	400	"	63 1L 16
一反通遺跡	鈴鹿市上野町壱反通 732 ほか	市道建設	675	"	1 1 12
御墓山古墳東 接 地	上野市佐那具町天王下 1492 ほか	開発の可能性	400	上野市遺跡調査会理事長 米選 昇	1. 1. 17
奧小波田古墳群	上野市下友生奥小波田 191 ほか	宅 地 造 成	1,000	"	1. 1. 31
赤烟城跡	四日市市城東町 257-2 ほか	事務所建設	1,296	四日市市遺跡調査会長 岡田久江	1. 1. 31
上津部田城址	津市一身田上津部田字ルノ坪941ほか	道路建設	1,000	上津部田城址発掘調査団 長 立岡孝夫	1. 2. 10

〈法第57条の2による届出〉

遺跡名	所 在 地	事 業 名	面積(m)	届 出 者	受付年月日
奥弁天古墳ほか	阿山郡阿山町円徳院字口熊谷1501(3)	ゴルフ場造成	1,227,000	日本ゴルフ興業株 代表取締役 北村 守	63. 4. 22
久保田遺跡	鈴鹿市高岡町	団体営圃場整備	55,000	高岡北部地区土地改良区 代表 林 久男	6 3. 6. 13
無名塚	志摩郡大王町波切	宅 地 造 成	8		63. 7. 5
上通り遺跡	伊勢市上地町上中野 1647-1	"	1,289	三重エステート(株) 代表取締役 松田 明	63. 7. 25
木津遺跡	志摩郡磯部町迫間	"	1,141		63. 9. 24
	多気郡明和町竹川宇南裏	"	921		63. 9. 17
石神遺跡	多気郡勢和村色太	工場建設	8.749	大河内林業件的 代表取締役 黄瀬 稔	63 . 10 . 3
宮ノ下古墳群	一志郡一志町其倉 281-3 ほか	宅 地 造 成	16,069	(株) 西浦産業 代表取締役 西浦建樹	63. 10. 12
三反田遺跡	上野市佐那具町三反田 993 ほか	工場建設	2,059	(剤マルタク 代表取締役 尾根山拓三	63. 10. 14
大矢知城跡	四日市市大矢知町小狭間 3203 ほか	宅 地 造 成	3,813	財)四日市市開発公社 理事長 加藤寛嗣	63. 10. 27
蛸田古墳	鈴鹿市木田町	団体営圃場整備	400	河曲西部土地改良区 理事長 西村善博	63. 11. 4
赤塊城跡	四日市市城東町 257-2 ほか	宅 地 造 成	1,296	尾西商事(有) 代表取締役森弘重	63. 12. 20
前山遺跡	四日市市西松本町 517 ほか	マンション建 設	5,947	名鉄不動産(株) 代表取締役 杉山孝雄	63. 12. 20
沢遺跡	亀山市山下町沢	宅 地 造 成	10,000	中部開発的 代表取締役 田島一男	L L 12
石峯古墳群	多気郡明和町池村字戸峯	土 採 取	10,000		1 1 9
穴塚古墳 1 号墳 ほか	四日市市鹿間町穴塚	宅地造成	480		1. 2. 8
真造寺遺跡ほか	四日市市小牧町	土地区画整理	148,000		1 2 15
仁木城跡ほか	度会郡二見町三津	観光施設造成	165,194		1. 3. 22

〈第57条の3による通知〉

遺跡名	所 在 地	事 業 名	面積(m)	通 知 者	受付年月日
長楽山遺跡	上野市西明寺字長楽山 2756-104 ほか	厚生年金施設建設	39,640	上野市長 今中 原夫	63. 4. 2
光於堂遺跡	亀山市中庄町光於堂	学 校 建 設	18,000	癿山市長 今井 正郎	63. 6. 23
納所遺跡	津市納所町養老 524 ほか	事務所建設	1,811	東海農政局中勢用水農業 水利事業所長株屋根義照	63. 6. 20
菱野館跡ほか	阿山郡大山田村平田字野台 1943ほか	団体営農道整備	4,000	大山田村長 福森 和民	63. 7. 23
森脇遺跡	上野市市部字森脇 741ほか	道路建設	12,000	上野市長 今中 原夫	63. 8. 18
西明寺遺跡	上野市西明寺 3214-2 ほか	火葬 場 建 設	7,011	"	63. 8. 22
柴戸遺跡	亀山市栄町柴戸	公 園 造 成	69,000	亀山市長 今井 正郎	63. 9. 12
朝熊山北麓古墳推定地	伊勢市朝熊町字東谷	観光文化施設造成	961,000	伊勢市長 水谷 光男	63. 10. 27
桑名城跡	桑名市吉之丸7	公 薗 造 成	8,957	桑名市長 中川 重哉	63. 12. 26
王子谷遺跡ほか	多気郡多気町ほか	近畿自動車道建設	1,269,000	日本道路公団名古屋建設 局長 荒川 正一	63. 7. 13
小泉氏館跡	上野市依那具字西田	県 営 圃 場 整 備	290,000	三重県知事 田川 亮三	63. 5. 10
黒土遺跡	多気郡明和町明星字黒土	"	220,000	"	63. 8. 3
北奥遺跡ほか	安芸郡芸濃町多門字北奥ほか	"	207,790	"	63. 5. 18

遺跡名	所 在 地	4	\$	——_ 業	名	面積(m)	通	知	者	受付	才年 ,	月日
伊勢寺遺跡ほか	松阪市伊勢寺町北浦ほか	県	営品	場	整備	400,000	三重県知事	田川	亮三	63.	5.	25
加和良神社遺跡 ほか	鈴鹿市三宅町西条			"		347,700		"		63.	5.	6
森脇遺跡	上野市市部字森脇			"		71,960		"		63.	8.	1
宝垣内遺跡	久居市七栗字宝垣内			"		111,000		"		6 3.	9.	1
前川原遺跡	久居市七栗字前川原			"		93,000		"		63.	9.	1
釜生田遺跡	一志郡嬉野町釜生田			"		63,460		"		63.	9.	19
伊賀国庁跡ほか	上野市印代			"		330,000		"		63.	9.	29
東城遺跡	上野市古郡字東城			"		5,200		"		63.	1 0.	14
与市垣内遺跡	津市神戸字与市垣内	県	道	躄	設	2,000		"		63.	5.	20
四ノ切城跡	名張市蔵持町原出字四ノ切ほか			"		176,000		"		63.	5.	20
川北遺跡	"			"		176,000	j	"		63.	5.	20
天童遺跡	阿山郡伊賀町西之沢字天道			"		6,000		"		63.	5.	2
鳥戸遺跡ほか	松阪市伊勢寺町			"		6,900		"		6 3.	7.	1
一反通遺跡	鈴鹿市上野町壱反通 732 ほか	市	道	建	設	675	鈴鹿市長	衣斐	賢譲	1.	1.	12
奧小波田古墳群	上野市下友生奥小波田 220 ほか	宅	地	造	成	2,500,000	上野市長	今中	原夫	ı	1.	26
メクサ3号墳	津市分部字前田 1204 ほか	学	校	建	設	4,382	津市長	岡村	初博	1.	2	28
桶子遺跡	伊勢市中村町字桶子 325-24 ほか	宅	地	造	成	16,000	伊勢市長	水谷	光男	1	3.	23

付〔10〕 〔三重県埋蔵文化財認定通知物件〕

重		# ## ##	÷	加工在日日	#	十老品加米	坦阿姆相配	文	庁
	4	Ė	1	HT+70	ĸ	L/80/1734	36米目 4871	文書番号	B H
ĽÓ	2	須恵器、土師器、山茶鶴、土錘、木簡、下駄等整理第35組	四日市市中川原 2 丁目 1267	63.413	四日市市遺跡調査 会長 岡田久江	尾西商事衔	四日市市教 育委員会	委保第5の393	63.4.7
	9.2.7 五	五勳459 基	四日市市川島町字白山 1444	63. 9. 8	四日市市教育委員会教育長岡田久江	四日日	四日市市教育委員会		
Ci .	63.10.7 損	賃銭2枚、須惠器16、土師器74、 塑像仏59片、場仏断片15	名張市夏見 2365	63. 9.22	名張市教育委員会 教育長 福森 毅	数集	名張市教育 委員 会		
A)	6312 1 杯	杯(土師器・須恵器)、黒色土器、 高杯(土師器・須恵器)、童(土師器 ・須恵器)、トンボ玉、耳環、かめ、 煙瓶、鉄製品、土器片多数	阿山郡阿山町大宇円御院宇農井天藤六谷	6311 7	阿山町遺跡調査会長 北川 弘	日本ゴルフ 工業等	阿山町役場	委保第5の 938号	63. 7.2 1
	1 124 須	須惠器 4	四日市市水沢茶屋町 4066	64. 1. 4	四日市市教育委員 会	来 田 一	四日市市教 育委員会		62. 928
~	213 職	藏骨器、土師器、瓦、五輪塔、古銭等 整理発15角	名資郡青山町寺脇宇安田 795	1 125	青山町教育委員会 教育長 上出寿照	青山町寺閣区	青山町公民館	62 委保記第 2-2834 号	62. 928

追加資料

(建設省・道路公団関係調査遺跡)

事業者	事	業	名	遺	跡	名	所	在	地	面	積	措	置	備	考
建設省	一般	国道 2	3号	森山	山東遺	遺跡	津市:	長岡町・	安東町	7,50	00 m²	発	掘	2 遺	遺跡
	中勢	道路		太日	日遺跡							調	查		

木山市場時	一般国道23号	県教委・津市教委	S63.8.1~	4 9902
森山東遺跡	中勢道路建設事業	(増田安生·和気清章)	H1.3.15	4,230 m ²

森山東遺跡は、行政上津市長岡町に属し、現況は標高 7~8m の水田である。上層 4,230 ㎡、下層 3,000 ㎡を発掘調査した。便宜上、美濃屋川流水路付近をA地区とし以下南に、B・C・D地区を設定した。A地区北辺において平安時代末~鎌倉時代の掘立柱建物数棟を検出し、各時代にわたり流路が変化した美濃屋川旧流水路が確認された。流水路遺物として幕末期かと思われる阿漕焼銚子、椀がある。

B地区では、古墳時代後期溝、条理溝と推定される幅 4mの東西溝、3間×2間の掘立柱建物約十棟あまりの掘立柱建物群、付属施設かと考えられる土坑群等が検出された。

下層遺構では、伊勢平野部での最初の発見となった弥生時代小区画水田がある。当初C地区において逆L字状に伸びる大畦畔に限られる水田及び足跡を検出した。次いでB・D地区を発掘し、総面積3,000㎡中に、一辺3~4mの小区画水田が284面確認された。

十四海時	一般国道23号	県教委・津市教委	S63.8.1~	0.400 - 2
太田遺跡	中勢道路建設事業	(浅生悦生·油田秀紀)	H1.2.10	3,400 m²

太田遺跡は森山東遺跡の南に続くもので、現況は標高 7.2mの水田地域。中勢道路敷地内の遺跡面積は約 8,000 ㎡におよぶが、遺跡・遺物などが希薄な地域はトレンチ調査区としたので、3,400 ㎡を発掘調査した。

遺跡の北半分(A地区)では、現水田面下約1mから旧自然流水路(幅15m・深さ2m)が発見され、多量の弥生時代中期~古墳時代後期の土器、木製品、銅鐸形土製品などが出土した。また、旧自然流水路の外側の下層調査ではヨシ束を人工的に敷いた状態の溝状遺構も検出された。遺物は、土師台付甕、高杯、小型丸底壺の出土が多い。銅鐸形土製品は県下2例目で、鈕と鐸身1/2欠失するが残りは良い。狭鍬、組合せ鋤、堅杵、槌などの農耕具の他、杭や壁板・梯子などの建築材などに貴重ものがある。

南半分のB地区は、砂質化した自然堤防的な所にあり、かなり削平されており遺構は少なかった。古墳時代の溝数条と、柱穴が検出された。

調査遺跡は、沖積低湿地を南北に横切るもので、集落と低湿地との関係を知る上で貴重な遺跡である。

三重県教育委員会



○ 文化振興課

津市広明町13 三重県庁内7階

(電) 0592-24-2987(文化財保護係)

○三重県埋蔵文化財センター

多気郡明和町竹川503

(電) 05965-2-3800(代)

一般国道1号亀山バイパス埋蔵文化財発掘調査整理所 亀山市和田町字西野1278-9

(電) 05958-2-2581

• 中勢道路埋蔵文化財発掘調査整理所

津市殿村 5 津市水道局地内

(電) 0592-37-1914

• 近畿自動車道埋蔵文化財発掘調査整理所

度会郡玉城町勝田2837-1

(電) 059658-4520

• 埋蔵文化財倉庫

 桜橋
 津市桜橋2丁目
 (電)
 0592-27-2465

 藤方
 // 藤方2283-1
 (電)
 0592-24-4560

 上野
 上野市丸之内117
 (電)
 0595-24-0079

 嬉野
 一志郡嬉野町川北530
 (電)
 05984-2-4802

 松阪
 松阪市丹生寺町630
 (電)
 0598-58-0283

○斎宮歴史博物館

多気郡明和町竹川503

(電) 05965-2-3800(代)

